

西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第18集

新立遺跡

平成3年度公営墓地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

1992・3

宮崎県・西都市教育委員会

序

西都市には国内でも最大級とされる特別史跡・西都原古墳群をはじめ、奈良時代に置かれた日向国府跡（推定）や日向国分寺跡・同尼寺跡が保存され、さらに、市内各所には縄文時代や弥生時代の古代遺跡が点在しています。しかし、近年の諸開発によって失われていく遺跡も少なくありません。

このような現状の中で、西都市教育委員会は開発行為の事前に発掘調査を実施し、記録保存の措置を積極的に進め、あわせて史跡等の保存にも努力いたしております。

本書は、西都市環境衛生課の委託を受けて実施した、公営墓地造成工事に伴う発掘調査の結果報告であります。

調査の結果、縄文時代早期の集石遺構29基をはじめとして弥生時代終末から古墳時代初頭の住居跡20軒が検出され、また、それに共伴して縄文土器や弥生から古墳時代初頭の土器などの遺物が多量に出土いたしました。これらの遺構や遺物は西都原古墳群が築造される直前の文化遺産で、これらのことによって、西都原古墳文化以前の歴史が餘々にではありますが解明されました。

この報告書が、専門の研究だけでなく、社会教育や学校教育の面にも広く活用されると共に、埋蔵文化財に対する理解と認識が得られれば幸いと存じます。

なお、調査にあたってはご指導・ご協力いただいた県文化課・市環境衛生課をはじめ、発掘調査に際しましては緒方吉信氏並びにたずさわっていただいた方々、また、地元の方々より厚く御礼を申し上げます。

平成4年3月31日

西都市教育委員会

教育長 平野 平

例　　言

1. 本書は、公営墓地造成工事に伴い、平成3年度に実施した新立遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、西都市環境衛生課の依頼を受けて、西都市教育委員会が実施した。
3. 調査組織は、次のとおりである。

調査主体　西都市教育委員会

教育長　平野　平

社会教育課長　清　郁男

同文化財係長　伊達　博敏

調査員　日高正晴（西都原古墳研究所長）

養方政幾（主　事）

補助調査員　緒方吉信

調査作業員　篠原時江・黒木トシ子・長谷川クミエ・藤原秋子・緒方タケ子

佐伯民孝・関屋敏子・椎葉智佐子・長友敏子・横山ヨシ

押川ツル・関屋ヨシ子・福田頼子

黒川種秋・椎葉重満

整理作業員　福田頼子

4. 遺物の実測・トレース・図面の作成は福田と養方が行った。
5. 本書の執筆はIV.まとめを日高、その他執筆及び編集は養方が行った。
6. 本書に示す方位は磁北である。
7. 土層・土器の色調は農林省水産技術会議事務局監修の標準土色帖による。
8. 本調査による出土遺物は、西都市歴史民俗資料館に保管し展示される。

本文目次

I.はじめに	9
第1節 調査に至る経緯	9
第2節 遺跡の位置と歴史的環境	10
第3節 遺跡確認調査（試掘調査）	11
II.調査の概要	12
III.遺構と遺物	14
1. 縄文時代の遺構と遺物	14
2. 弥生時代終末から古墳時代初頭の遺構・遺物	28
3. 古墳時代以降の遺構と遺物	91
4. 時代不明の遺構	93
IV.まとめ	95

挿図目次

第1図 遺跡位置図	6	第15図 2号住居址実測図	34
第2図 遺跡周辺地形図	7	第16図 2号住居址出土遺物実測図・拓影	35
第3図 新立遺跡基本土層図	13	第17図 2号住居址出土遺物実測図・拓影	36
第4図 集石遺構及び遺物検出状況図	15	第18図 2号住居址出土遺物実測図・拓影	37
第5図 1号～6号集石遺構実測図	18	第19図 2号住居址出土遺物実測図・拓影	38
第6図 7号～12号集石遺構実測図	19	第20図 3号・4号住居址実測図	40
第7図 13号～19号集石遺構実測図	20	第21図 3号・4号住居址出土遺物実測図	41
第8図 20号～29号集石遺構実測図	21	第22図 5号住居址実測図	42
第9図 縄文土器実測図・拓影	25	第23図 6号・7号住居址実測図	44
第10図 縄文土器実測図・拓影	26	第24図 5号・6号住居址出土遺物実測図	45
第11図 縄文土器・石器実測図	27	第25図 7号住居址出土遺物実測図・拓影	46
第12図 遺構分布図（アカホヤ火山灰層面）	29	第26図 8号住居址実測図	47
第13図 1号・20号住居址実測図	31	第27図 8号住居址出土遺物実測図	48
第14図 1号・20号住居址出土遺物実測図	32	第28図 9号住居址実測図	50

第29図 9号住居址出土遺物実測図	50	第45図 16号住居址実測図	67
第30図 10号住居址実測図	51	第46図 16号住居址出土遺物実測図・拓影	68
第31図 10号住居址出土遺物実測図・拓影	52	第47図 16号住居址出土遺物実測図	69
第32図 10号住居址出土遺物実測図	53	第48図 17号住居址実測図	70
第33図 10号住居址出土遺物実測図・拓影	54	第49図 17号住居址出土遺物実測図・拓影	71
第34図 10号住居址出土遺物実測図	55	第50図 18号住居址実測図	72
第35図 11号住居址実測図	57	第51図 18号住居址出土遺物実測図	73
第36図 11号住居址出土遺物実測図	58	第52図 19号住居址実測図	74
第37図 12号住居址実測図	59	第53図 19号住居址出土遺物実測図	75
第38図 12号住居址出土遺物実測図・拓影	59	第54図 柱穴・柱穴川土遺物実測図	78
第39図 12号住居址出土遺物実測図	60	第55図 一括・木軸・轆轤(複数)・轆轤(複数)・(武豊新石器時代)出土遺物実測図	79
第40図 13号住居址実測図	62	第56図 方形状土坑実測図	91
第41図 14号住居址実測図	63	第57図 方形状土坑出土遺物実測図	92
第42図 13号・14号住居址出土遺物実測図・拓影	64	第58図 堀立建物実測図	93
第43図 15号住居址実測図	65	第59図 組石(配石)遺構実測図	93
第44図 15号住居址出土遺物実測図・拓影	66	第60図 円形土坑実測図	94

表 目 次

表 1 集石遺構一覧表	16
表 2 繩文土器観察表	23
表 3 石包丁計測一覧表	76
表 4 弥生終末～古墳初頭土器観察表	80

図 版 目 次

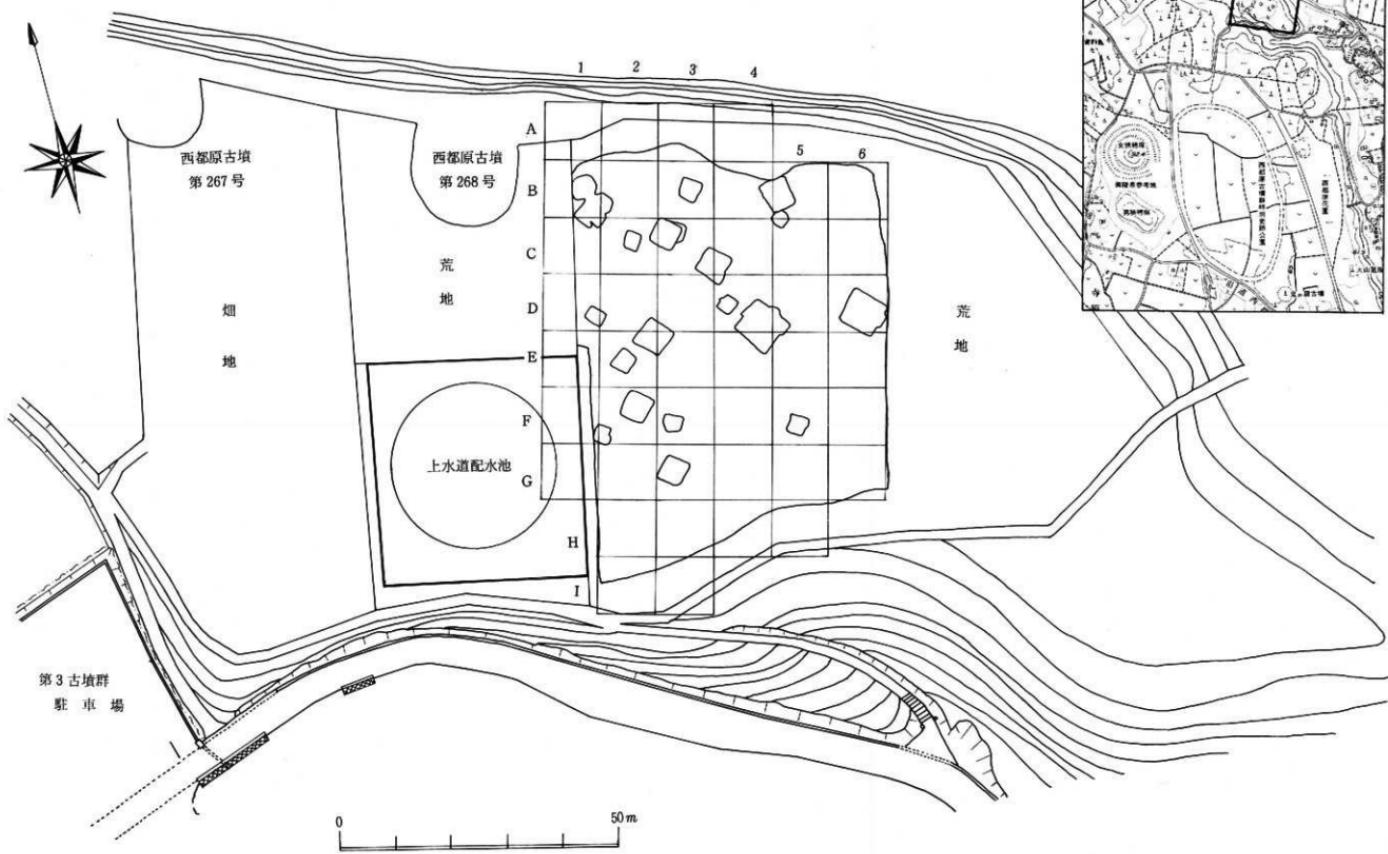
図版 1 新立遺跡遠景・基本土層・1号～5号集石遺構検出状況	103
図版 2 6号～11号集石遺構検出状況	104

図版3	12号～20号集石遺構検出状況	105
図版4	21号～29号集石遺構検出状況・集石遺構分布状況	106
図版5	出土遺物（縄文土器・石器）	107
図版6	住居址分布状況・1号・20号・2号住居址検出状況	108
図版7	2号～10号住居址検出状況	109
図版8	10号～15号住居址検出状況	110
図版9	16号～19号住居址検出状況	111
図版10	遺構分布状況・方形状土坑・円形土坑検出状況	112
図版11	出土遺物（1号・20号・2号住居址）	113
図版12	出土遺物（2号・3号・4号住居址）	114
図版13	出土遺物（5号～9号住居址）	115
図版14	出土遺物（10号住居址）	116
図版15	出土遺物（10号～12号住居址）	117
図版16	出土遺物（12号～14号住居址）	118
図版17	出土遺物（15号～17号住居址）	119
図版18	出土遺物（18号～19号住居址・一括など）	120



遺跡番号	遺跡名	遺跡番号	遺跡名	遺跡番号	遺跡名
1001	西都原古墳群	1011	上宮古墳	1021	童子丸遺跡
1002	清水西原古墳群	1012	上宮城跡	1022-102	上湖古墳
1003	上ノ原遺跡	1013	三宅城跡	1025	石實遺跡
1004	寺山遺跡	1014	諏訪遺跡	1026	原口遺跡
1005	清水遺跡	1015	酒元遺跡	1027	寺原遺跡
1006	下尾筋遺跡	1016	堂ヶ島遺跡	1028	丸山遺跡
1007	上尾筋遺跡	1017	寺崎遺跡	1029	西都原遺跡
1008	日向國分寺跡	1018	上妻遺跡	3001	松本塚古墳
1009	國分遺跡	1019	經塚	3002	松本遺跡
1010	上宮遺跡	1020	法元遺跡	3008	三納古墳群

第1図 遺跡位置図



第2図 遺跡周辺地形図

I. はじめに

第1節 調査に至る経緯

西都市環境衛生課では、西都市が経営している白馬墓地と上の宮墓地794基の全基の貸し付けが終了し、余地が1基もないこと、また、市民の強い要望から墓地建設の計画がなされた。そこで、都於郡・三財・三納・穂北の各地区を模索したが、市営墓地を利用されるのは市街地の方が中心で、次のような条件 ①市街地からあまり離れていないこと。②ある程度の面積を有することを充たす適地がなく、最終的に西都原北東部の舌状に張り出した台地（新立）に設定し、昭和61年10月用地買収交渉に着手、同年12月に8筆、面積6,832m²の売買契約が締結された。

しかし、西都原の風致保存については、宮崎県知事・宮崎県教育長・西都市長・西都市教育長の4者で確認（確認書）されており、この確認書の第4項に「西都原に関して定期的に又は必要に応じ関係機関の協議会を開き意見の統一をはかる。」とあり、西都原に関したことについてはこの協議会（西都原協議会）の意見の統一によって進められていることから、売買契約はすでに締結されているものの、この墓地計画について協議されることとなった。

協議の結果、西都原の一角の重要地域であり、現状保存できないものかとの意見もでしたが、すでに墓地として購入しており、計画変更が困難であるため、建設の際は周りに樹木を植栽し見えないように配慮すること、周知の埋蔵文化財包蔵地であり事前調査が必要であるなどの意見の統一をみた。しかし、本申請地に隣接して西都原古墳群が点在しており重要地域であること、また、県公園条例に基づく特別地域の境界地域ともなっていることもあって継続審議となつた。

協議を重ねるなかで、西都原古墳群第268号の南側申請地は指定地番であることから、緑地にして保存することとなり、また、特別地域か普通地域かの問題については区域外であることが確認されたが、西都原は重要地域であることから遺跡確認調査（試掘調査）を実施し、そのとき文化庁調査官を招聘、再度協議することとなった。

遺跡確認調査（試掘調査）は西都市教育委員会によって平成2年1月17日から同年2月7日まで実施し、結果、弥生時代終末から古墳時代初頭の住居址7軒とそれに伴う土器群・縄文土器や礫群が検出された。この時点で、文化庁調査官を招聘、協議を行つた。

その結果、他の開発事業に影響を及ぼすことも考えられるが、本墓地建設事業については西都市の判断にまかせることであり、西都市は、墓地であることから他の開発への影響は無く、しかも、墓地を建設することにより隣接した古墳の一体的な整備が可能であり風致保存にも影響を及ぼす行為とは考えられないことから事業を実施すること

となり、事前調査を担当課の環境衛生課からを西都市教育委員会に依頼がなされた。この段階で、緑化などの諸事情により面積が3,970m²に計画縮小され、その全面の発掘調査を実施することとなった。

調査は、依頼を受けて西都市教育委員会が実施し、平成3年5月16日に着手、同年10月16日に終了した。

第2節 遺跡の位置と歴史的環境

西都市街地の西方には標高50～80mの岬様の通称西都原と呼ばれる台地がある。台地上には柄鏡式を含む前方後円墳30基・方墳1基・円墳278基の大小古墳で構成された特別史跡・西都原古墳群が点在し、古代日向国の中心地として華やかな文化の栄えた地域である。また、南九州独特の埋葬形態を有する地下式墳も10数基確認されている。

この西都原台地の中央部には、明治28年12月4日・陵墓参考地として治定を受け、特別史跡・西都原古墳群には含まれない男狹穂塚・女狹穂塚の2基の巨大古墳がその偉容を誇っている。男狹穂塚（全長217m・高さ18m）・女狹穂塚（全長174m・高さ15m）はともに九州随一の規模を誇る前方後円墳で、10.5ヘクタールの静肅な照葉樹林に囲まれた森に保存されている。

その他特色ある古墳として男狹穂塚の西側には大正時代の学術的な発掘調査によって、重要文化財指定の舟形埴輪と子持ち家形埴輪を出土した169号墳があり、女狹穂塚の南東50mには西都原古墳群で唯一横穴式石室を有し、まわりには全国的にも稀有な土壙を巡らす鬼の窟古墳（円墳）がある。

西都原台地は周りを標高約50程の中間台地が取り囲んでいるが、その南側中間台地には奈良時代に建立された一国一寺の日向国分寺・同尼寺跡が保存され、また、東側中間台地では平成2年度実施された遺跡所在確認調査において寺崎遺跡から律令時代の遺構とともに多量の古代瓦等の遺物が出土し、一説によると日向国府の推定地ともなっていることから、歴史的に価値の高い地域となっている。また、平成元年度実施された尾筋地区の遺跡所在確認調査においては弥生時代を中心とした集落跡が確認され、昭和63年度平田・童子丸新設道路に伴う発掘調査においては古墳時代中期中葉から後葉、つまり、男狹穂塚・女狹穂塚が構築された時期頃の集落跡が検出され、そうゆう意味からもこの中間台地は重要地域として注目される。

さて、本遺跡はその西都原台地の北東端、舌状に突出した台地縁辺部に位置し、調査地の西側には円墳（西都原古墳群第268号）が隣接し、また、その西側50mにも円墳（西都原古墳群第267号）が点在している。さらに、その円墳の西側40mにも円墳（西都原古墳群第266号）点在しているが、この円墳は西都原風土記の丘との境界となっている。

眼下には穂北平野が広がり、その北部を一ツ瀬川が東流し、周辺の水田地帯を潤している。また、一ツ瀬川を隔てた対岸茶臼原台地上には国指定・茶臼原古墳群55基が展開し、さらに、同斜面には横穴式石室を有する国指定千畳古墳や千畳・圓・上江等各横穴墓が分布している。

本遺跡は地形的には北側が断崖、南側と東側がなだらかに傾斜した平坦地で、近くには湧き水を有し、集落を形成するうえでは好条件に恵まれた地域である。

第3節 遺跡確認調査（試掘調査）

本遺跡は本調査に先立って平成2年1月27日～2月7日の12日間実施している。調査は地形にあわせて南北に6本、東西に3本の計9本のトレンチを設定し、アカホヤ火山灰層を基準とした遺構などの確認を重視して行った。

調査の結果、遺構としてアカホヤ火山灰層面で住居址7軒・土坑5基（円形プラン3基・長方形プラン1基・不定形プラン1基）・柱穴群、また、所々に設定したアカホヤ火山灰下層確認トレンチから焼跡などを検出している。

遺物は弥生土器を主体に縄文土器・土師器・須恵器・石器などが出土している。弥生土器は住居址及び周辺を中心に口縁部が「く」字状に外反し、丸底を呈した深鉢などで、復元可能なものも含まれている。

縄文土器は量的には少ないものの、アカホヤ火山灰層下層の黒褐色ローム層から早期の押型文土器・貝殻条痕文土器系吉田式土器・平柄式土器、アカホヤ層上層から前期の曾畠式土器、後期の精製浅鉢などが出土している。

石器は石斧・石包丁・すり石が出土している。石斧は打製・磨製両方出土しているがなかでも注目されているのは有肩打製石斧がトレンチ調査にもかかわらず4点も出土していることである。このことによって、調査時には相当量の有肩打製石斧が出土すると想定されたが、結果的にはわずか3本出土したのみで、想定とは相反していた。石包丁は長軸側に抉りのある長方形のもので半折損していた。

以上、トレンチ調査にもかかわらず数多くの遺構・遺物が確認され、全面でアカホヤ火山灰層の上下2層の本調査を実施することになった。

II. 調査の概要

本調査は試掘調査の結果、アカホヤ火山灰層面で弥生時代終末～古墳時代初頭と推定される住居跡7軒及びそれに伴う弥生土器などの遺物、アカホヤ火山灰下層で縄文土器や焼砾などが確認されたので、墓地造成工事が実施される部分3,970m²について全面の発掘調査を行った。

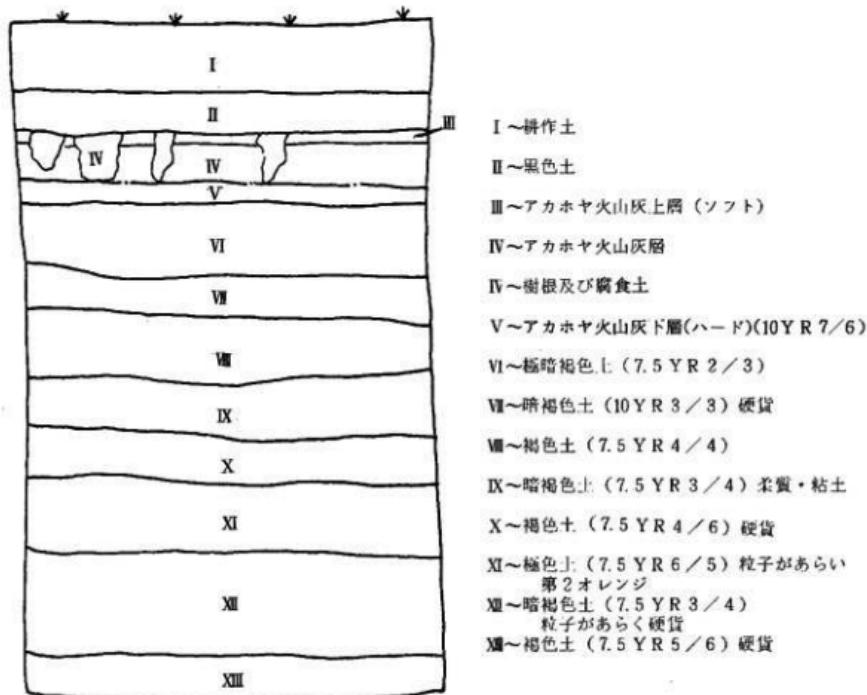
調査地は栗や雑草などが繁っており、伐採終了後、試掘調査結果をもとにアカホヤ火山灰層直上まで重機による土除去作業を行った。この重機掘削作業と併行して北側から順次作業員によるアカホヤ火山灰層面での遺構・遺物の検出作業を実施した。この作業は、木根や雑草の根茎のために難行したが、この段階で、住居址20軒程と土坑・土壤・柱穴などが確認された。なお、調査地の南西部については、すでにアカホヤ火山灰層が削平されており、この段階で礫群及び集石遺構が露出していた。

確認後、地形に合わせて10m×10mのグリッドを設定し、東西を1～6区、南北をA～1区とした。そして、まずは住居址から検出することとなり、1号から順次検出を行った。結果、2号から大型の壺や櫛描波状文を有する高環、10号住居址から大型の二重口縁を有する細長壺などバラエティーに富んだ土器群や各住居址からも多量の土器が出土し、また、有肩打製石斧や石包丁などの石器も出土した。住居址検出終了後、土壤・土坑・柱穴などの検出を行った。結果、F-3区台付（蓋坏）の坏を出土する奈良～平安時代と推定される方形土壤や底面に組石が施されてある方形土坑などが検出された。これらの遺構・遺物の実測、全体の平板実測・写真撮影でアカホヤ火山灰層面での調査を終了したが、この時点で、調査担当の私が目の病気にかかり安静が必要であることから調査が続行不可能となった。そこで、西都市で文化財係を20年以上も担当され、現在西都市文化財保存調査委員の緒方吉信氏に調査を依頼、引き受けていただき続行する運びとなった。ここで、紙面ではありますが、担当としてご協力いただき、感謝申し上げたい。次に、再び重機によりアカホヤ火山灰層を除去、下層の黒褐色ローム層で確認されている礫群及び集石遺構の調査に入った。重機は礫が確認された段階で止め、そこから作業員により精査を行った。結果、集石遺構29基と縄文早期の土器を検出した。集石遺構は掘込みを有するタイプと有しないタイプに分かれ、ほとんどの集石遺構が角礫で構成されている。

本遺跡の基本土層は、第Ⅰ層が表土、第Ⅱが黒色土、第Ⅲ層がアカホヤ火山灰上層、第Ⅳ層がアカホヤ火山灰下層、第Ⅴ層が極暗褐色土、第Ⅵ層が暗褐色土、第Ⅶ層が褐色土、第Ⅷ層が暗褐色土、第Ⅸ層が粒子のあらい橙色を呈した第2オレンジ層となっている。南西部を除いて全体的にアカホヤ火山灰層の残存し、以下土層の残存状況は良好で

ある。

これらの詳細については後述するとして、弥生時代から古墳時代の住居址の発見によつて今まで不明な点多かった西都原古墳が築造される直前の歴史が僅かではあるが解明され、さらに、集石遺構の検出によって当地域周辺においても古来より生活が営まれていたことが確認されたことなどは大きな成果であった。



第3図 基本土層図

III. 遺構と遺物

1. 縄文時代の遺構と遺物

(1) 遺構（第4～8図）

縄文時代の遺構は、調査地の北東・南東・南西部を中心にアカホヤ火山灰下層の極暗褐色土（第V層）から集石遺構29基が検出されている。

集石遺構（第4～8図）

集石遺構の分布については前述したように北東・南東・南西部を中心に点在しているが、散疊群については北東部と中央部に限られている。西都市内においては、このように全体的に集石遺構上面で散疊群が検出されないケースと全面に検出されるケースがあり、前者は寺山遺跡・串木第2遺跡など、後者は中原遺跡などがあげられる。

集石遺構は5～55cmの疊が円形ないし梢円形状に集積され、砂岩の角疊が多く使用されている。また、熱のため赤変した疊も多く、炭化物も確認されている。

集石遺構は形態的及び特色などから次のように分類される。

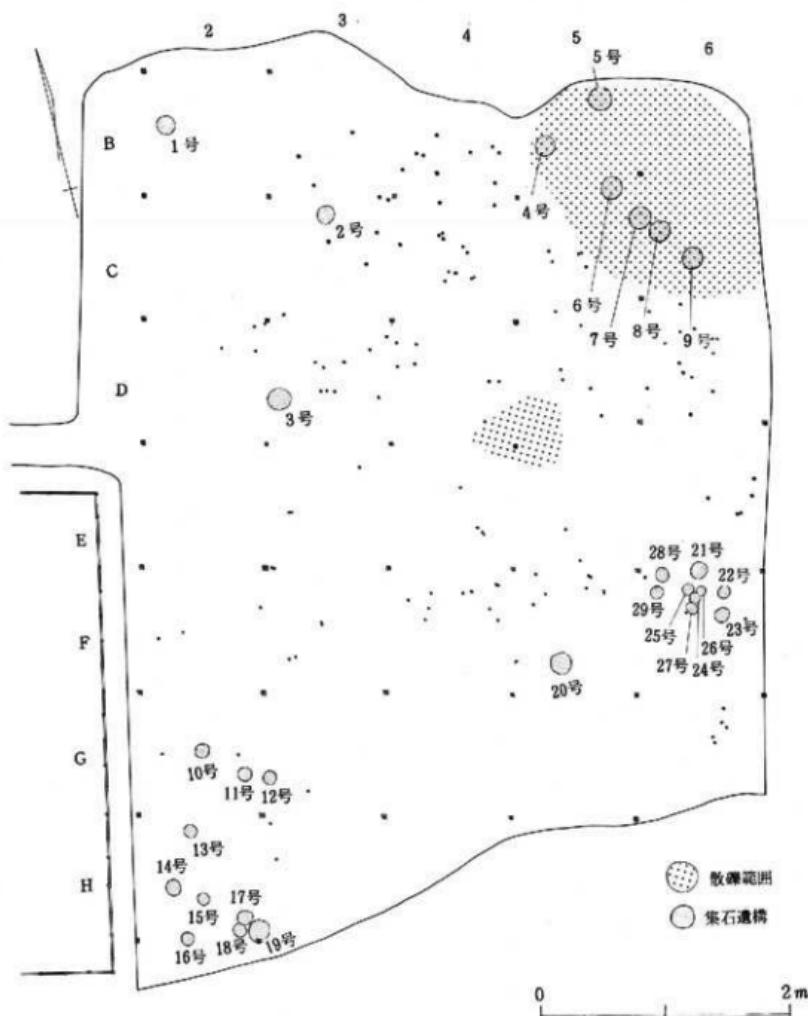
I類～掘込みの径が2m前後のもので、掘込み断面がU（V）字状を呈する円形プランのものである。（7号・21号）また、底部には配石を有している。7号集石遺構はC-5区、21号集石遺構がF-6区から検出されたもので、疊が無規則に集積されている。集積の状態は7号集石遺構が粗で、21号集石遺構物が密である。

II類～掘込みの径が2m前後のもので、掘込み断面が凹レンズ状を呈する円形プランのものである。（9号・19号・20号）底部には配石を有せず、掘込み内に密に10cm前後の疊が集積されている。なかでも20号はH-2・3区から検出された本遺跡最大のもので、径2.35mを計る。

III類～掘込みが1～1.5m前後のもので、掘込み断面がU（V）字状を呈する円形プランのものである。（1号）底部には配石を有せず、掘込み内には密に10cm前後の疊が集積されている。

IV類～掘込みが1～1.5m前後のもので、掘込み断面が凹レンズ状を呈する円形プランのものである。（2号・4号～6号・8号・10号～12号・14号・17号・18号・22号・23号・25号・29号）本遺跡の半数がこのIV類に含まれるが、さらに、IV類は集積の状態によって2つに分類される。

- a～疊が中央部に密に集積されるもの（2号・8号・10号～12号・23号・29号）
- b～疊が散乱的に粗であるもの（4号～6号・17号・18号・22号・25号・29号）



第4図 集石遺構及び遺物検出状況図

V類～掘込みが1m以下のもので、掘込み断面が凹レンズ状を呈する円形プランのものである。（15号・16号・24号・26号～28号）このV類もIV類同様集積の状態によって2つに分類される。

- a ～ 磚が中央部に密に集積されているもの（15号・16号・24号）
- b ～ 磚が散乱的に粗であるもの（26号・28号）

VI類～掘込みを有しない円形プランのものである。（3号・13号・14号）3号はわりと密に集積されているが、14号は散乱状態で、13号にいたっては大小9個の磚が配されているのみで、集石遺構とは考えにくいが、掘込みを有することや13号を含めた周辺がアカホヤ火山灰層が削平された状態（アカホヤ火山灰層面での調査時点で露出）で検出されすでに上部が取り除かれたことなどを考慮して一応集石遺構とした。

以上、集石遺構を形態や特色によってVI類に分類したが、共伴遺物は1号・4号・5号・7号・8号・21号・24号・28号・29号から、貝殻条痕文土器3点を含むヨコナデあるいはナデ調整された無文土器約60点程が出土している。その他アカホヤ火山灰下層の土器として押型文土器・貝殻条痕文系土器（吉田式土器）・平柄式土器などが出土しているが集石遺構内には混在していない。これら土器群のレベル的な相連関係については把握できなかったが、集石遺構との平面的な関係については把握できた。

よって、集石遺構の編年については、今後相対関係など検討が必要であるが、現時点は無文土器を伴う時代、早期の中でも古い時代に位置づけられよう。

表1-1 集石遺構一覧表

単位(m)

図面 番号	遺構 番号	規 模		出土遺物	図面 番号	遺構 番号	規 模		出土遺物						
		長軸	×短軸				長軸	×短軸							
第5図	1	1.50	×	1.45	×	0.3	無文土器・石磚	第5図	4	1.55	×	1.47	×	0.14	無文土器
"	2	1.17	×	(1.06)	×	0.16		"	5	1.62	×	1.59	×	0.12	無文土器
"	3	1.60	×	1.57				"	6	1.64	×	1.50	×	0.12	

表1-2 集石遺構一覧表

単位(m)

図面 番号	遺構 番号	規 模 長軸×短軸×深さ	出土遺物	図面 番号	遺構 番号	規 模 長軸×短軸×深さ	出土遺物
第6図	7	1.88×1.72×0.31	無文土器・石器など	第7図	19	1.85×1.81×0.40	
"	8	1.56×1.56×0.14	縄文土器・無文土器	第8図	20	2.35×2.30×0.17	
"	9	1.86×1.65×0.21	無文土器・打製石器	"	21	1.94×1.84×0.30	無文土器
"	10	1.17×1.05×0.16		"	22	1.40×1.25×0.10	
"	11	1.12×1.05×0.12		"	23	1.48×1.22×0.17	
"	12	1.18×1.06×0.13		"	24	0.98×0.95×0.10	縄文土器・無文土器
第7図	13	1.68×1.60		"	25	1.08×1.06×0.09	
"	14	1.20×1.18		"	26	0.70×0.68×0.07	
"	15	0.93×0.85×0.16		"	27	0.72×0.68×0.08	
"	16	1.00×0.92×0.16		"	28	0.92×0.90×0.12	無文土器
"	17	1.35×1.23×0.09		"	29	1.16×1.10×0.14	無文土器
"	18	1.40×1.06×0.11					

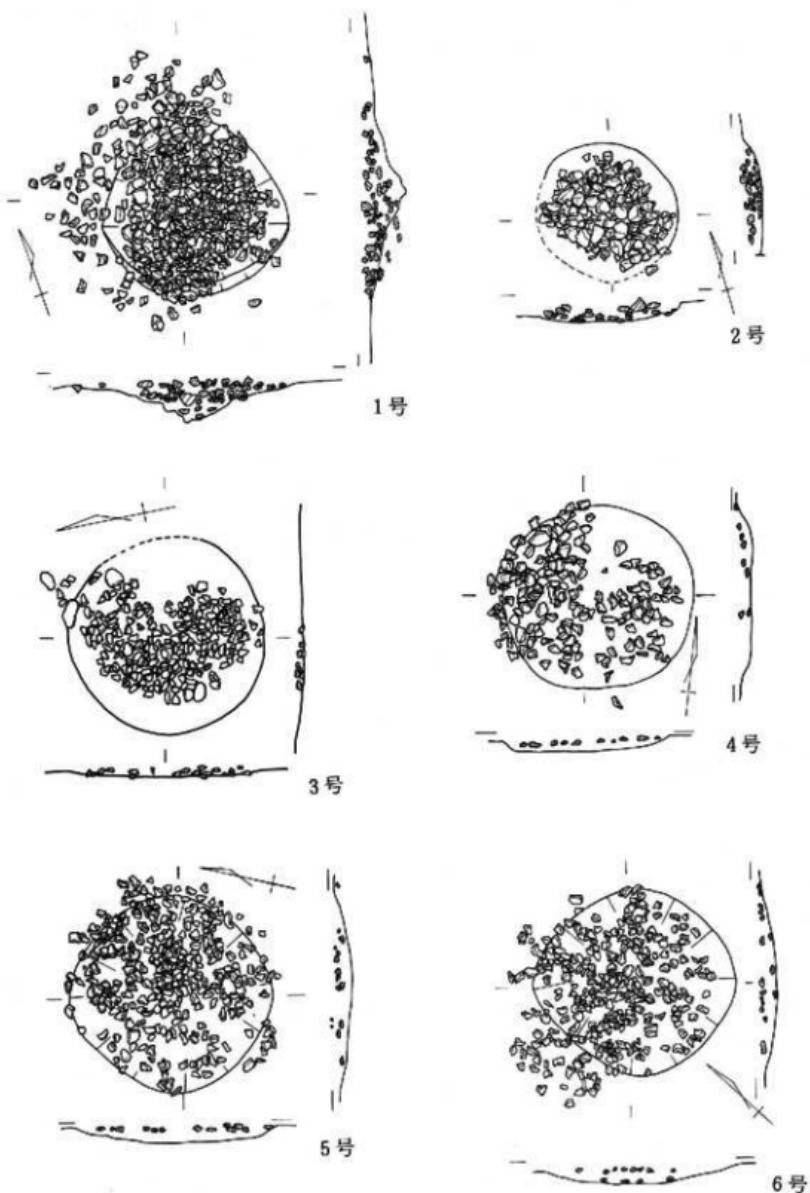
(2) 遺 物 (第9~11図)

縄文土器 (第9~11図 1~40)

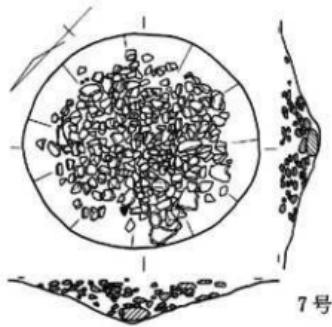
縄文土器はアカホヤ火山灰下層を中心にアカホヤ火山灰上層及び住居址内からバラエティーに富んだ様々な種類の土器が出土している。数的には全体の20%にあたる200点程であるが、そのほとんどが無文土器で、形式が判断できうるものは限られている。図化した土器は、各形式から主なものを選択したもので、詳細については観察表を参照していただきたい。

出土土器については、次ぎのとおり分類した。

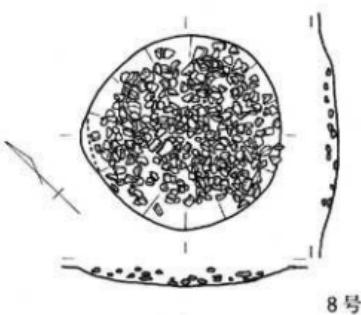
I類 押型文土器で、わずかに1点出土しているのみである。3は極小片で器形も判断できないが、大きな山形の施文具で横位に施されたものである。



第5図 1号～6号集石造構実測図



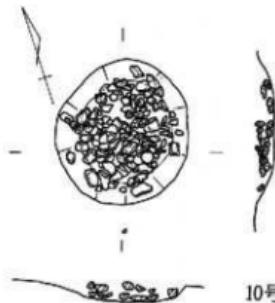
7号



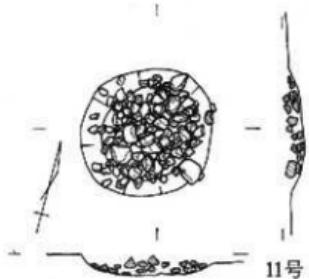
8号



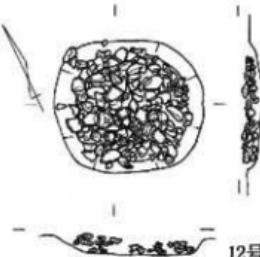
9号



10号

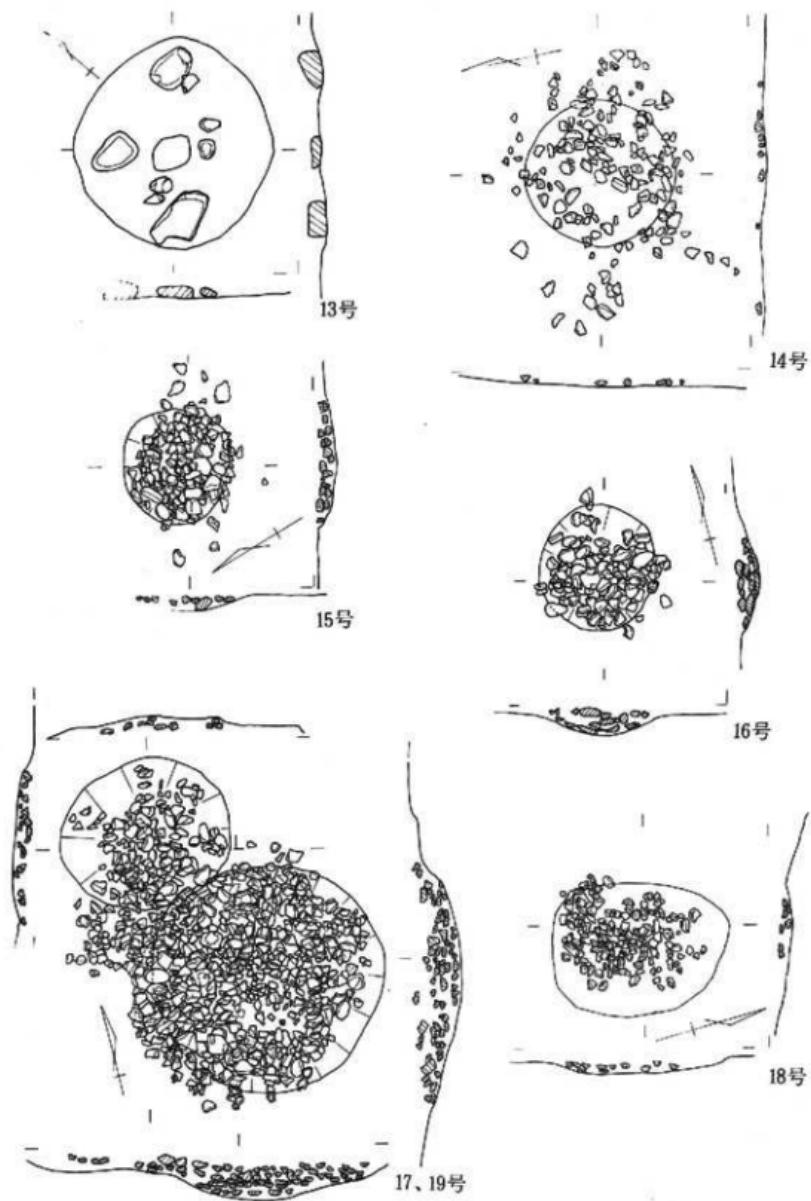


11号

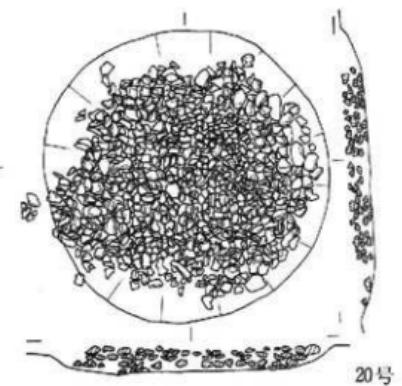


12号

第6図 7号～12号集石遺構実測図



第7図 13号～19号集石造構実測図



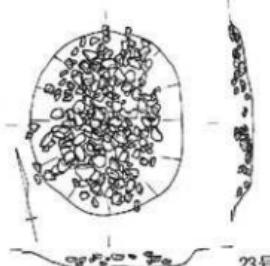
20号



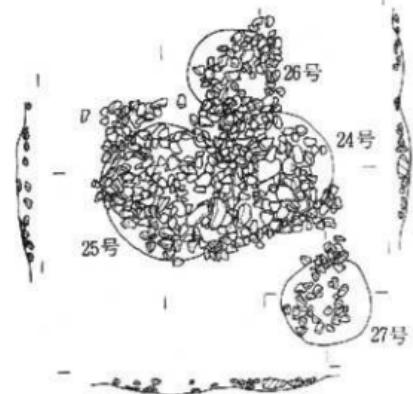
21号



22号



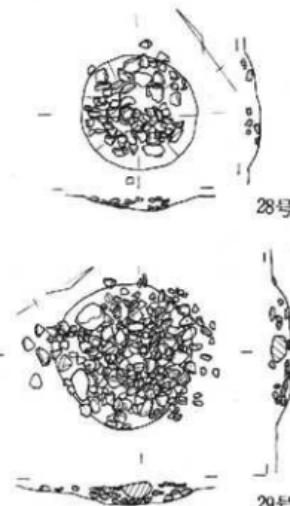
23号



25号

24号

27号



29号

第8図 20号～29号集石遺構実測図

- II類 口縁部にヘラ状施工具によって上下2条に連続刺突が施されたもので、器厚は厚く口唇部は丸い。(4)
- III類 貝殻条痕によって器面調整が施されているものである。(5・6)貝殻条痕文系前平式土器と思われる。
- IV類 貝殻腹縁によって縦位ないし斜位に連続刺突が施されたものである。(7~8)貝殻条痕文系吉田式土器で、7のようにクサビ形突帯を有するものも含まれている。
- V類 口縁部は「く」字状に屈折し、口縁部及び胴部全体に縄文、頸部に突帯を有するものである。(10)いわゆる平柄式土器と呼ばれているもので、遺構確認調査(試掘調査)で1点出土している。
- VI類 口縁部から胴部にかけて幾つかの隆起線を有するものであるが、隆起線の特徴によって3つに分類される。
- a 隆起線が細く幅5mm程度、横位と縦位の隆起線で文様が構成されているもの。調整は内外貝殻条痕である。(12)
 - b 隆起線の幅が1cm弱、横位のミミズバレ隆起線を幾条か施しているものであるが、ミミズバレ隆起線ははっきりと明瞭である。(11・13・16)
 - c 隆起線の幅が1cm弱、横位のミミズバレ隆起線を幾つか施しているものであるが、ミミズバレ隆起線は丸みをもち、偏平である。(14・15)
- VII類 の土器を3類に分類したが、いずれの土器も森B式土器に含まれるものである。
- VIII類 幾何学的な文様が施されているもので、曾畠式土器である。(17)1点出土している。
- IX類 口縁部が若干肥厚し、口縁部内側に2条の凹線が施されているもの。(18)三万田系土器である。1点出土している。
- X類 口縁部が逆「く」字状を呈し、口縁部に3条の凹線が施されているもの。(19)御領系土器である。1点出土している。
- XI類 口縁上部が「く」字状に外反し、丁寧なヘラ磨きが施された浅鉢形土器である。(21)
- XII類 丁寧なヘラ磨きが施された深鉢形土器である。(22~24・26・39・40)
- XIII類 口縁部付近に円形の孔が連続刺突されたもので、孔列文土器と呼ばれているものである。(27~34)いずれも孔は貫通されていない。特徴によって2つに分類される。
- a 口縁部付近に円形の孔が連続刺突されたもの。(27~31)
 - b 口縁部付近に円形の孔が連続刺突され、さらに、突帯ないし刻目突帯が施されているもの。(32~34)

XIV類 刻目実帶が施されているもの。(35・36)

XV類 ヨコナデないしナデ調整が施された無文土器である。(1・2・25・38)

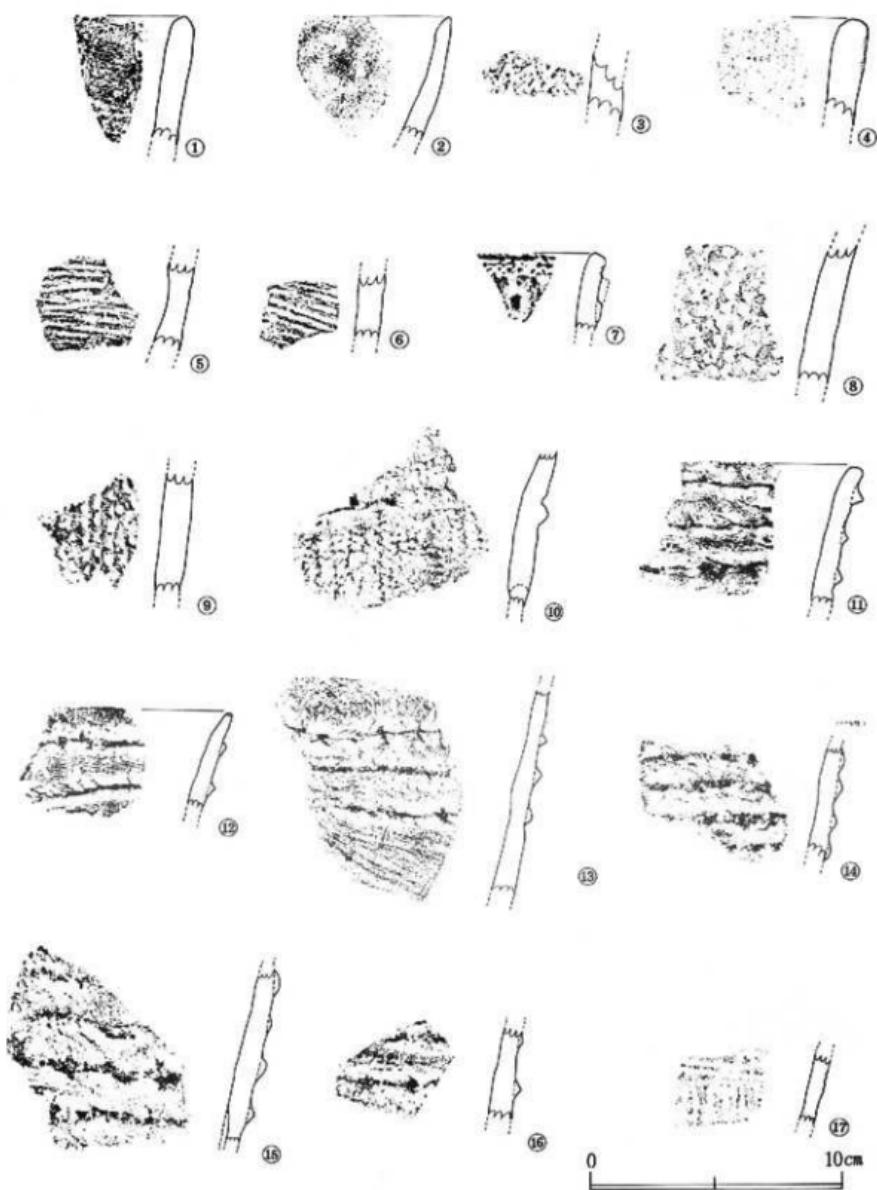
以上、繩文土器を15類に分類したが、I類～V類はアカホヤ火山灰下層から、VI類～XIV類はアカホヤ火山灰上層及び弥生時代終末～古墳時代初頭の住居址内から、XV類はアカホヤ火山灰上下層から出土している。よって、出土層位・文様・形態などの特徴からI類～V類XV類が繩文早期、VI類が繩文前期、VII・IX類が繩文後期、X～XIV類が繩文晚期に比定される。

表2-1 繩文土器観察表

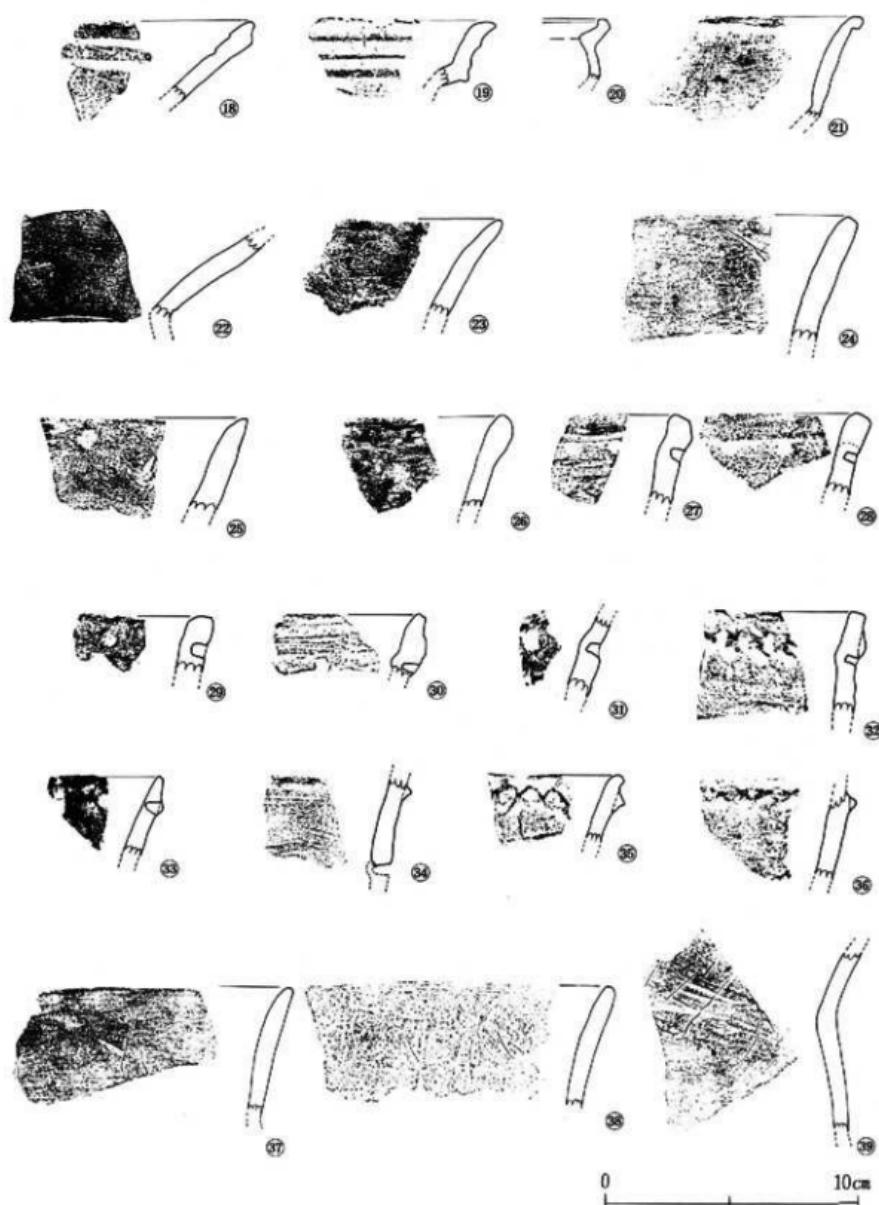
西番 番号	遺物 番号	器種	部位	文様及び調整		焼成	色調		胎土	備考
				外面	内面		外面	内面		
第9器	1	深鉢	口縁部	斜めナデ	ヨコナデ	良好	明赤褐色 SYR5/6	赤褐色 SYR6/4	2mm前後の 粒子含む	1号集石遺構
・	2	“	“	ヨコナデ	“	“	暗赤褐色 SYR3/2	暗赤褐色 SYR3/2	“	2号集石遺構
・	3	“	肩部	山形押型文	“	“	赤褐色 10YR7/4	灰青褐色 10YR5/3	“	試掘調査
・	4	“	口縁部	圓窓(?)複数(15-20) 粗粒質	“	“	赤-7號 SY3/1	赤褐色 10YR7/4	“	“
・	5	“	肩部	目般条痕文	“	“	黑色 SY2/1	黑色 SY2/1	3mm前後の 粒子含む	“
・	6	“	“	“	ヨコナデ	“	赤-7號 SY3/1	褐色 SYR5/8	“	“
・	7	“	口縁部	圓窓(?)複数(15-20) 粗粒質	“	“	褐色 7.5YR6/6	褐色 7.5YR6/6	2号集石遺構 粗粒質	“
・	8	“	肩部	目般条痕によるV 字状の連続刻文	“	“	赤褐色 7.5YR5/4	赤褐色 7.5YR5/4	3mm前後の 粒子含む	試掘調査
・	9	“	“	目般条痕によるV 字状の連続刻文	“	“	褐色 7.5YR6/6	灰青褐色 10YR4/2	“	“
・	10	“	頸部	口縁部・肩部に輪 文/実帶	“	やや 不良	灰黄色 7.5YR5/3	灰-7號 SY6/2	2mm前後の 粒子含む	“
・	11	“	口縁部	3条の浮記線文	目般条痕文	良好	黑色 5Y2/1	灰色 5Y6/1	“	1号住居址
・	12	“	“	浮記線文/2輪刻文 /粗粒	ヨコナデ	やや 不良	灰褐色 10YR5/3	赤褐色 10YR6/4	“	1号住居址
・	13	“	肩部	3条の浮記線文/ 目般条痕	ヨコナデ	“	黄灰色 2.5Y4/1	黄褐色 2.5Y5/1	“	6号住居址
・	14	“	“	3輪(?)浮記線文/33ト チ	“	“	赤褐色 10YR5/3	明赤褐色 10YR7/6	“	1号住居址
・	15	“	“	4輪(?)浮記線文/33ト チ	“	“	褐色 SYR5/6	褐色 7.5YR7/6	“	“
・	16	“	“	3条の浮記線文/ ヨコナデ	目般条痕文 ヨコナデ	良好	灰色 5Y6/1	灰-7號 SY6/2	2mm前後の 砂粒を含む	“
・	17	“	“	幾何学的な辻線文	ナデ	“	赤褐色 10YR7/3	暗天黄色 2.5Y5/2	“	試掘調査

表2-2 繩文土器観察表

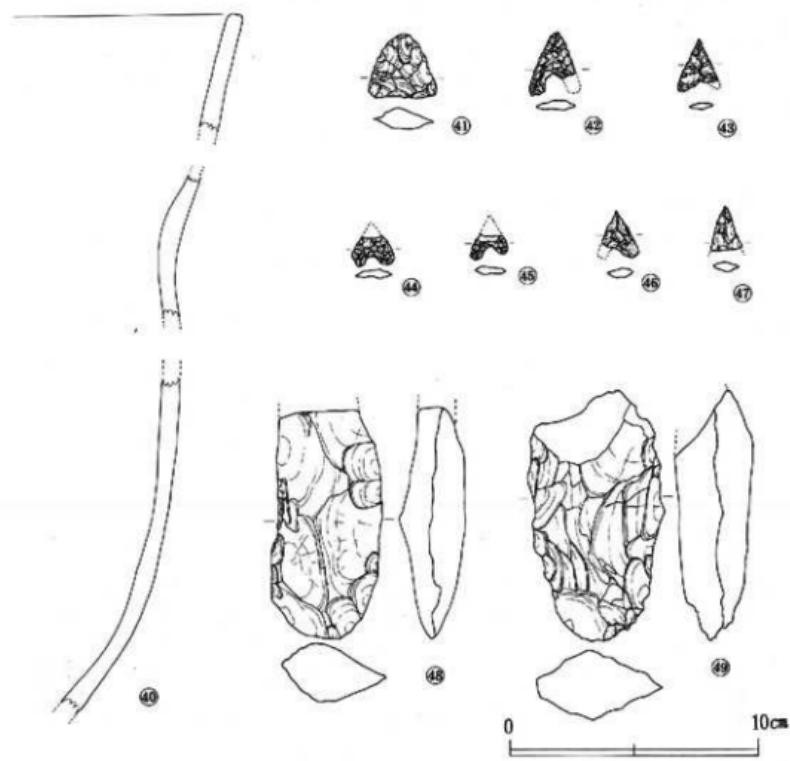
図面番号	遺物番号	器種	部位	文様及び調整		焼成	色調		胎土	備考
				外面	内面		外面	内面		
第10回	1.8	深鉢	口縁部	ヨコナデ	2条の凹線文/ヨコナデ	良好	赤褐色 7.5YR6/4	褐色 5YR6/6	2mm前後の 粒子含む	1.8号住居址
"	1.9	"	"	3条の幅広い凹線文/ヘラ磨き	ヘラ磨き	"	明赤褐色 5YR7/3	明褐色 7.5YR6/6	"	1.0号住居址
"	2.0	浅鉢	"	ヘラ磨き	ヘラ磨き	"	黄灰色 2.5YR5/1	黄灰色 2.5YR5/1	"	黑色研磨土器
"	2.1	"	"	ヨコナデ後ヘラ磨き	ヨコナデ後ヘラ磨き	"	褐色 5YR6/6	明黄色 10YR6/6	"	1.0号住居址
"	2.2	"	甄部	ヘラ磨き	ヘラ磨き	"	黑色 10 YR1.7/1	黑褐色 2.5Y3/1	"	黑色研磨土器
"	2.3	深鉢	口縁部	"	"	"	黒褐色 10YR2/2	暗褐色 10YR3/4	白雲母混入	
"	2.4	"	"	"	"	"	赤褐色 10YR5/3	灰黄褐色 10YR5/2	"	2.0号住居址
"	2.5	"	"	ヨコナデ	ヨコナデ	"	赤褐色 7.5YR5/4	褐色 5YR6/6	鉄錆・鐵斑	
"	2.6	"	"	ヘラ磨き	"	"	褐色 7.5YR4/3	赤褐色 10YR5/4	白雲母混入	試掘調査
"	2.7	"	"	口縁部に斜め12溝 2コナデ	"	"	灰黄褐色 10YR5/2	浅黄色 2.5Y7/4	"	1.3号住居址
"	2.8	"	"	"	"	"	褐色 10YR4/1	灰黄色 2.5Y7/2	"	1.0号住居址
"	2.9	"	"	"	"	"	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	"	"
"	3.0	"	"	"	"	"	赤褐色 10YR5/4	黄灰色 2.5Y5/1	"	1.6号住居址
"	3.1	"	胴部	"	"	やや 不均	明赤褐色 5YR5/8	褐褐色 10YR5/6	"	1.8号住居址
"	3.2	"	口縁部	口縁部/斜め12溝 2コナデ/3コナデ	"	"	浅黄褐色 10YR8/4	灰黄褐色 10YR6/2	3-4mmの鉄 錆	7号住居址
"	3.3	"	"	胴部の口縁部は 3溝	"	良好	浅黄褐色 10YR7/4	赤褐色 10YR8/4	2mm前後の 砂粒を含む	1.8号住居址
"	3.4	"	胴部	口縁部/斜め12溝 2コナデ	"	"	褐色 5YR7/6	褐色 5YR7/6	"	1.0号住居址
"	3.5	"	口縁部	口縁部に斜め12溝 2コナデ	"	"	赤褐色 10YR7/4	赤褐色 10YR7/4	"	7号住居址
"	3.6	"	胴部	口縁部に斜め12溝 2コナデ	"	やや 不良	褐色 7.5Y7/6	灰色 5YR5/1	"	
"	3.7	"	口縁部	ヘラ磨き	"	良好	明赤褐色 5YR5/6	黑褐色 2.5Y3/6	白雲母混入	2.0号住居址
"	3.8	"	"	ヨコナデ/斜めナ デ	"	"	明赤褐色 5YR5/6	赤褐色 10YR6/4	鉄錆・鐵斑	1.8号住居址
"	3.9	"	甄部	斜め12溝/2コナデ/3コ ナデ	"	"	黒褐色 10YR3/1	褐灰色 10YR4/1	白雲母混入	2.0号住居址
"	4.0	"	口縁部 胴部	"	"	"	赤褐色 10YR5/4	灰黄褐色 10YR5/2	"	"



第9図 縄文土器実測図・拓影



第10図 縄文土器実測図・拓影



第11図 繩文土器・石器実測図

石鎌（第11図41～47）

形態的には二等辺三角形（42・43・45～47）と三角形（41・44）に分類されるが、すべて無茎である。基部でみると凹基式のもの（42～46）と平基式のもの（41）と不明のもの（47）がある。石材は黒曜石（43～45）・チャート（41・42）・頁岩（46・47）が使用されている。

石斧（第11図48・49）

いずれも打製のもので、基部が欠損している。48が7号集石遺構、49が9号集石遺構から出土したもので、両方とも石材は頁岩が使用されている。

2. 弥生時代終末から古墳時代初頭の遺構と遺物

住居址（第10図）

住居址は遺跡確認調査（試掘調査）において7軒確認され、本調査では密度的に20軒程度を予想していたが、予想どおりあまり重複しない状態でアカホヤ火山灰層面から20軒の住居址が検出された。住居址は南側傾斜地を除く平坦地全面にまんべんなく検出された。

規模的には大小様々であるが、プランは1号を除いてすべて方形状プランの住居址である。また、柱穴は主柱2本のものが最も多く12軒、4本のものが5軒、6本のもの1軒？、ないものが2軒となっているが、これらは住居址の規模によってある程度決定されているようである。

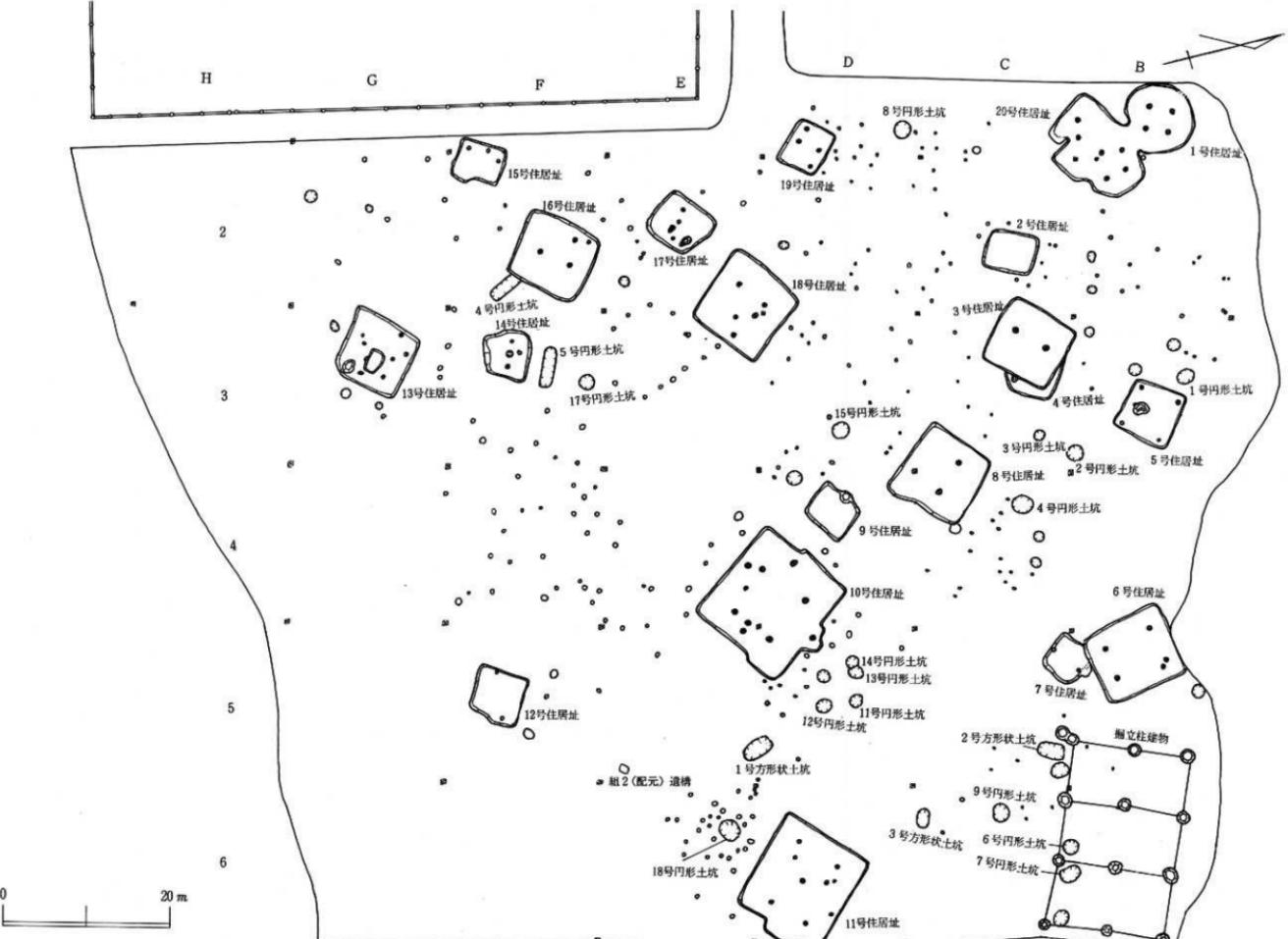
遺物は各住居址とも全体的に少ないようであるが、2号・7号・10号、特に2号住居址からはバラエティーに富んだ器種の土器が多量に出土している。また、長方形石包丁が多いこと、さらに、3軒の住居址から鉄器が出土したことは興味深い。これらのなかで、特色あるものについては本文内で紹介するが、その他のものについては観察表を付したので参照していただきたい。



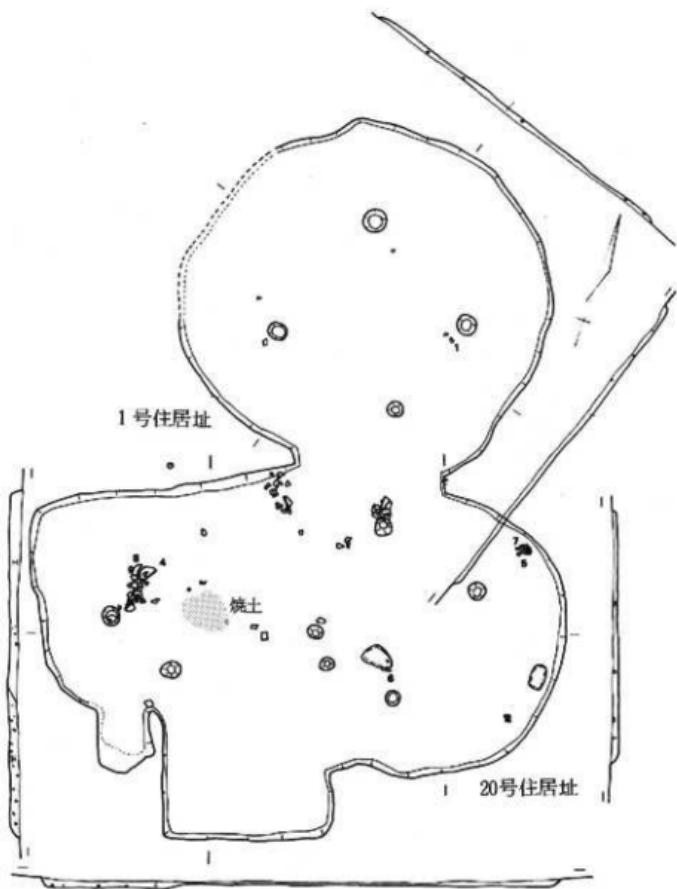
1号・20号住居址（第13図・14図）

当初、この1号・20号住居址については張出しを有する1軒の住居址であると考えていたが、調査の結果、2つないし3つの住居址が切り合っていることが確認された。よって、判断がしにくいことから一応2軒として北側の住居址を1号、南側の住居址を20号とした。

1号住居址はB-1グリットから検出された不整円形プランの竪穴住居址で、径4.7mの規模を有する。床面は平坦で、径20~32cm・深さ17~28cmの円形柱穴4個が方形に配されている。壁面は約50度で立ち上がり、壁高は5~10cmを計る。



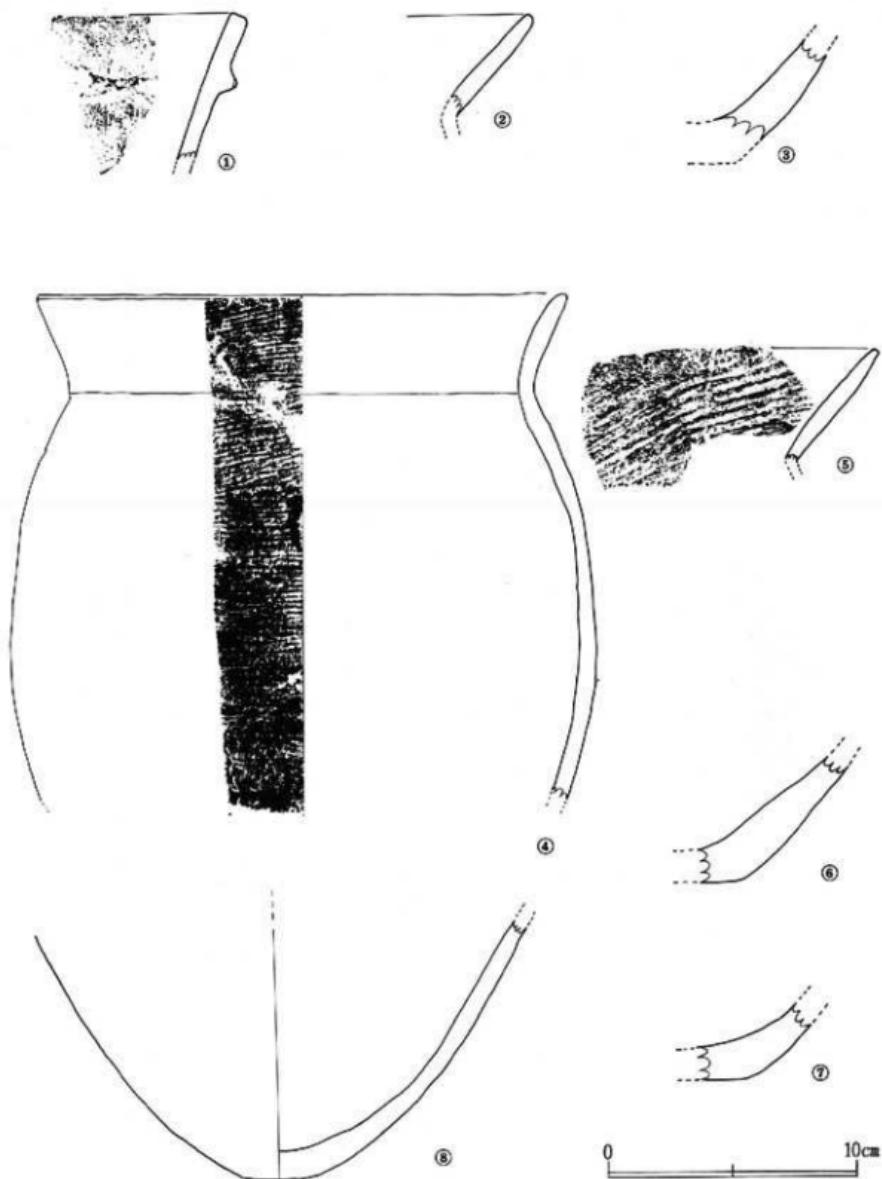
第12図 遺構分布図（アカホヤ火山灰層面）



I ~ 黒色土（アカホヤブロック混入）Hue 7.5 YR 1.7 / 1
 II ~ 黒色土（アカホヤブロック多量混入）

0 2m

第13図 1号・20号住居址実測図



第14図 1号・20号住居址出土遺物実測図・拓影

遺物は口縁部が外反した壺形土器（2・3）がほとんどであるが、中には口縁下部に刻目突帯を有する下城式系の壺形土器（1）1点も含まれる。

20号住居址はC-1～B-2グリットから検出された張出しを有する不整方形プランの竪穴住居址と思われるが、柱穴の位置関係や出土状態などからもう1軒住居址が重複している可能性も残される。長軸6.55m・短軸4.8m、東辺は曲線的である。床面は平坦的で、径20～25cm・深さ14～25cmの円形柱穴が7個検出されている。この柱穴すべてが同住居址に伴うものであるかどうかは判断しがたいが、東側の柱穴4個については方形に配されている。壁面は約30度～70度で立ち上がり、壁高は10～15cmを計る。

遺物は口縁部が外反した壺形土器（4～7）がほとんどであるが、ヘラ磨きされた深鉢形の縄文土器もまとめて出土している。しかし、量的には壺形土器が圧倒的に多く、叩きを施している壺形土器（4・5）も含まれている。

2号住居址（第15図～19図）

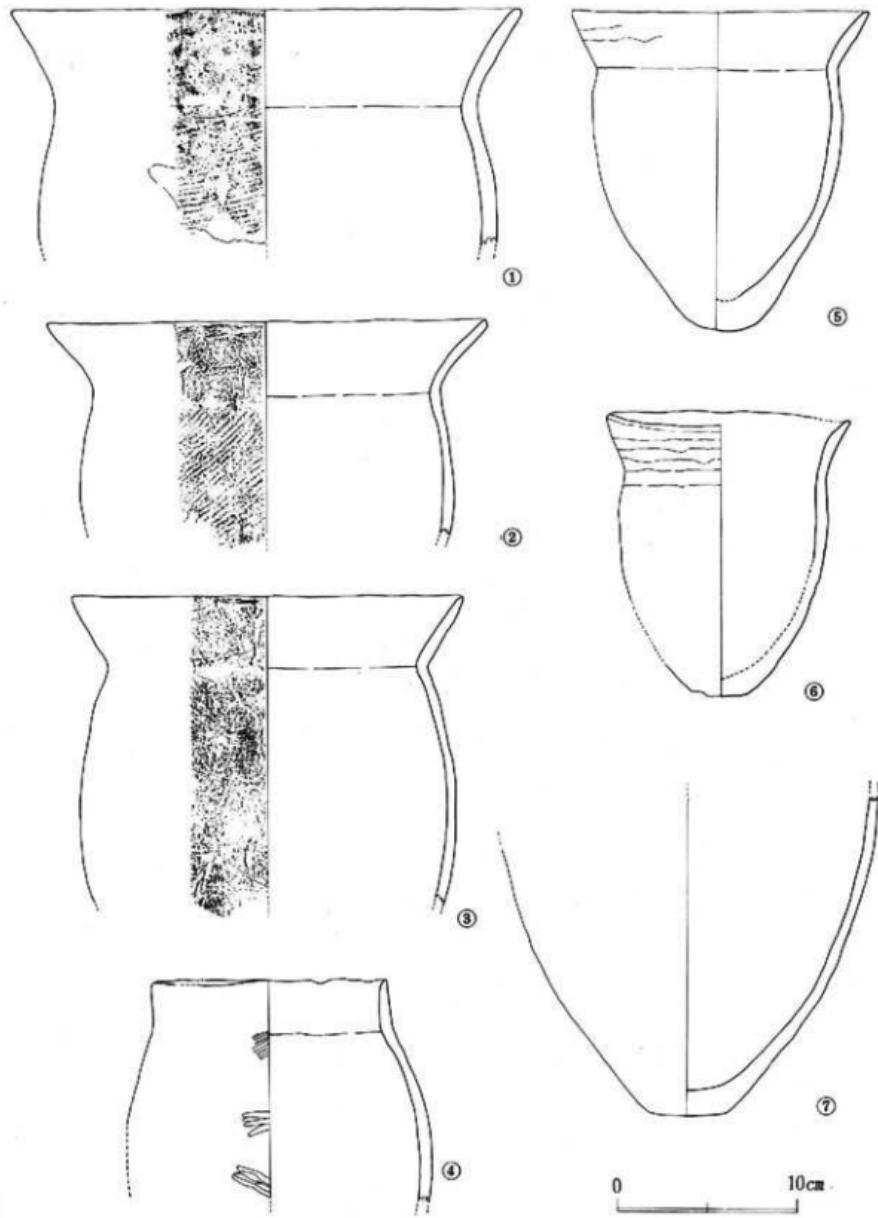
C-2グリットから検出された方形状プランの竪穴式住居址で、北部隅がわずかにせり出している。長軸3.18m・短軸2.67mの規模を有する。床面は平坦的である。柱穴は住居址内からは検出されなかったが、住居址周辺から9個柱穴が検出されており、いくつかは同住居址に伴うものと推定される。壁面は約75度で立ち上がり、壁高は35cmを計る。

遺物は壺形土器・小型壺形土器・鉢形土器・小型鉢形土器・壺形土器・小型丸底壺・高环などバラエティーに富んだ様々な器種の土器が多量に出土している。

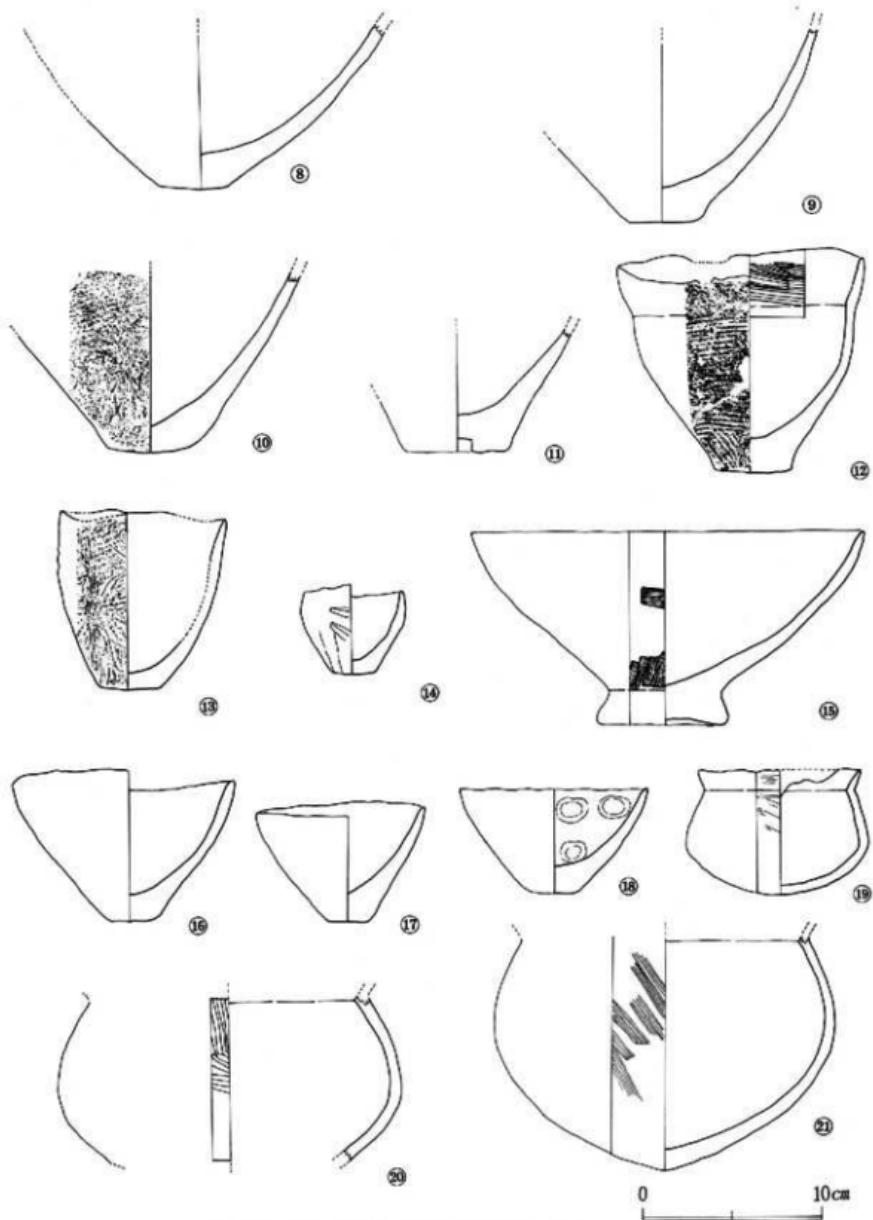
1～11は壺形土器で、口縁部が直行するもの（4）、小型のもの（5・6）も含まれているが、ほとんどが口縁部が外反した壺形土器（1～3）である。12～21は鉢形土器で、口縁部が直行ぎみで、くびれを有し、平底のもの（12）、口縁部が直行し、コップ状のもの（13）、胴部が内湾して立ち上がり椀状を呈し、あげ底のもの（15）、体部が内湾して立ち上がり、平底のもの（16～18）、口縁部は「く」字状に外反し、胴部は張り、丸底のもの（19～21）がある。22～32は壺形土器で、口縁部がわずかに外反し、胴部は卵形、丸底のもの（22・23）、口縁部が大きく外反し、胴部は卵形、平底のもの（24・25・28）、口縁部が外反し、胴部が卵形のもの（27）、口縁部不明（短く外反すると推定）胴部は球形で丸底のもの（30）、口縁部が外上方に開き、胴部が球形、丸底の小型丸底壺（31）口縁部は不明、胴部は球形で、平底の大型壺のもの（32）がある。中でも、32は時間の制約上底部のみの図化となったが、ほぼ完全に復元できうる資料であり、本報告で図化できなかったのが残念である。また、24は口縁上部がヨコハケ、口縁下部にタテハケ、胴上部にタテハケ、胴中央部にナメ方向の叩き調整、胴下部にタテハケ、内面ヨコナデ調整が施された壺形土器である。31は唯一完形で出土した小型丸底壺で、



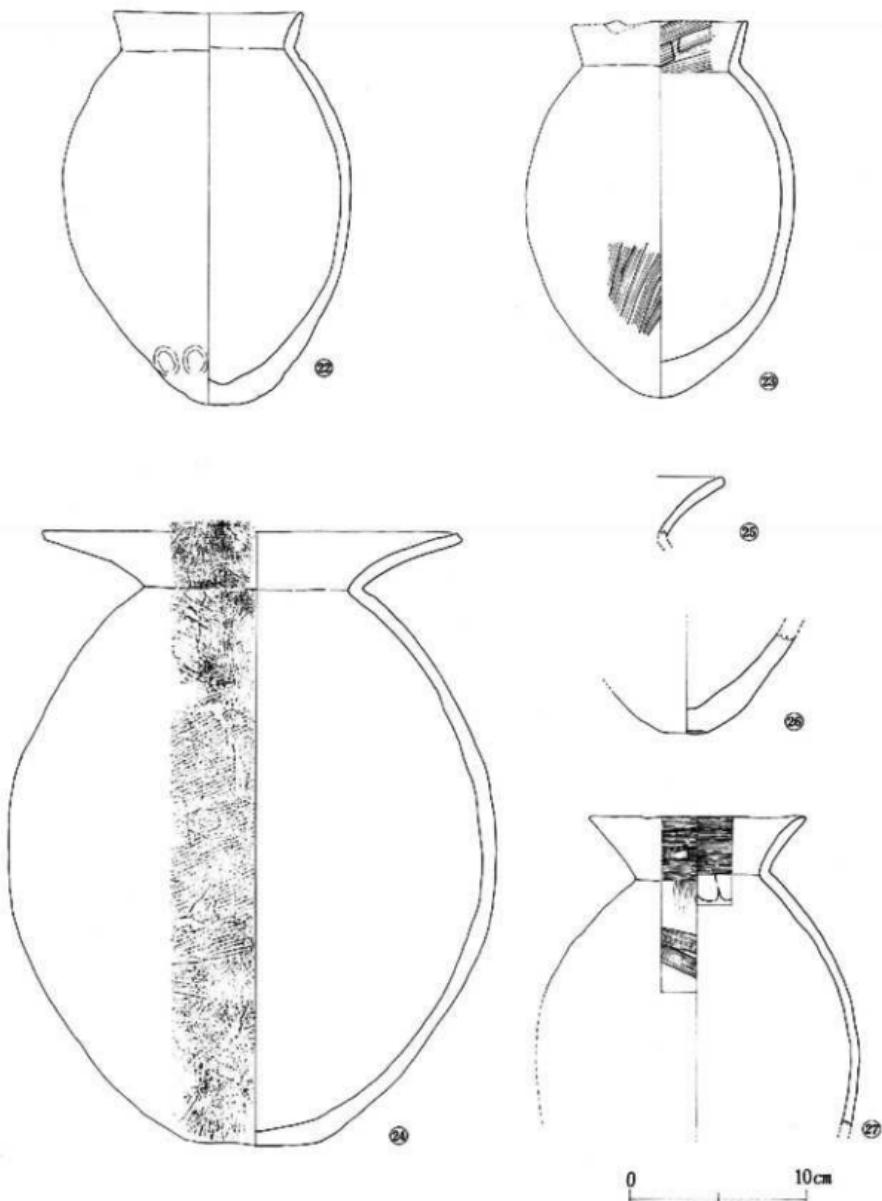
第15図 2号住居址実測図



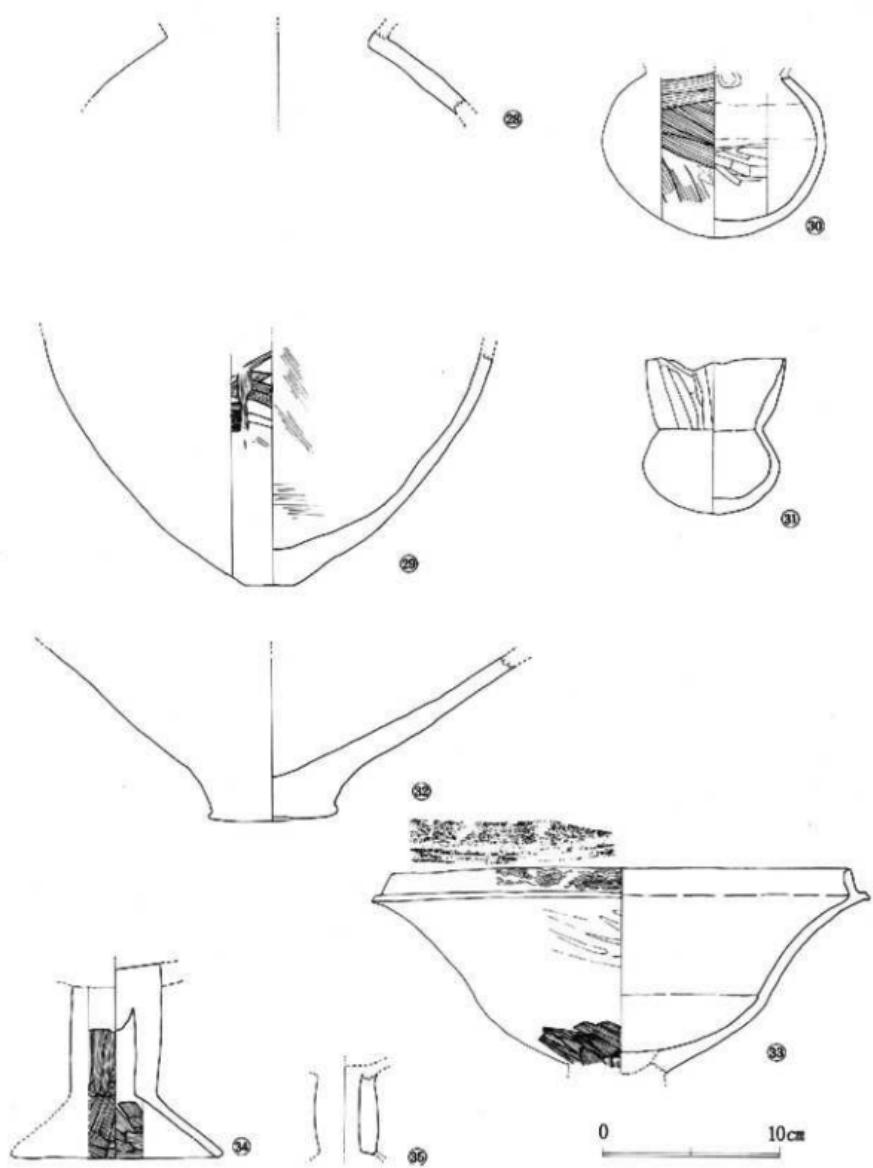
第16図 2号住居址出土遺物実測図・拓影



第17図 2号住居址出土遺物実測図・拓影



第18図 2号住居址出土遺物実測図・拓影



第19図 2号住居址出土遺物実測図・拓影

口縁部は板状工具によるタテナデ、胴部以下はヘラ削り後ヨコナデ調整、内面斜めナデ調整が施されている。33～35は高坏で、いずれも破片で全体を把握できない。33は坏部のみであるが、本遺跡のなかでも優美な装飾高坏である。受部は内湾しながら立ち上がり陵ではなく、途中から反転して外方向に延びている。口縁部は外縁の内側、断面でみると逆T字状に櫛描波状文を施したものを見付けている。外面受部の上部にヨコナデ及びヘラ状工具によるナデ、下部はタテ・斜め方向のハケメ調整、内部は上部にヨコナデ、下部にナデ調整が施されている。34・35は脚部で、いずれも脚中部がストレートぎみに延び、据部がラッパ状に広くタイプのものである。

3号4号住居址（第20図・21図）

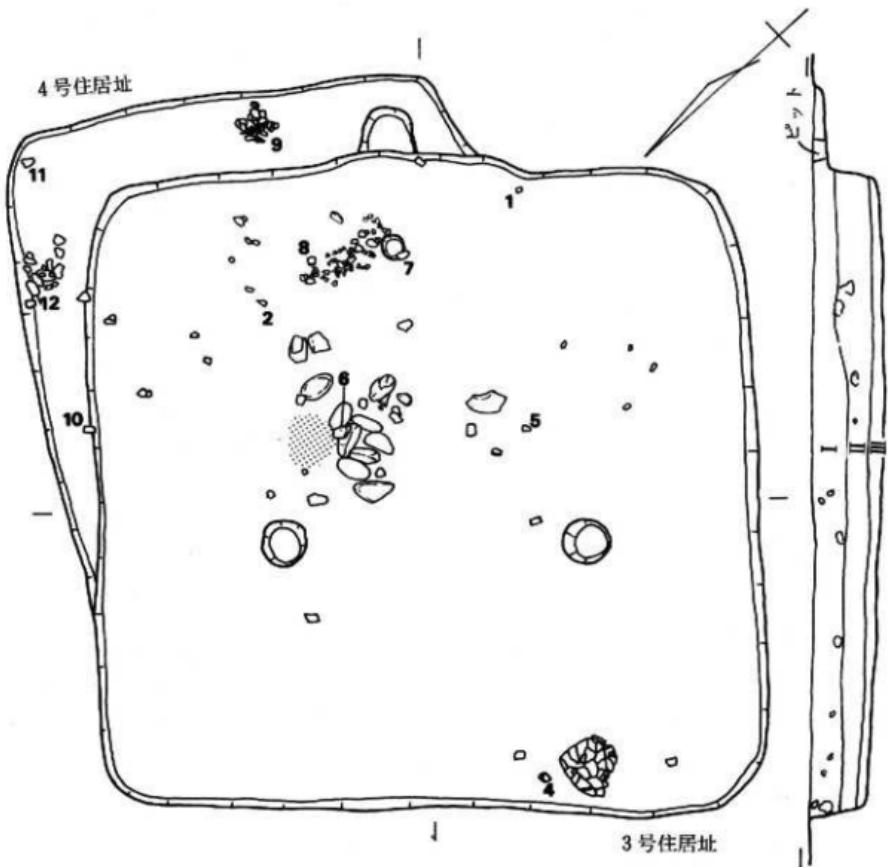
C-2・3グリットから切合って検出されている。3号住居址は西部隅がわずかにせり出した方形プランの竪穴式住居址で、長軸4.65m・短軸4.55mの規模を有する。床面については、張り床が施されているよう、5cm前後のアカホヤ火山灰ブロック混じりの固く締まった層が確認された。また、中央付近に20～30cmの礫がまとまって検出されたが、この礫はアカホヤ火山灰下層から検出される集石遺構に関連した礫と思われる。柱穴は2個で、径35cm・深さ30～33cmを計る。壁面は約80度で立ち上がり、壁高40cmを計る。

4号住居址は一辺3mの方形プランの竪穴住居址と推定される。床面は平坦であるが、柱穴は検出されていない。壁面は約50度で立ち上がり、壁面は低く10cmを計る。遺物は3号住居址から壺形土器（1～3）・鉢形土器（4）・磨製石斧（5～7）、4号住居址から壺形土器（8・9）・小型鉢形土器（10・11）・長方形石包丁（12）が出土している。

この3号住居址と4号住居址の切合い関係については、遺物の出土状態や埋土の堆積状態から、3号住居址が埋積後4号住居址が堀込まれており、3号住居址のほうが古く、4号住居址のほうが新しい遺構である。

5号住居址（第22図・24図）

B-3グリットから検出された方形プランの竪穴式住居址であるが、正確には北辺が広まつた不整形な方形（台形状）を呈している。長軸3.95m・短軸3.5mの規模を有する。



I～黑色土（アカホヤブロック混入）Hue 5 YR 1.7 / 1

II～黑褐色土（　　"　　）Hue 5 YR 2 / 1

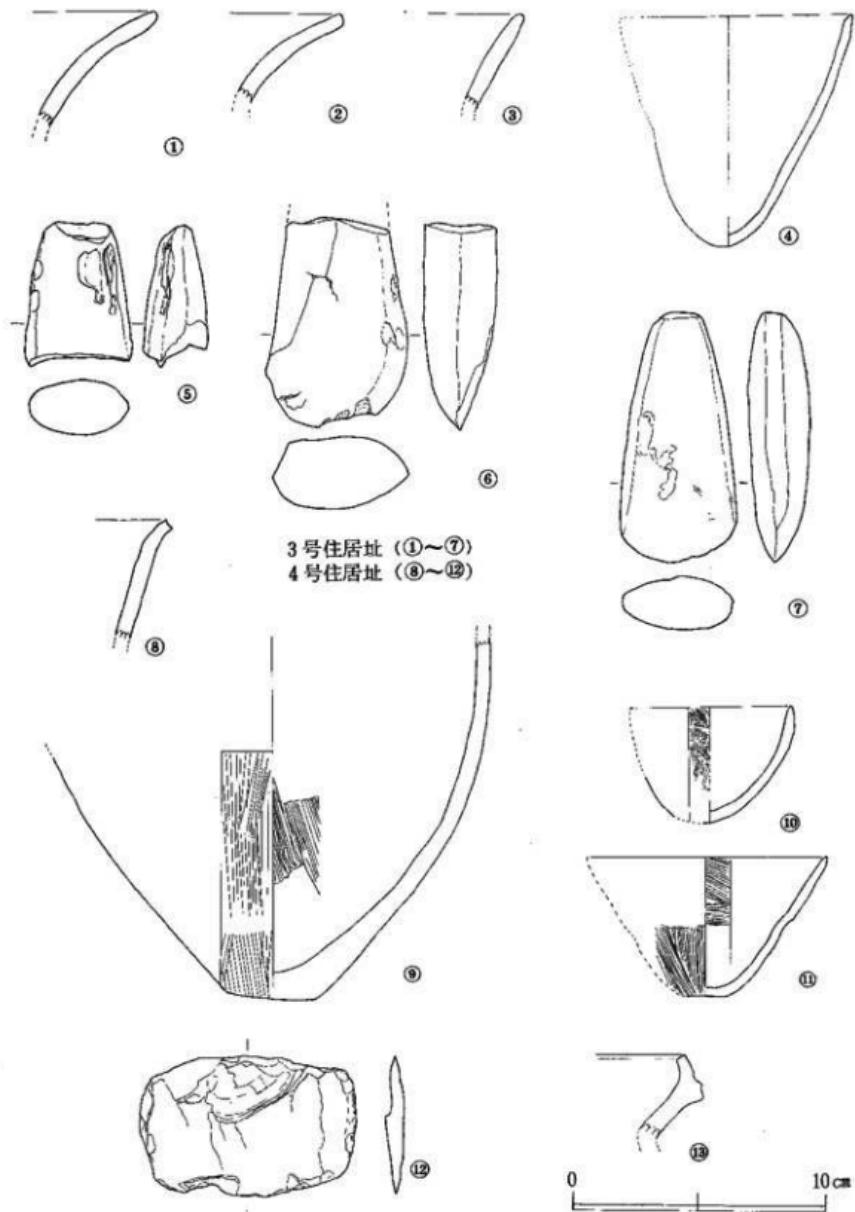
III～黑褐色土

IV～黑色土

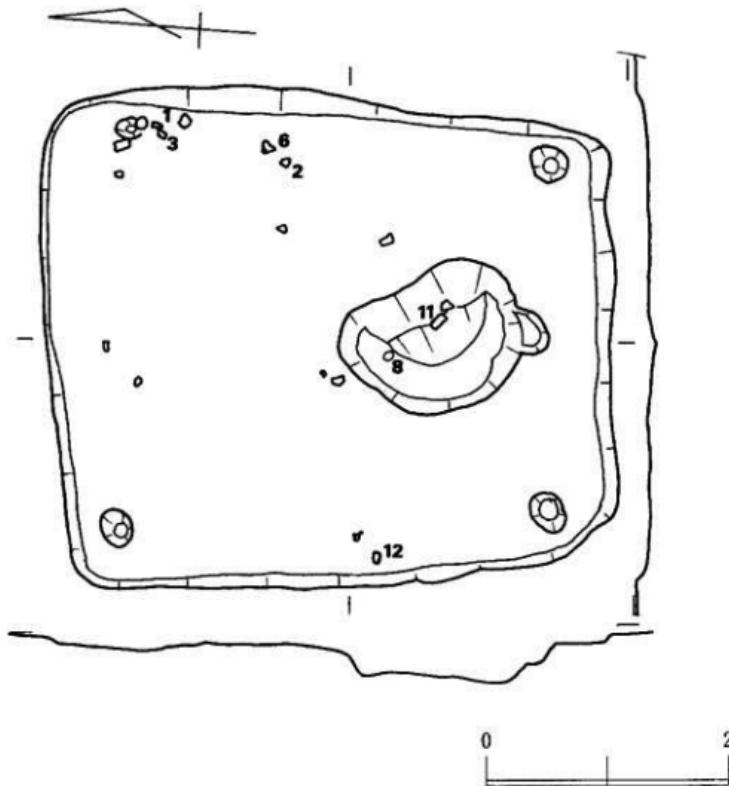
0

2m

第20図 3号・4号住居址実測図



第21図 3号・4号住居址出土遺物実測図・拓影



第22図 5号住居址実測図

床面は平面的で、四隅に径 15 cm ~ 28cm・深さ 6 ~ 35cm の円形柱穴を配し、南中央部には不整形土坑を有しているが、この土坑については底部から松の根が自然腐食の形で確認されたことで、後世に松を取り除くために掘られた土坑であると思われる。壁面は約 40 度で立ち上がり、壁面は低く 7 ~ 9 cm を計る。

遺物は鉢形土器（1～6）・壺形土器（7）・高環（8）・すり石（9・10）・磨製石包丁（11）・石錐（12）が出土しているが、量的には少ない。このなかで、2・5・6 は鉢形土器、8 は高環のミニチュアである。また、9 は砂岩製、10 は軽石製のもので、1 は長方形を呈した、長軸に挟りを有する頁岩製、12 は長軸に打ち欠きを有する砂岩製のものである。

6号・7号住居址（第23図～25図）

6号住居址はB-4～B-5グリット、7号住居址はB-5～C-5グリットから6号住居址の南西隅と7号住居址の北東隅を切合って検出されている。

6号住居址は北西部隅がわずかにせり出した方形プランの竪穴式住居址で、長軸5.7m・短軸4.9mの規模を有する。床面は平坦で、径20～29cmの円形柱穴5個が検出されているが、主柱は方形に配された4本と思われる。壁面は約70度で立ち上がり、壁面は30cmを計る。

7号住居址は南辺が短く隅丸の方形プランの竪穴式住居址で、長軸2.65m・短軸2.5m（推定）の規模を有する。床面は凹レンズ状で、径23cm・深さ25～45cmの円形柱穴2個が短軸側の壁面に対し施されている。壁面は約35度で立ち上がり、壁面は低く7cmを計る。

遺物は6号住居址からは壺形土器（13・14）・鉢形土器（15）・高壺（16～21）・壺（22）が出土している。16は口縁部が大きく外反した、17は吹け受部に陵をもつ、19はミニチュア、20は脚部に円孔が施された高壺である。22は口縁部が短く直行し、胴部が張った丸底の壺である。

7号住居址はほとんどが壺形土器（1～7）で、その他鉢形土器？（8）・ノミ型の小型磨製石斧が出土している。壺形土器のなかには叩き調整の施されたもの（1）も含まれている。

6号住居址と7号住居址の切合い関係については、埋土の土層断面から、6号住居址埋積後7号住居址が掘り込まれており、6号住居址が古く、7号住居址が新しい遺構と思われる。

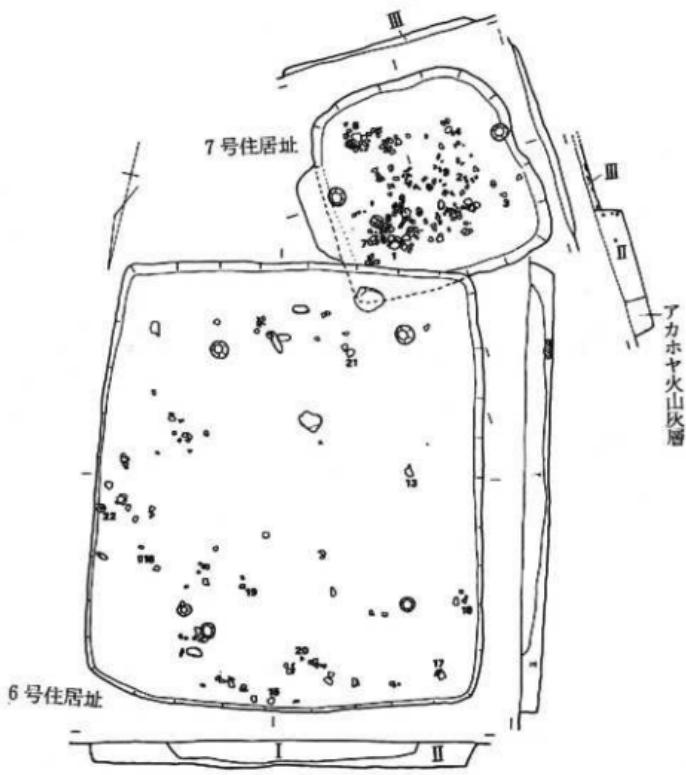
8号住居址（第26図・第27図）

C-3・4グリットから検出され方形プランの竪穴式住居址であり、四隅の内三隅にわずかの張り出し有する。長軸4.95m・短軸4.7mの規模を有し、床面は平坦で、径0～35cm・深さ21～40cmの円形柱穴4個が検出されているが、主柱は2本で、あとの2本は補助的には柱の柱穴と思われる。壁面は約65度で立ち上がり、壁面は25cmを計る。

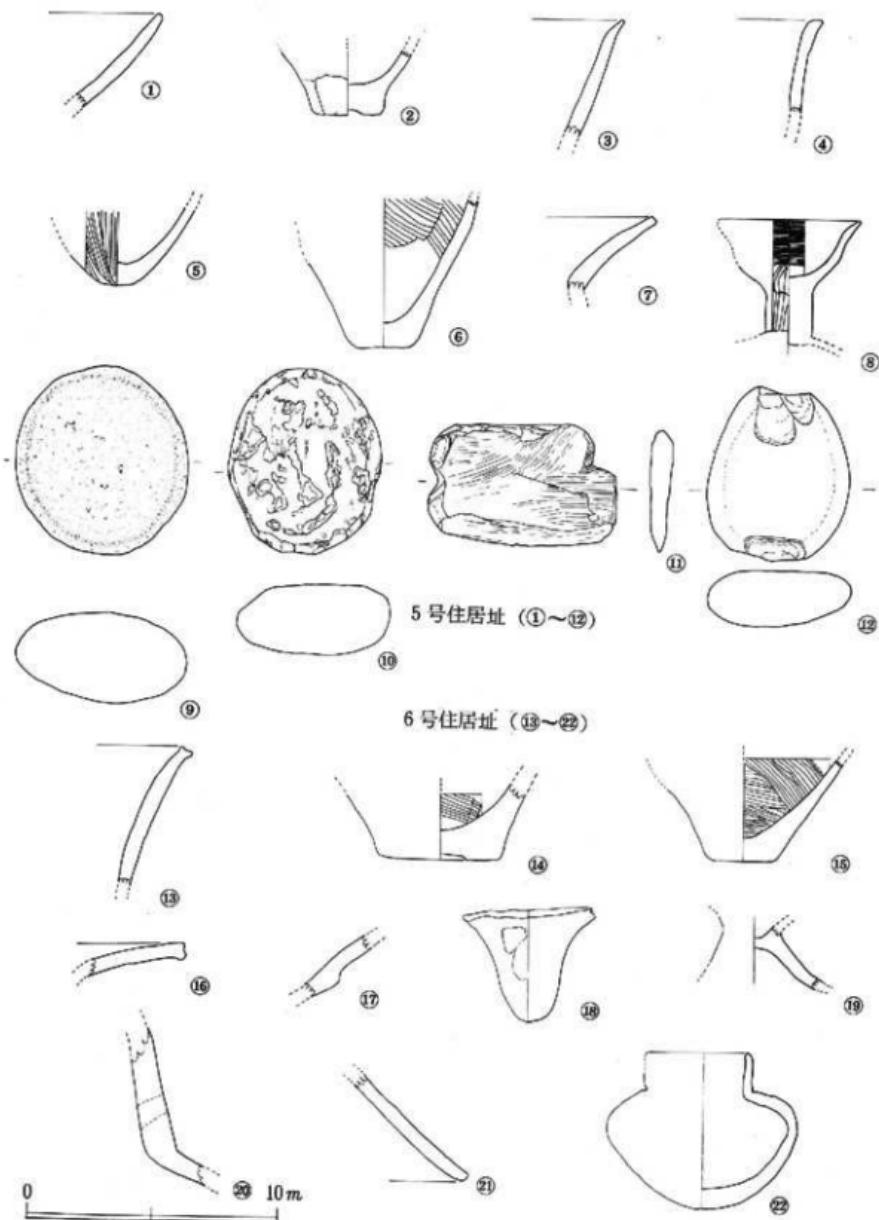
遺物は壺形土器（1）、鉢形土器（2～5）が出土している。5は口縁部が「く」字状に外反し、体部がそろばん玉状を呈した鉢形土器で、外面は口縁上部にヨコナデ、口縁下部にタテハケ、胴部上半分にタテハケ、以下ナデ調整、内面はヨコナデないしナデ調整が施されている。

9号住居址（第28・29図）

D-4グリットから検出された方形プランの竪穴式住居址で、西部隅がわずかにせり出している。長軸3.0m・短軸2.5mの規模を有する。住居址内北辺に接して円形土坑が

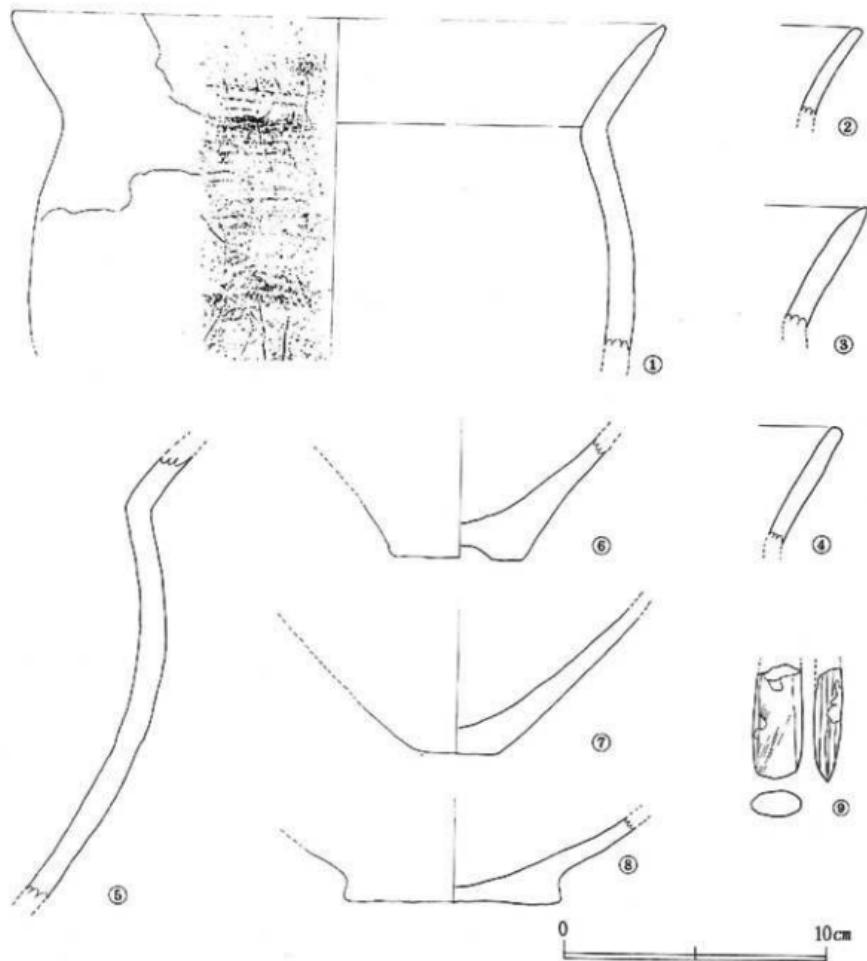


第23図 6号・7号住居址実測図

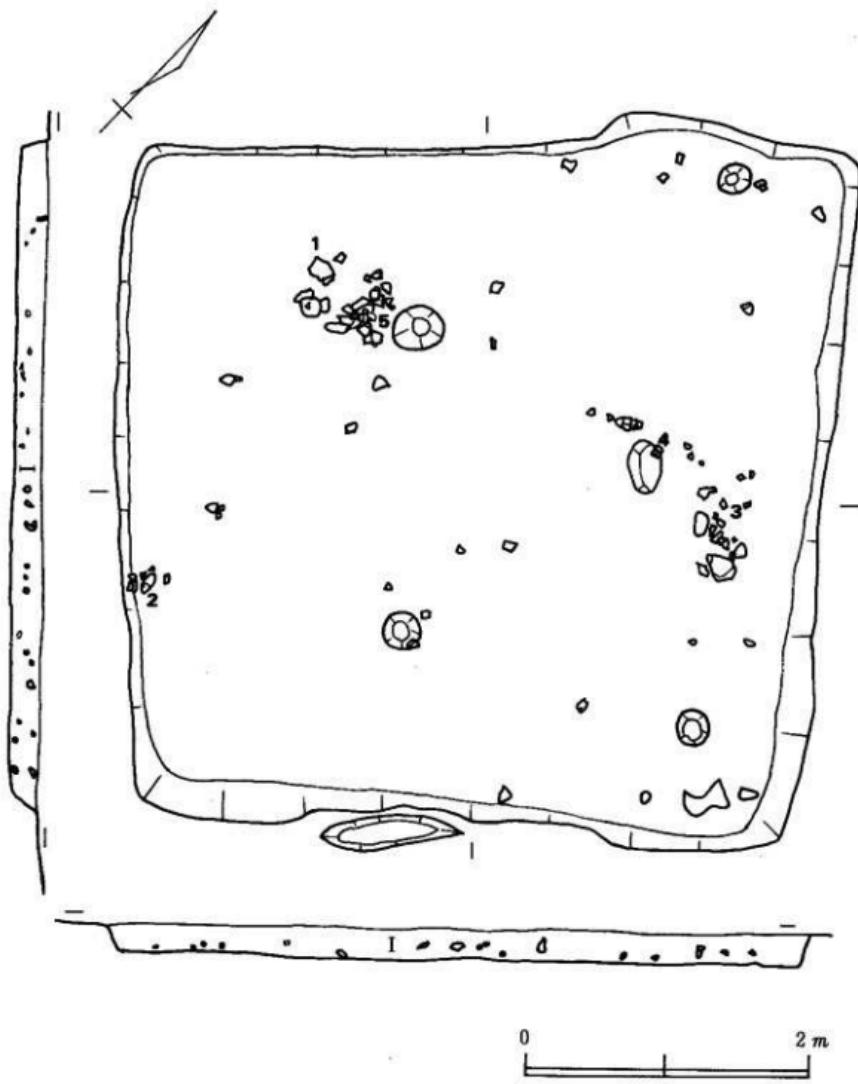


第24図 5号・6号住居址出土遺物実測図

検出されているが、埋積状態で確認されており、同住居址には伴わない後世の土坑と思われる。床面は平坦で、東中央部から径 55 cm の範囲内で焼土が検出された。柱穴は検出されなかった。壁面は約 70 度で立ち上がり、壁面は 35 cm を計る。



第 25 図 7 号住居址出土遺物実測図・拓影

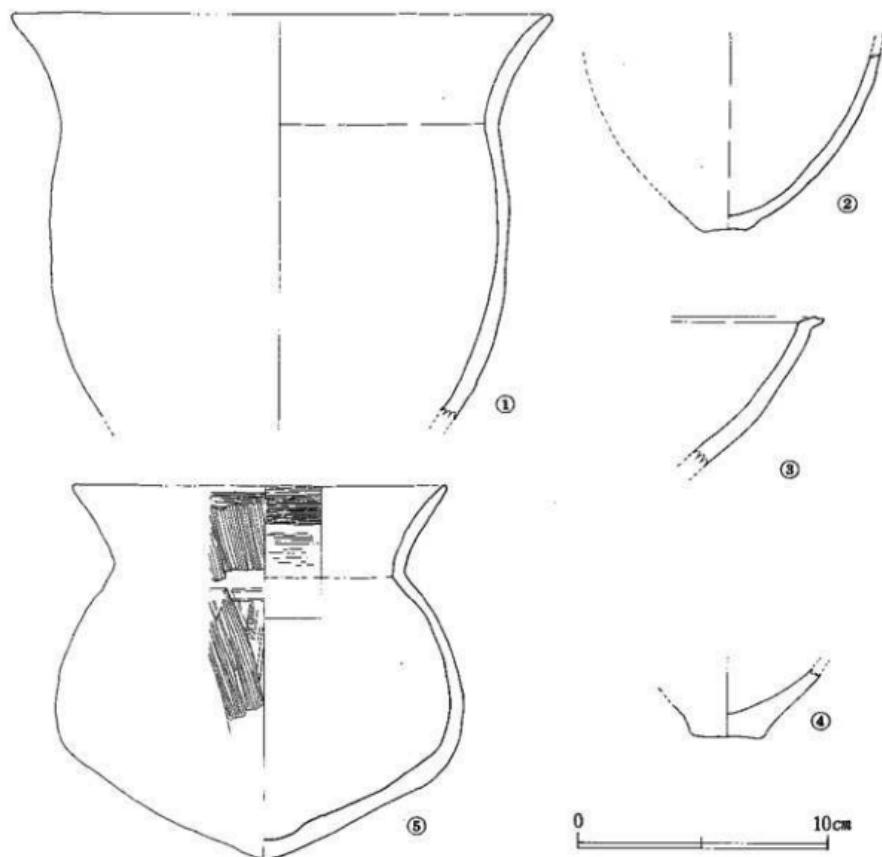


I～黒色土（アカホヤブロック混入）

Hue 10 YR 1.7 / 1

第26図 8号住居址実測図

遺物は少なく、鉢形土器（1）、壺形土器（2～4）、高環（5）、鐵錫（7・8）、磨製石包丁（6）が出土している。2・4は二重口縁壺の口縁部で、2は両面ヘラ磨き調整、4は風化著しく調整不明である。6は長軸8.7cm・短軸5.2cm・厚さ0.6cm（中央部）



第27図 8号住居址出土遺物実測図

の長方形の磨製石包丁である。7・8は柳葉式鉄鎌の鉄身で、7が現在長5.3cm・幅2.3cm・厚さ0.5cm、8が現在長5.2cm・幅2.5cm・厚さ0.5cmを計る。

10号住居址（第30図～34図）

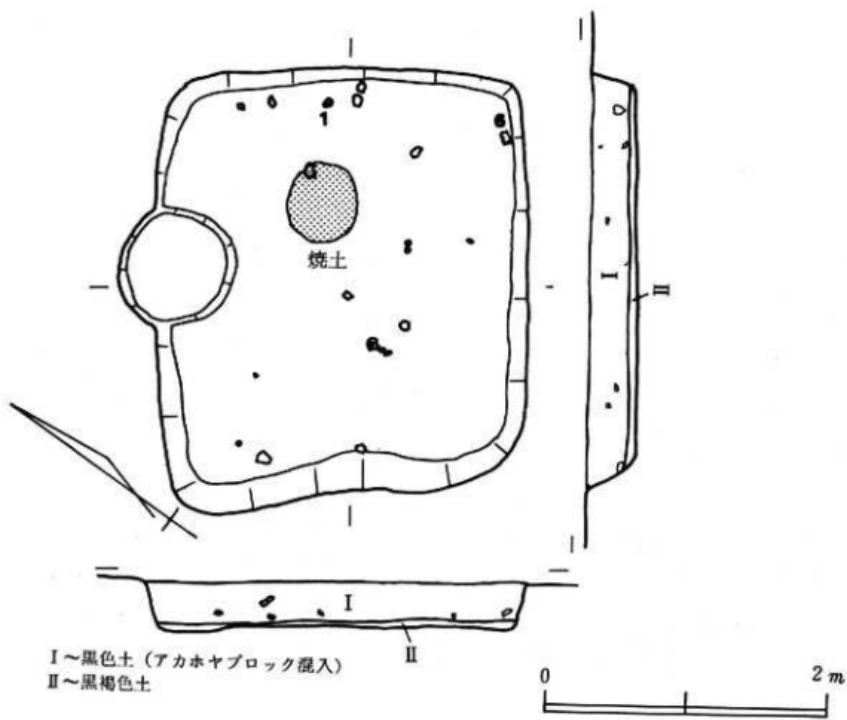
D-4・5、E-4・5グリットにまたがって検出された本遺跡最大の住居址である。3ヶ所に張り出しを有する方形状プランの堅穴式住居址で、長軸7.15m・短軸6.7m（張り出し部分は含めない）を計る。張り出しは北辺隅、東辺隅、西辺中央部に有している。床面は平坦で、径23～45cm・深さ15～35cmの円形柱穴が9個検出されている。同住居址に伴うものは方形に配された4個で、その他は補助的に立てられた柱の柱穴か同住居址には伴わないものと思われる。壁面は約70度で立ち上がり、壁高は30～35cmを計る。

また、住居址内の中央部から南部にかけて各所に床面から焼土や炭化物が検出されており、焼失住居の可能性も含め興味深い。

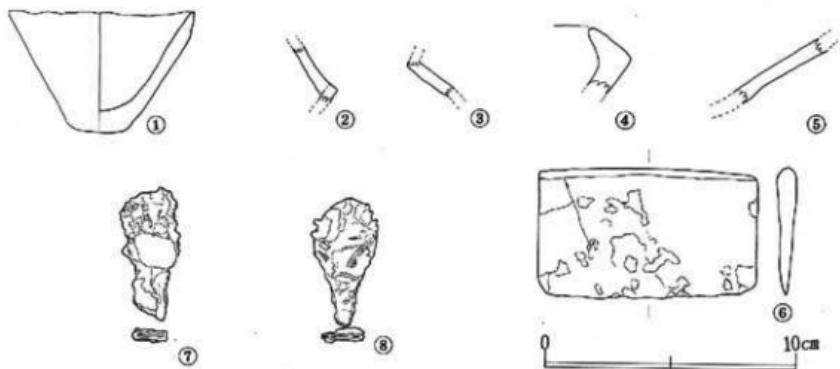
遺物は甕形土器が最も多く、その他、鉢形土器・壺形土器・高环などに加え、磨製石包丁・有肩打製石斧・鉄鎌が出土している。

1～15は甕形土器で、口縁部が外反し、胴部が若干膨らみ、平底を有するタイプのものがほとんどであるが、14のように口縁部がキャリバー状に内湾するタイプのものも含まれている。1は外面の口縁上部にヨコナデ、口縁下部にタテハケ、胴部にヨコないし斜め方向の叩き、底部にタテ方向の叩き調整、内面は口縁上部にヨコナデ、以下ヨコないし斜め方向のハケメ調整が施された甕形土器である。13は小型甕形土器の口縁部で、口縁部が短く、胴部最大径が口縁径を上回っている。外面は器面全体に丁寧なヘラ磨きを施した後、口縁部から頸部にかけてタテハケを施しているが、下半分の風化が著しく、ヘラ磨きが所々しか観察できない。内面はヨコナデないしナデ調整が施されている。14はキャリバー状の口縁を呈した甕形土器の口縁部で、口径推定19.5cmを計る。内外口縁上部ヨコナデ、以下ヨコないし斜めハケ調整が施されている。16～38は鉢形土器で、口縁部が外反し、球形の体部のもの（16）、口縁部が外上方に延び、胴部最大径を下位にもち、丸底のもの（22）、口縁上部が短く外反し、胴部が内湾して立ち上がっているもの（23～25）、口唇部が尖り、球形のもの（26）口縁部が内湾しながら大きく外上方に広き、胴部が半円形状のもの（27）、口縁部が短く外反し胴部最大径を中位にもつ平底のもの（28）、口縁部が短く外反し、胴部最大径を下位にもつ平底のミニチュア土器（29）がある。底部で分類すると、平底で直線的に立ち上がるものの（17～19・31・32）、平底で内湾しながら立ち上がっているもの（33・35・36）、底部端が外に張り出し、内湾しながら立ち上がっているもの（30）、丸底ないし丸底に近い平底（20・21・37・38）に分類される。

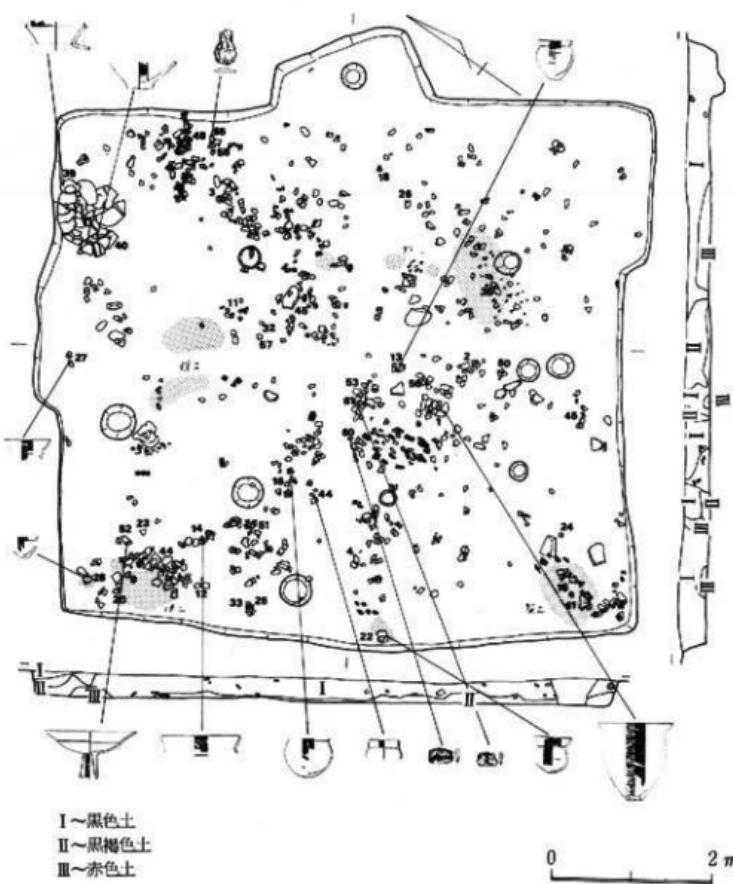
39～51は壺形土器で、二重口縁のもの（39・40）、口縁部が外反し、胴部が卵形のも



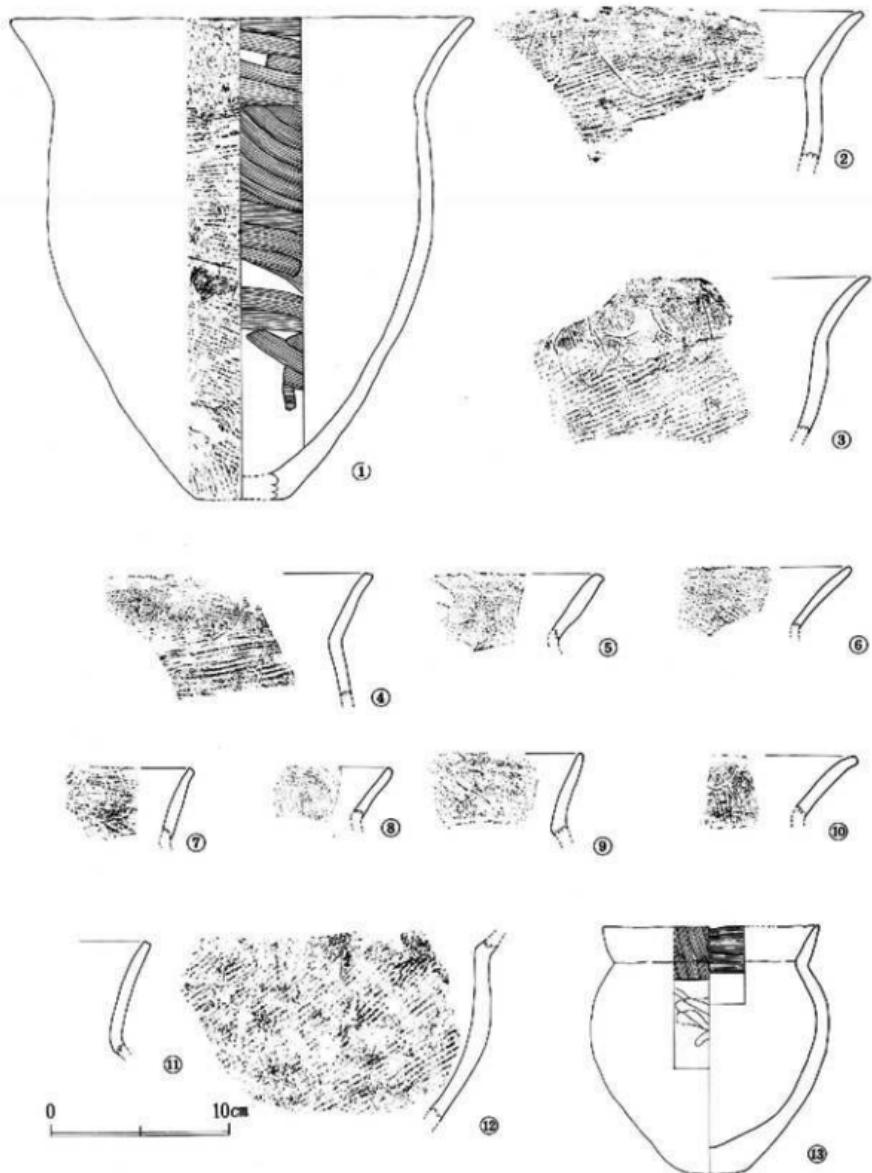
第28図 9号住居址実測図



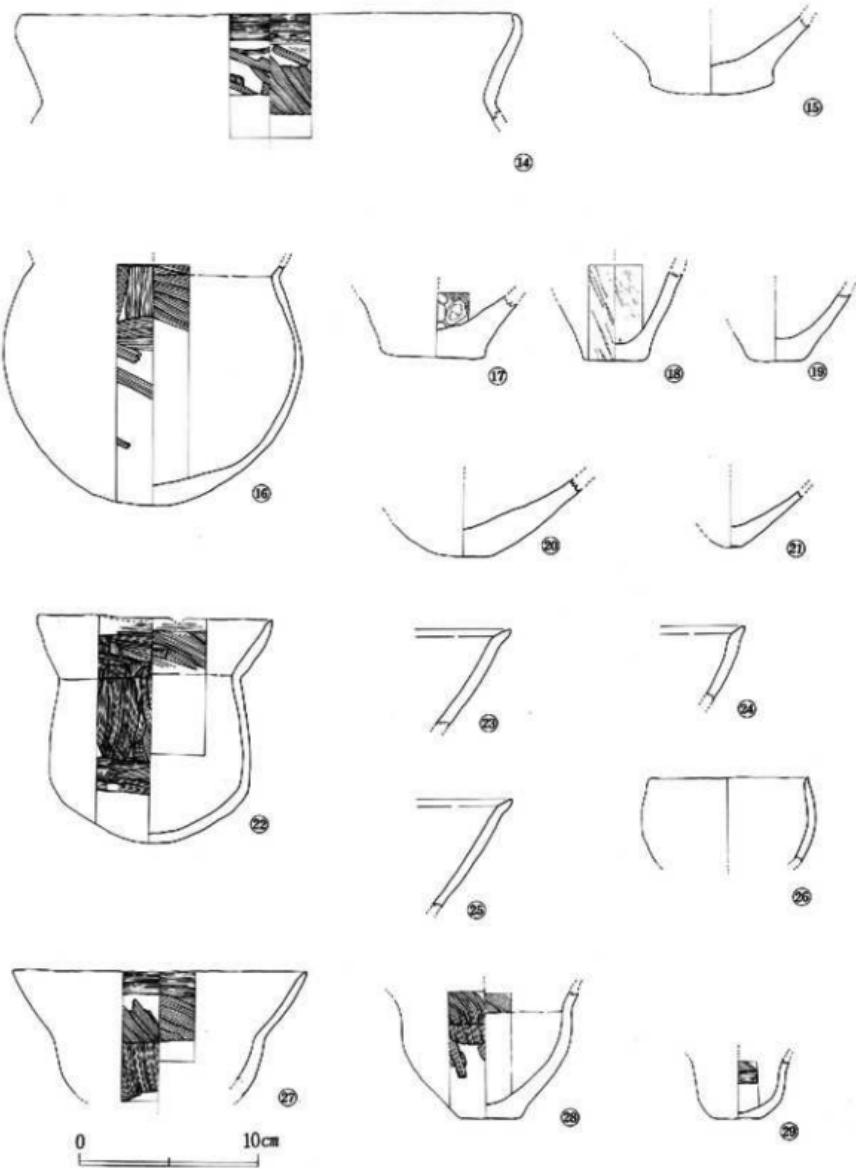
第29図 9号住居址遺物実測図



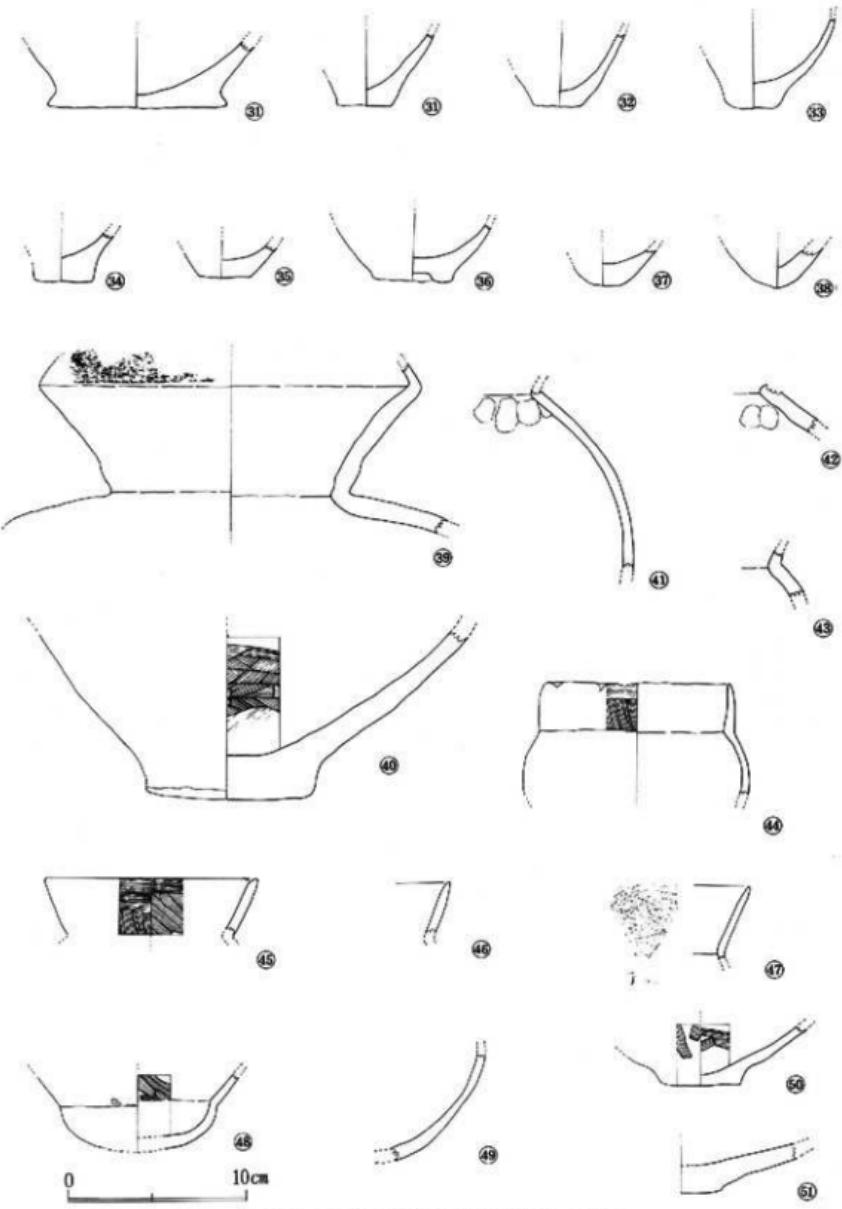
第30図 10号住居址実測図



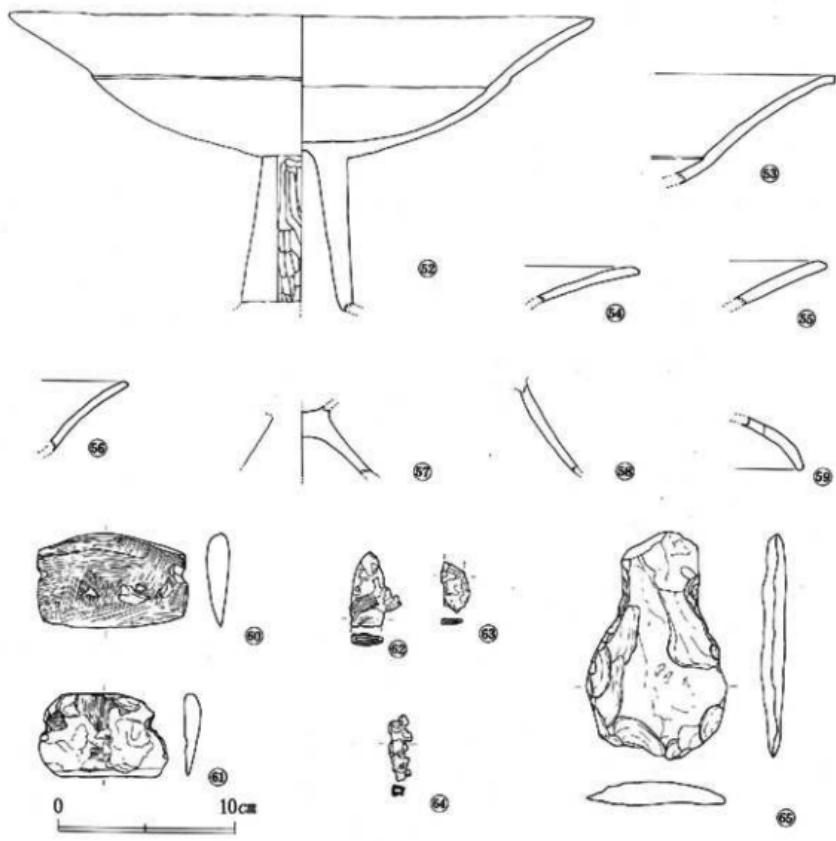
第31図 10号住居址出土遺物実測図・拓影



第32図 10号住居址出土遺物実測図



第33図 10号住居址出土遺物実測図・拓影



第34図 10号住居址出土遺物実測図

の（41～43）口縁部が直行し、球形の胴部のもの（42）、口縁部が外反し、胴部が球形のもの（45～47）、口縁部が大きく外上方に延び、体部が半扁球形の小型丸底壺（48）があり、底部は平底と丸底がある。39・40は住居址の北西端から検出された二重口縁の壺形土器で、口縁部には櫛描波状文が施され、胴部上位に最大径をもち、推定器高1m

程の平底を有するスマートな大型壺である。44は本遺跡の中でも最も精美な直口壺で、外面口縁上部にヨコナデ、口縁下部にタテハケ、以下丁寧なヘラ磨き調整、内面ヘラ磨き調整が施されている。

52～59は高壺で、明瞭ではないが稜を有するもの（52）と有しないもの（53・56）がある。52は唯一口縁部から脚柱まで復元できるもので、壺部は口縁が外上方に直線的に延び、受部はあまり内湾せず浅く、脚柱は直線的に開くタイプのもので、裾部はラッパ状になると推定される。外面は口縁部にヨコナデ、受部にヨコないしタテハケ、脚柱にヘラ磨き、内面は壺部にヘラ磨き、脚柱にヨコナデ調整が施されている。57はミニチュア、59は内湾した裾部に円孔を有する高壺の裾部である。

60・61は長軸に抉りを有する長方形タイプの磨製石包丁であるが、60のほうは丁寧に磨き形を整えているのに対し、61のほうは雑で剥離後わずかに磨き、片面は自然面をそのまま使用している。

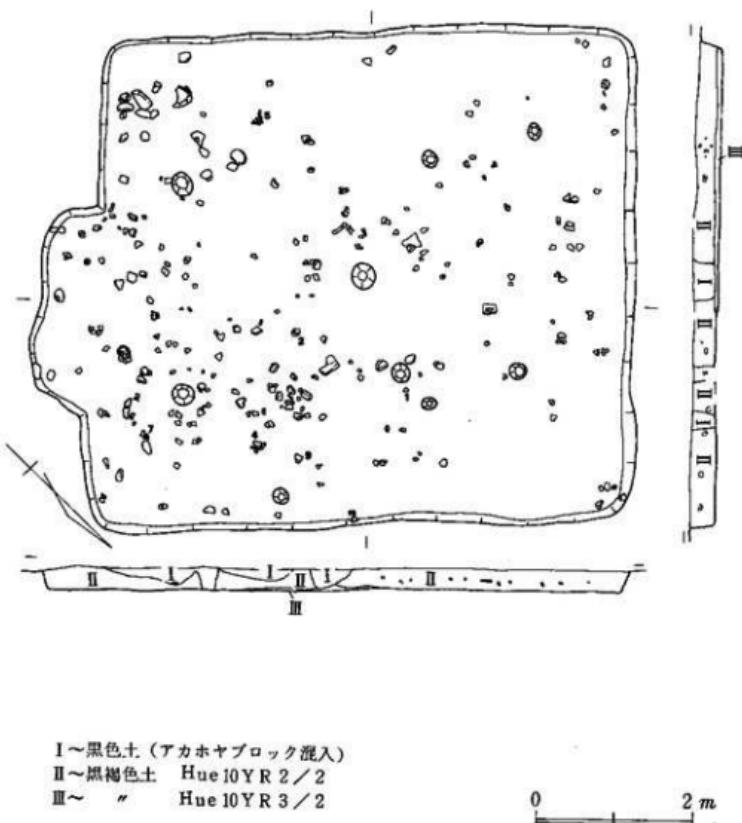
62は有茎の柳葉式鉄鎌の鎌身で、現在長3.2cm・幅1.7cm・厚さ0.4cmを計る。63・64は鉄鎌の茎で、63は現在長2.9cm・幅1.4cm・厚さ0.6cm、64は現在長3.3cm・幅0.7cm・厚さ0.5cmを計る。

65は今回の本調査において唯一住居址内から出土した両耳型の有肩打製石斧で、長さ1.26cm・幅7.8cm・厚さ1.2cmを計る。

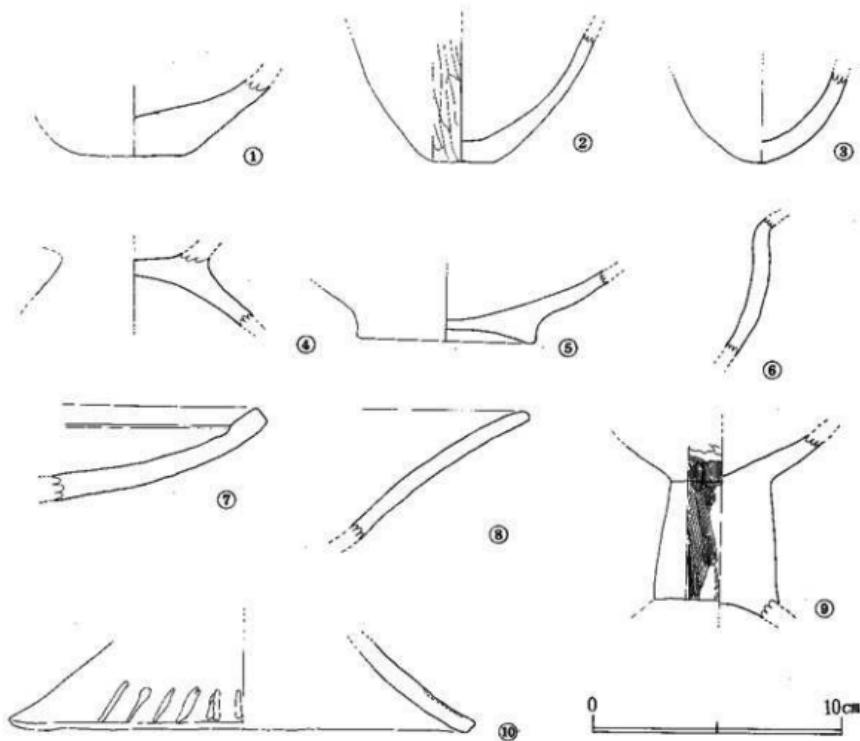
11号住居址（第35図・36図）

D-6グリットから検出された南辺中央部に張り出しを有する方形プランの竪穴式住居址である。長軸6.75m・短軸6.3m、張り出しを含めると長軸7.45mを計る大きな住居址である。床面は平坦で、径20～33cm・深さ19～75cmの円形柱穴が9個検出されている。同住居址に伴うものは3個ずつ東西に配された柱穴と中央に配された1個の柱穴と思われるが、興味あるのは、深さの関係で、北側の2個は20cm、中央部の2個は38cm、中央の1個は62cm、南側の2個は71.75cmと南側にいくにしたがって深くなっている。また、南側の2個と中央の1個の径が大きく、住居址の建築方法を考えるうえでは貴重な資料である。壁面は約70度で立ち上がり、壁面は30cmを計る。

遺物は甕形土器（1）、鉢形土器（2～5）、壺形土器（6）、高壺（7～10）が出士している。7は口唇部が平坦で、口縁内部に段を有する高壺の口縁部で、調整は風化が著しいが両面ヘラ磨き調整が施されている。8は口縁部が外上方に延び、段を有しない高壺の口縁部、9は棒状のもので縦方向に短凹線を連続的に施した高壺の裾部である。



第35図 11号住居址実測図



第36図 11号住居址出土遺物実測図

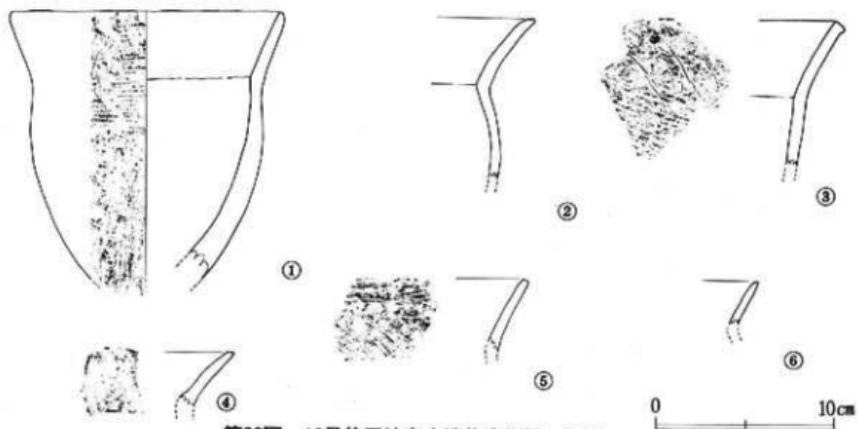
12号住居址（第37図～39図）

F-5 グリットから検出された方形状プランの堅穴式住居址で、わずかに東部が外方向に張り出している。長軸3.4m・短軸3.15mの規模を有する。床面はわずかに凹レンズ状で、径15~20cm・深さ22~28cmの円形柱穴2個が長軸側壁面に接して施されている。壁面は北部が約90度、南部が約45度で立ち上がり、壁高は北部で22cm、南部で10cmを計る。

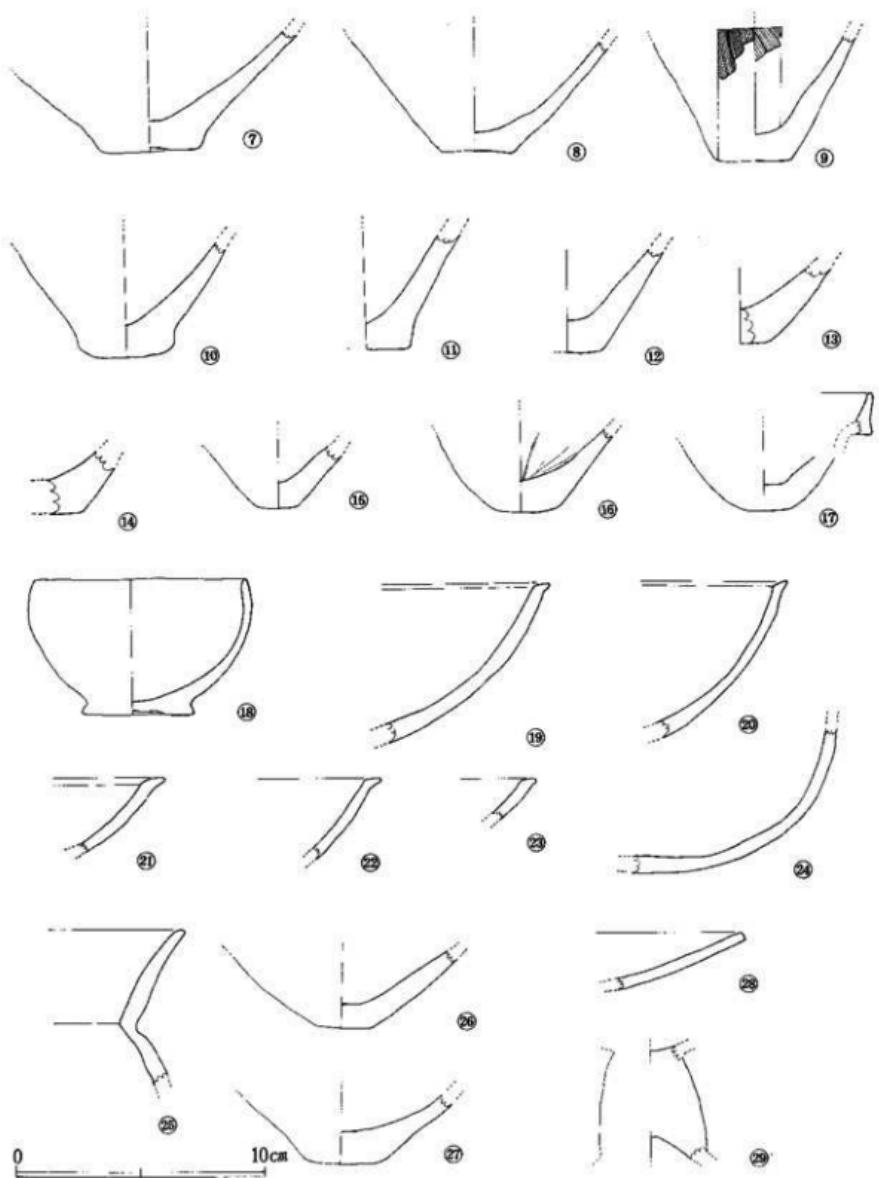
遺物は小さな住居址のわりには多く、變形土器（1~17）、鉢形土器（18~24）、壺形土器（25~27）、高坏（28・29）が出土している。



第37図 12号住居址実測図



第38図 12号住居址出土遺物実測図・拓影



第39図 12号住居址出土遺物実測図

13号住居址（第40図・42図）

本遺跡の最南部の傾斜地G-3グリットから検出された方形状プランの竪穴式住居址で、西部隅がせり出ている。長軸4.6m・短軸4.5mの規模を有する。床面は平坦であるが、南部に向かって傾斜している。径22~55cm・深さ9~53cmの円形柱穴・径1mの楕円形の土坑・長軸1.7m・短軸1.5mの方形土坑が検出されているが、主柱は中央部に配された2本と思われる。壁面は約65度で立ち上がり、壁高は40~50cmを計る。

遺物は少なく、壺形土器（1~8）、鉢形土器（4・5）、壺形土器（6~11）、磨製石包丁が出土している。4はほぼ完形のもので、口縁部が短く直口し、胴部は扁球形で中位に最大径をもち、丸底を有する鉢形土器である。調整は内外面とも風化著しく不明であるが、胎土はこまかく、橙色を呈している。10・11は二重口縁壺の口縁部で、11のみ櫛描波状文が施されている。12は長軸に抉りが施された長方形の磨製石包丁である。

14号住居址（第41図・42図）

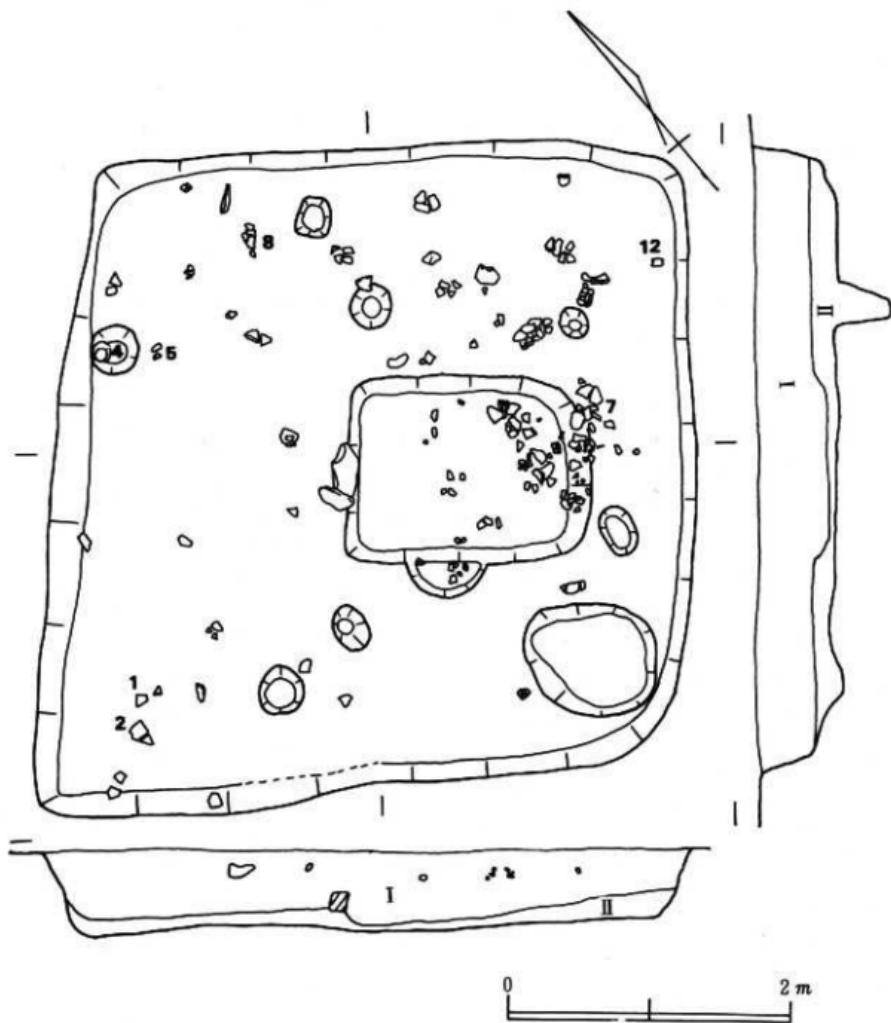
13号住居址の北F-3グリットから検出されたやや台形状を呈した方形状プランの竪穴式住居址で、長軸3.0m・短軸2.7mの規模を有する。床面は平坦で、中央には浅い径48cmの炉跡を有し、その南側には焼土及び炭化物が検出された。また、径15~26cm・深さ20~33cmの円形柱穴が3個検出されているが、主柱は2本と思われる。壁面は約70度で立ち上がり、壁高は20cmを計る。

遺物は少なく、壺形土器（13~15）、鉢形土器（16・17）、壺形土器（18~20）、磨製石包丁（21）、すり石（22）が出土している。16・17はミニチュアの手づくねの鉢形土器である。18は二重口縁の壺形土器の口縁部で、櫛描波状文が施されている。20は口縁部が外上方に直線的に延び、胴部が半円形を呈する小型丸底壺で、内外面口縁部がヨコナデ、以下斜めないしタテハケ調整が施されている。21は長軸に抉りが施された長方形の磨製石包丁であるが、剥離面を残す雑な仕上げとなっている。22は長軸10.6cm・短軸9.4cm・厚さ6.9cm、楕円形を呈した砂岩製のすり石である。

15号住居址（第43図・44図）

F-2グリットから検出された方形プランの竪穴式住居址で、東辺は蛇行している。長軸3.15m・短軸2.7mの規模を有する。床面は平坦で、北部で60cmの範囲内で焼土が検出されている。また、径20cm・深さ10~28cmの円形柱穴4個が検出されているが、主柱は2本と思われる。壁面は約65度で立ち上がり、壁高は15cmを計る。

遺物は壺形土器（1~4）、鉢形土器（5~7）、壺形土器（8~11）、磨製石包丁（12）が出土している。8は二重口縁壺の口縁部で、波のゆるやかな櫛描波状文が施されている。12は長軸に抉りが施された長方形の磨製石包丁である。



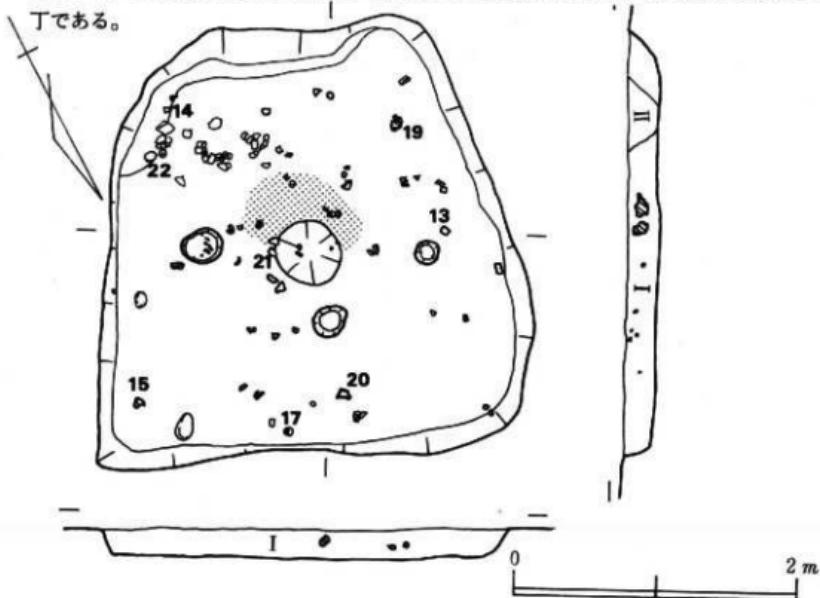
I ~ 黒色土（アカホヤブロック混入）Hue 10 YR 2 / 1

II ~ 黑褐色土 Hue 10 YR 2 / 2

第40図 13号住居址実測図

16号住居址（第45～47図）

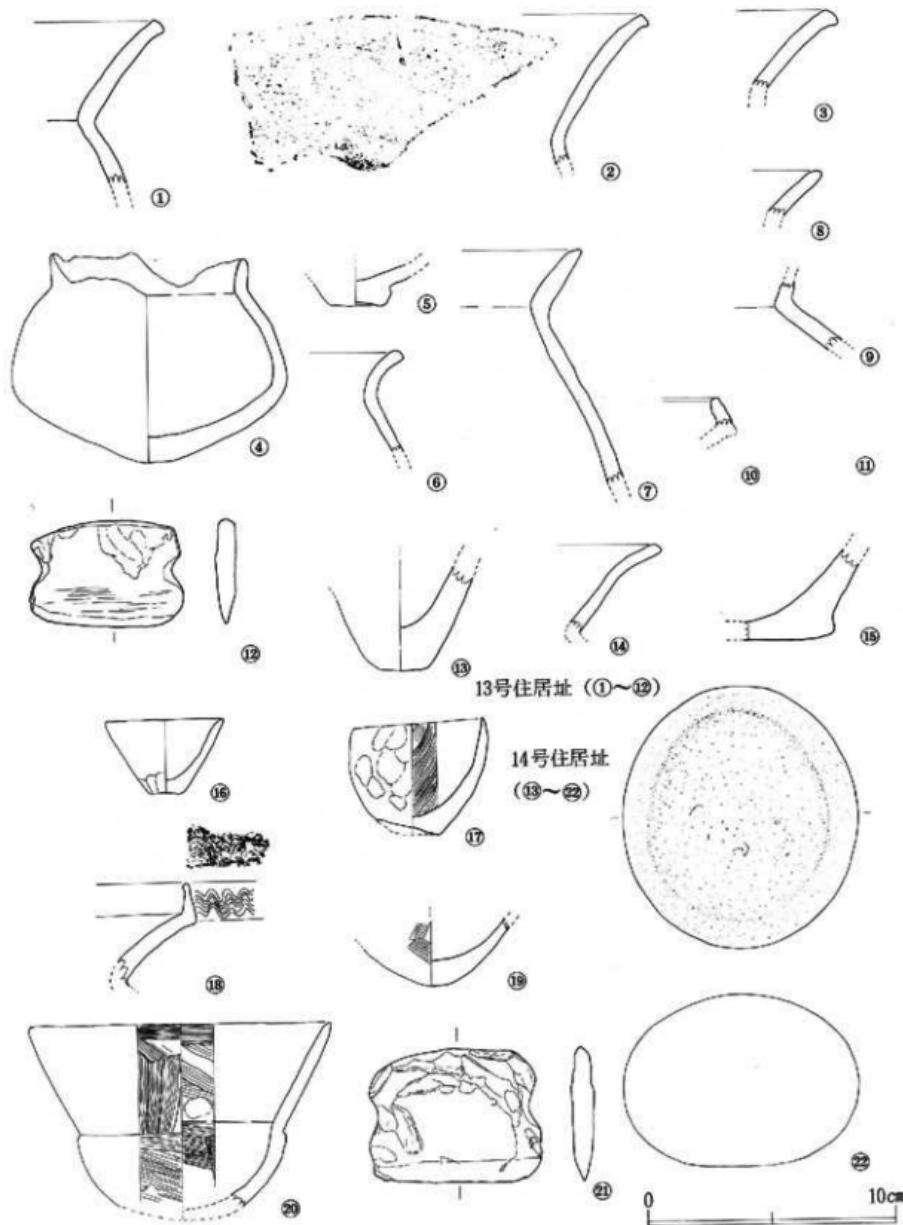
15号住居址と同じF-2グリットから検出された方形状プランの竪穴式住居址で、長軸5.15m・短軸4.75mの規模を有する。床面は平坦で、東中央部60cmの範囲内に焼土が検出された。径25～28cm・深さ19～29cmの円形柱穴4個が検出されているが、支柱は中央部に配された2本と思われる。壁面は約70度で立ち上がり、壁高は40cmを計る。遺物は壺形土器（1・4・5）、鉢形土器（3・6～12）、壺形土器（2・13～17）、高坏（18～20）、鐵鎌（21）、磨製石包丁（22・23）が出土している。1は小型の壺形土器で、外面は口縁部にヨコナデ、頸部にタテハケ、胴部に丁寧なヘラ磨き、内面は口縁部にヨコナデ、以下ヘラ磨き調整が施されている。11は脚付の鉢形土器、12は尖りぎみの丸底を有するミニチュアの鉢形土器である。13は複合鋸歯文、14は横描波状文が施された二重口縁壺の口縁部である。17は卵形の胴部で丸底を有する壺形土器の体部で、調整は風化著しく不明である。20は高坏のミニチュアで、丁寧なヘラ磨きが施されている。21は有茎式鐵鎌の茎、22・23は長軸に抉りが施されている長方形の磨製石包丁である。



I～赤黒色土（アカホヤブロック混入）Hue 7.5YR 1.7/1

II～樹根

第41図 14号住居址実測図

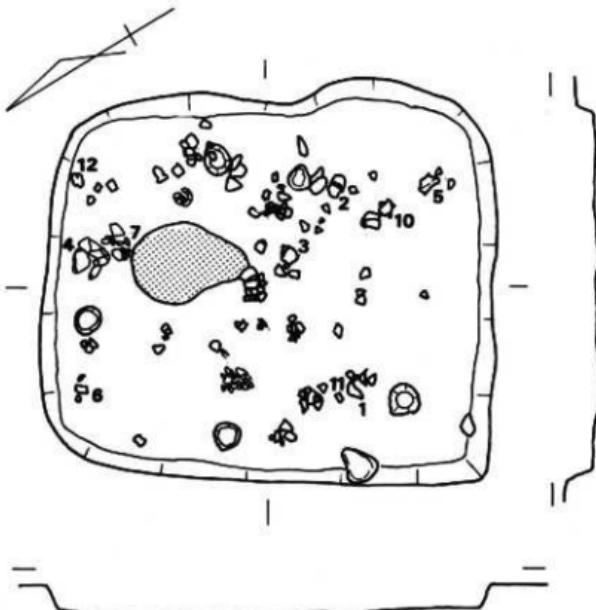


第42図 13号・14号住居址出土遺物実測図・拓影

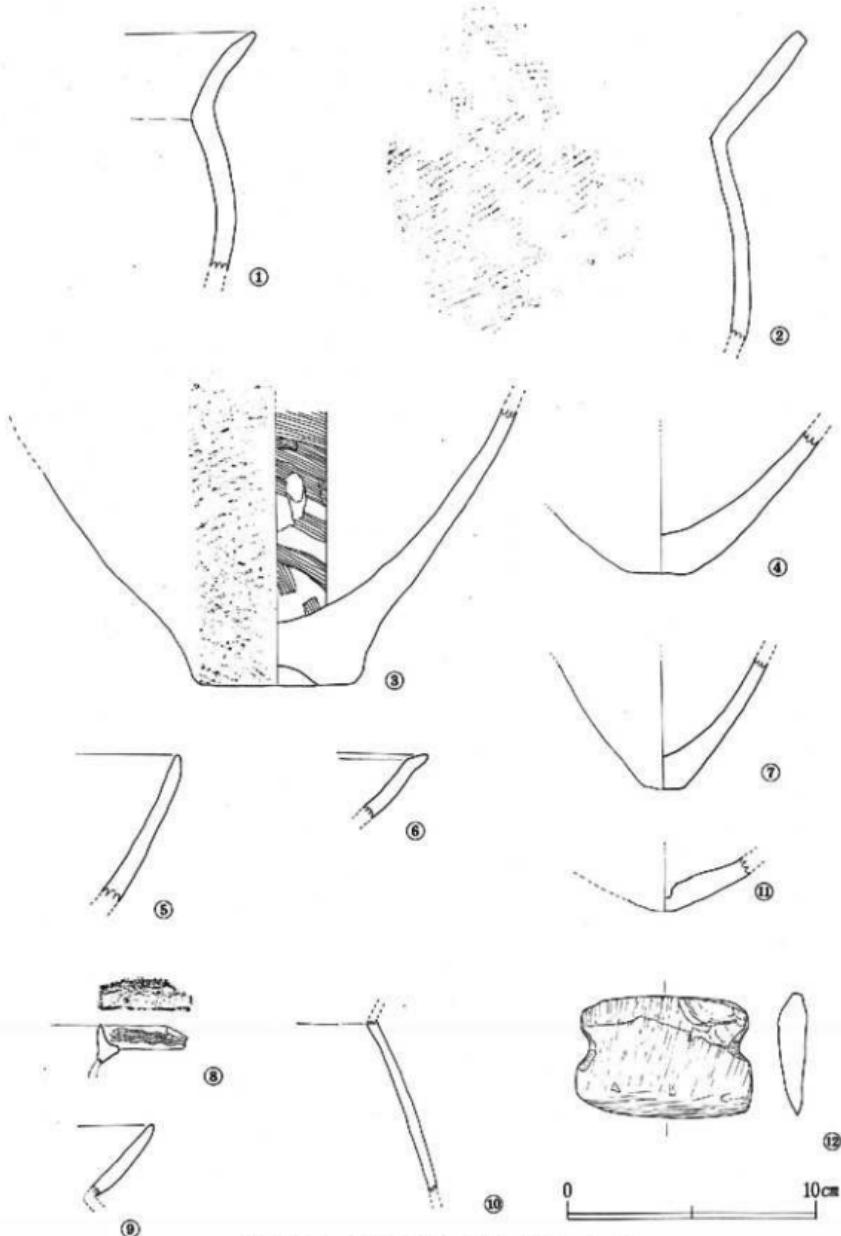
17号住居址（第48図・49図）

16号住居址の北E-2グリットから検出された四隅が曲線的な方形状プランの竪穴式住居址で、北部がわずかにせり出している。長軸3.7m・短軸3.6mの規模を有する。床面は平坦で、径25~40cm・深さ14~36cmの円形柱穴4個、長軸1.1m・短軸0.75mの不整橢円形の土坑が検出されている。主柱は中央部に配された2本と思われる。壁面は約75度で立ち上がり、壁高は45cmを計る。

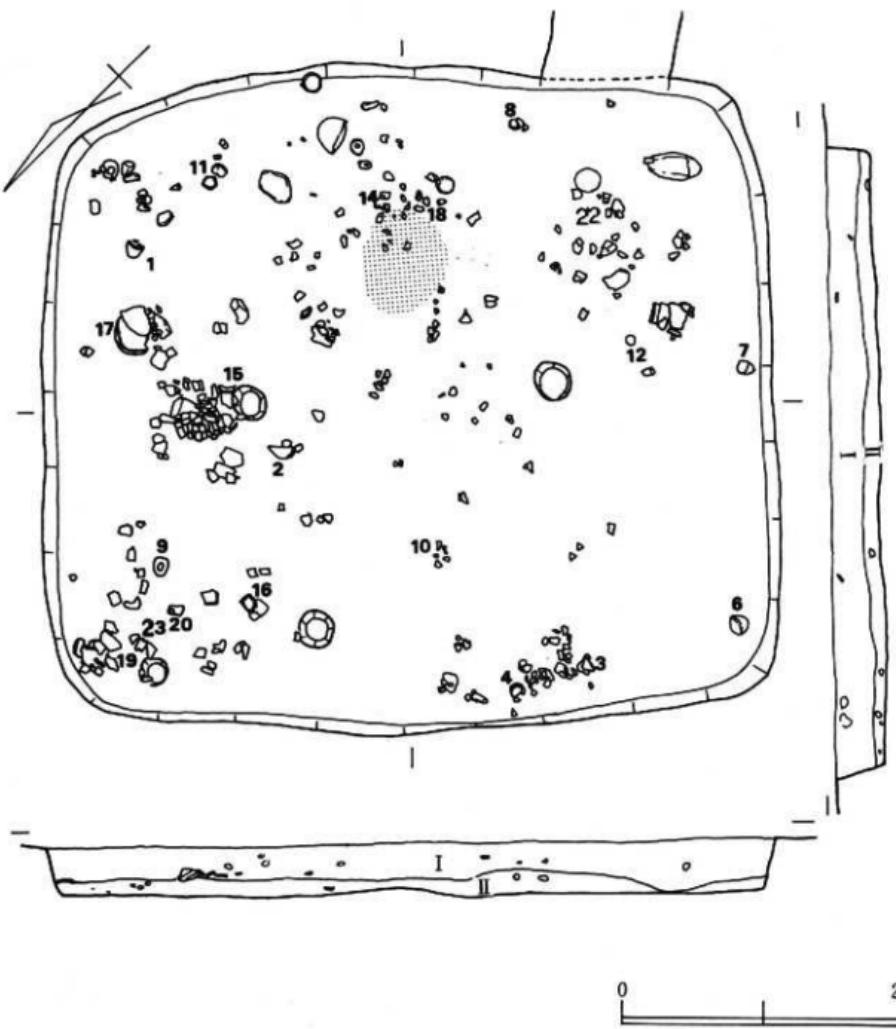
遺物は壺形土器（1~6）、鉢形土器（8~10）、壺形土器（11）、高环（12）、磨製石包丁（13）が出土している。1は口縁部が内湾した、2・3・6は外反した壺形土器で、5は底部に指紋が残存している。8・9は脚付の鉢形土器で、脚は外下方に延び、胴部は半球形で内湾しながら立ち上がり、口縁部は短く外反している。外面は口縁部にヨコナデ、胴部にタテハケ、脚にヨコナデ、内面は口縁部にヨコナデ、以下ヨコないし斜めハケ後簡単なヘラ磨き？、脚にヨコナデ調整が施されている。13は長軸に抉りが施された長方形の磨製石包丁である。



第43図 15号住居址実測図



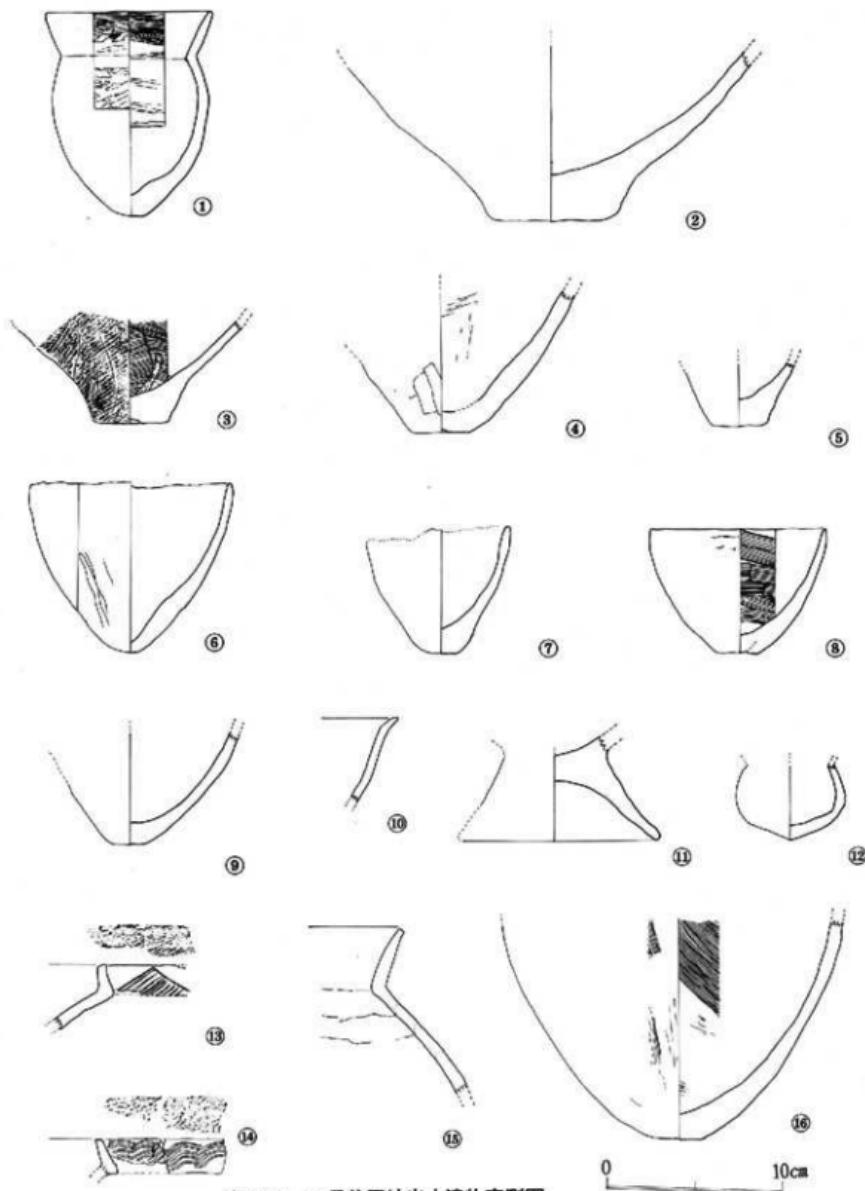
第44図 15号住居址出土遺物実測図・拓影



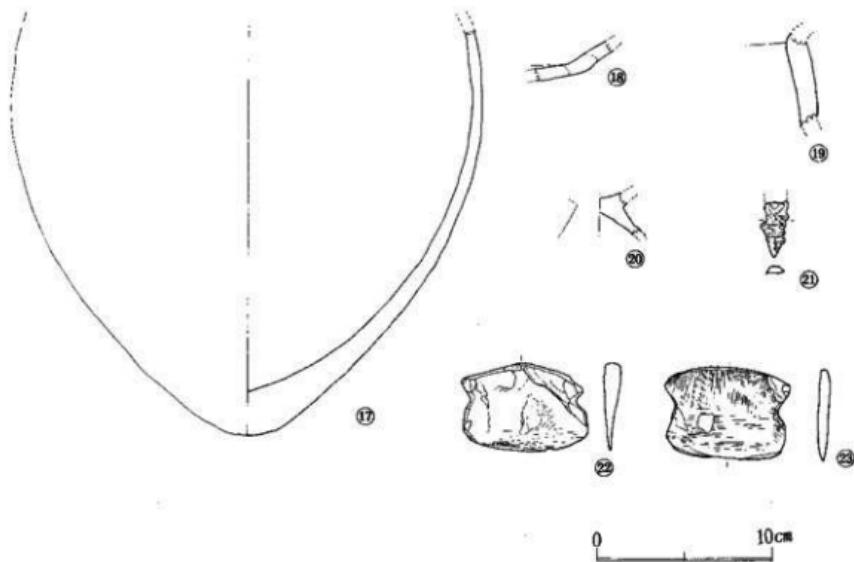
I ~ 黒色土（アカホヤブロック混入） Hue 10 YR 2 / 1

II ~ 黑褐色土（　　"　　） Hue 10 YR 2 / 3

第45図 16号住居址実測図



第46図 16号住居址出土遺物実測図



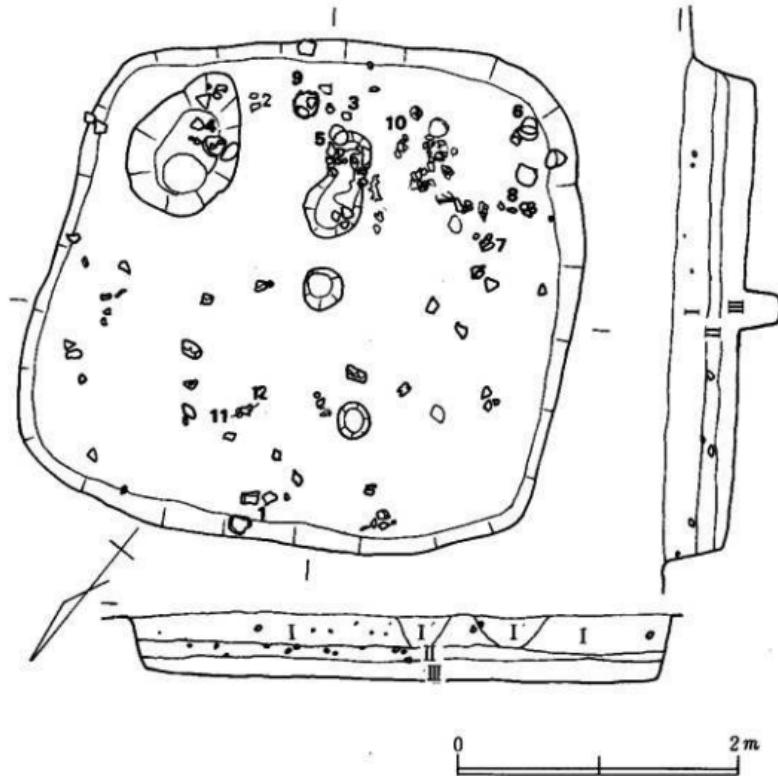
第47図 16号住居址出土遺物実測図

18号住居址（第50図・51図）

17号住居址の東E-2・3からD-2・3にかけて検出された方形状プランの堅穴式住居址で、北西部がわずかにせり出している。長軸5.2m・短軸5.1mの規模を有する。床面は平坦で、径23~35cm、深さ14~42cmの円形柱穴5個が検出されている。主柱は2本と思われる。壁面は約80度で立ち上がり、壁面は35cmを計る。

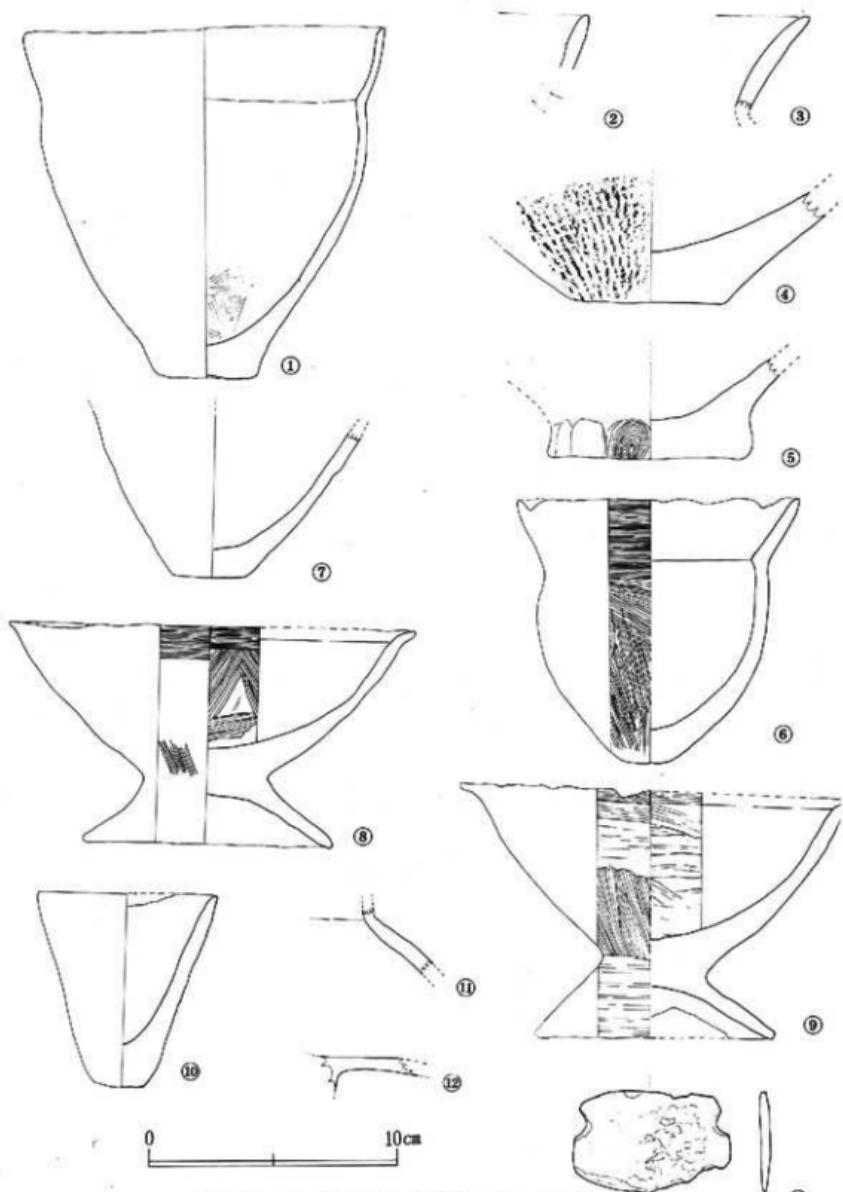
遺物は南部を中心に出土しているが、量的には少ない。このなかには壺形土器など復元できる資料も含まれているが、時間の制約上図化できなかった。壺形土器（1~3）、鉢形土器（4~6）、壺形土器（7・8）、高坏（9・10）、磨製石包丁（11・12）、石錐（13）が出土している。2は底部に段を有する壺形土器の底部で、外面に斜めの叩き、内面にナデ調整が施されている。このような底部は本遺跡ではこの1点のみである。4は脚付の鉢形土器のミニチュア、5は尖底を有する鉢形土器、6はわずかのあげ底を

有する鉢形土器である。7は口縁部が外反し、口唇部で直口する壺形土器の口縁部、8は口縁部が短く外反し、胴部は卵形、底部は丸底を呈する壺形土器である。調整は内外面風化著しく不明。胎土はあらく、橙色を呈している。9・10は高坏の脚部で、いずれも脚柱がストレートタイプのものである。10は外面に丁寧なヘラ磨きが施されている。

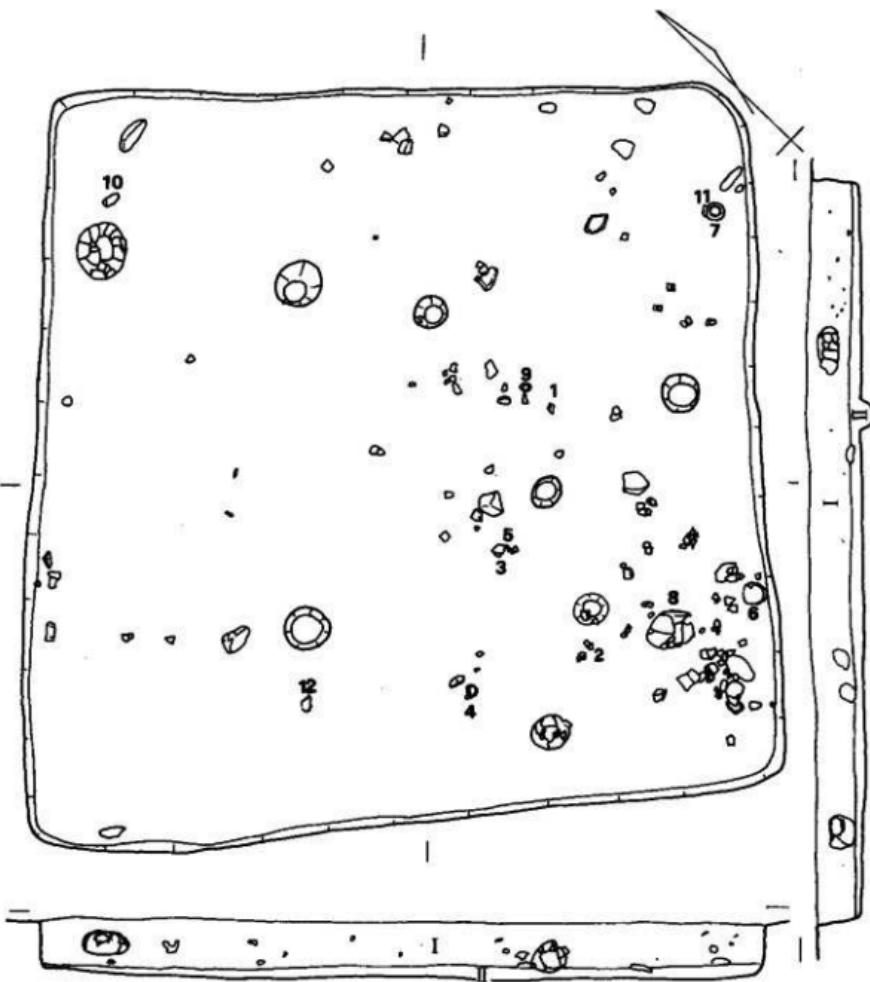


- I ~ 黒色土（アカホヤブロック混入） Hue 10 YR 2 / 1
- I' ~ 樹根
- II ~ 暗黒褐色土（アカホヤブロック多量混入） Hue 5 YR 2 / 1
- III ~ 黑褐色土

第48図 17号住居址実測図

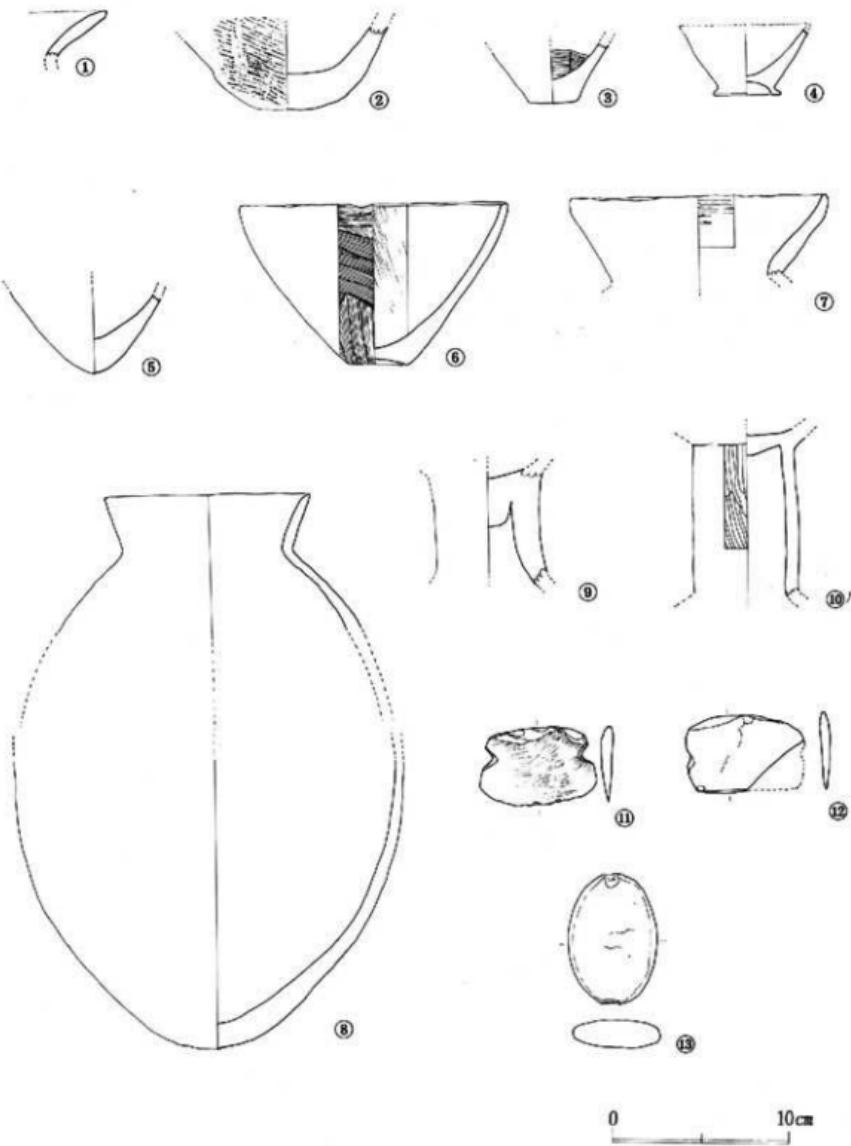


第49図 17号住居址出土遺物実測図・拓影



I～ 赤黒色土（アカホヤブロック混入）Hue 2.5 YR 1.7/1
 II～ 黒色土 Hue 7.5 YR 2/1

第50図 18号住居址実測図



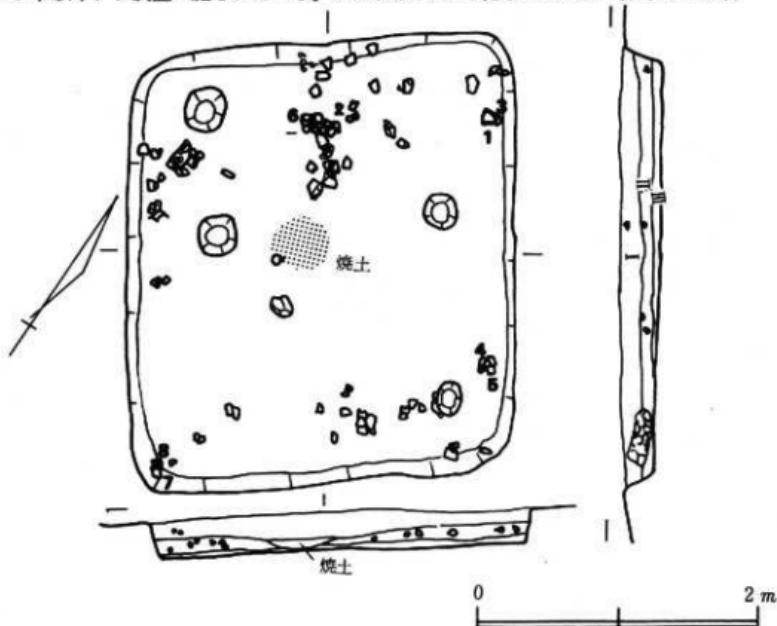
第51図 18号住居址出土遺物実測図・拓影

11・12は長軸に抉りが施された長方形の磨製石包丁である。13は長軸に打ち欠きを有する頁岩製の石錐で、長軸7.3cm・短軸5.0cm・厚さ1.3cmを計る。

19号住居址（第52図・53図）

D-1・2グリットから検出された方形プランの堅穴式住居址で、長軸3.1m・短軸2.75mの規模を有する。中央部の埋土内から径45cmの範囲に焼土が検出されている。床面は平坦で、径20~30cm・深さ14~17cmの円形柱穴が4個検出されているが、主柱は中央部に配された2本と思われる。

遺物は北部を中心に出土しているが、量的には少ない。壺形土器（1・2）、鉢形土器（3~5）、壺形土器（6）、高坏（7）、磨製？石包丁（8）、すり石（9・10）が出土している。1は口縁部がゆるやかに外反し、胴部最大径を中位にもち、ゆるやかに内湾しながら底部に続く壺形土器で、外面は全面にヨコ方向の叩き、内面は口縁部にヨコナデ、以下ナデ調整が施されている。3はゆるやかに外反しながら口縁部に至る脚

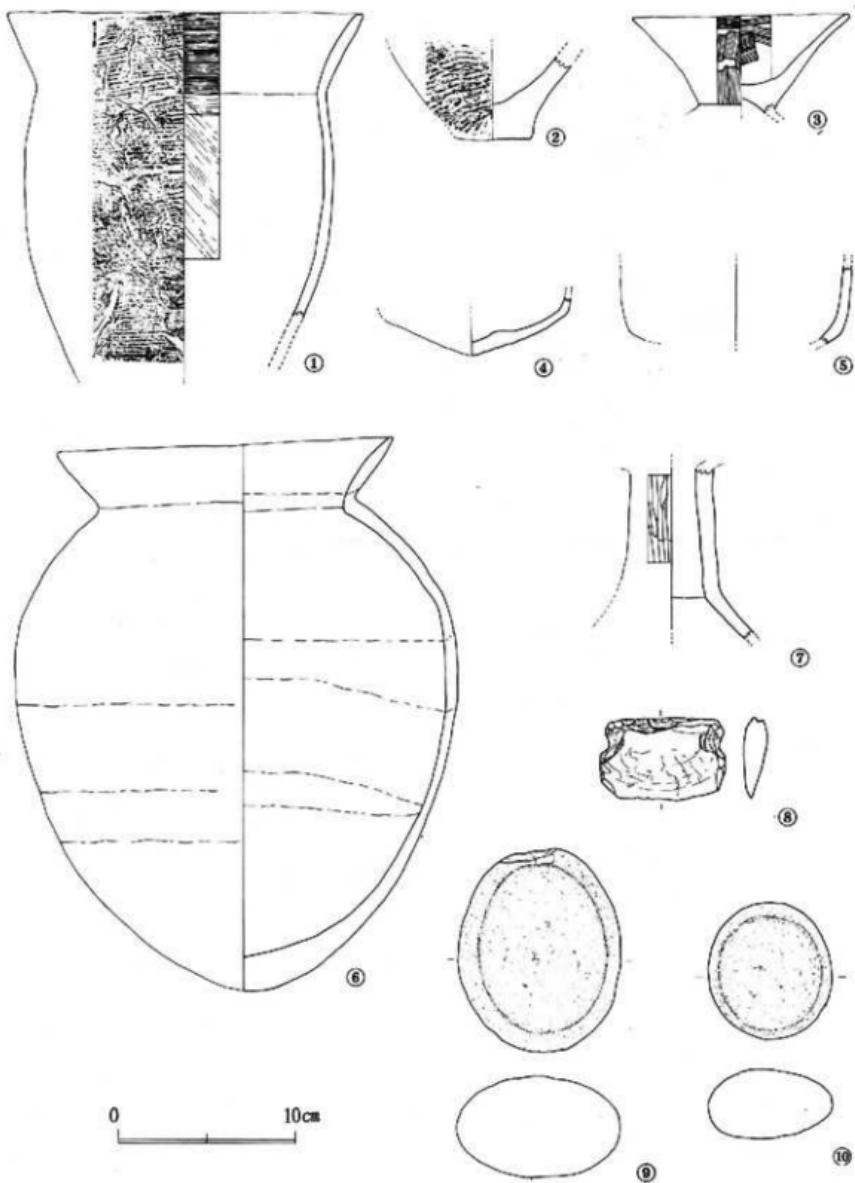


I ~ 黒色土 (アカホヤブロック混入) Hue 10 YR 2/1

II ~ 黑褐色土 (アカホヤブロック多量混入)

III ~ 黑褐色土 Hue 10 YR 2/3 Hue 10 YR 2/2

第52図 19号住居址実測図



第53図 19号住居址出土遺物実測図

付の鉢形土器で、脚部が欠損している。外面は口縁部にヨコナデ、以下タテハケ、内面は斜めハケ調整が施されている。4・5は同一個体で内面に丹塗りを有する鉢形土器で、口縁部が欠損している。底部は尖りきみの丸底で大きく広き、胴部は垂直を呈するもので、器厚が薄い。外面はヘラ磨き、内面はナデ調整が施されている。6は口縁部が外反し、卵形の胴部、底部は丸底を有する壺形土器である。調整は内外面風化著しく不明である。調整は内外面風化著しく不明である。胎土はあらく、橙色を呈している。8は長軸に抉りが施された長方形の磨製？石包丁であるが、剥離面を多く残し、裏面は自然面をそのまま残し、ほとんど磨かれていない。9・10は砂岩製のすり石で、9は長軸12cm・短軸9.2cm・厚さ5cm・10は長軸7.8cm・短軸7.2cm・厚さ4.8cmを計る。

表3 石包丁計測一覧表

図面番号	出土地	長軸(cm)	短軸(cm)	厚さ(中央)(cm)	重量(g)	備考	図面番号	出土地	長軸(cm)	短軸(cm)	厚さ(中央)(cm)	重量(g)	備考
第19図36	2号住	6.3	4.9	0.6	37	長軸に抉り	第47図22	16号住	7.1	4.9	0.7	43	長軸に抉り 剥離面多く残存
第21図12	4号住	8.7	5.6	0.7	54	剥離面多く残存	第47図23	16号住	7.0	5.0	0.6	42	長軸に抉り 剥離面多く残存
第24図11	5号住	7.4	4.9	0.8	50	長軸に抉り	第49図13	17号住	6.3	4.1	0.35	12	長軸に抉り 刃部半分程欠損
第29図6	9号住	8.7	5.2	0.6	55		第51図11	18号住	6.5	4.4	0.6	26	長軸に抉り
第34図60	10号住	8.5	5.3	1.0	85	長軸に抉り	第51図12	18号住			4.2	0.4	20 長軸に抉り 4分の1程欠損
第34図61	10号住	7.2	4.7	0.7	40	長軸に抉り 片面自然面 剥離面残存	第53図8	19号住	7.0	4.6	1.2	61	長軸に抉り 片面自然面 剥離面残存
第42図12	13号住	6.2	4.3	0.8	35	長軸に抉り 剥離面多く残存	第55図	P-270	8.8	5.4	1.0	95	未製品
第42図21	14号住	6.9	5.3	0.9	45	長軸に抉り 剥離面多く残存	第55図8	一括	8.2	4.5	0.6	40	反軸に抉り 刃部弯曲
第44図12	15号住	7.1	4.9	1.1	56	長軸に抉り							

柱穴（第12・54図）

柱穴は南側傾斜地を除く全体から420個程検出されているが、すべてが住居址に伴うものでもなく、同時代に建てられた倉庫的な建物の柱穴かもしれないし、掘立柱建物跡にも検出されていることから後世のものも多く含まれているものと考察される。いずれにしろ、多くの柱穴が検出され、複雑な柱穴群となっており、また、出土遺物も限られていることから時代的なことなど判断が難しい。

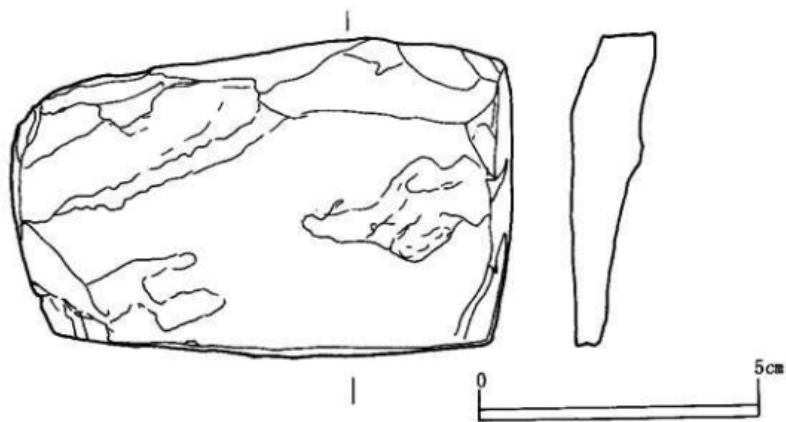
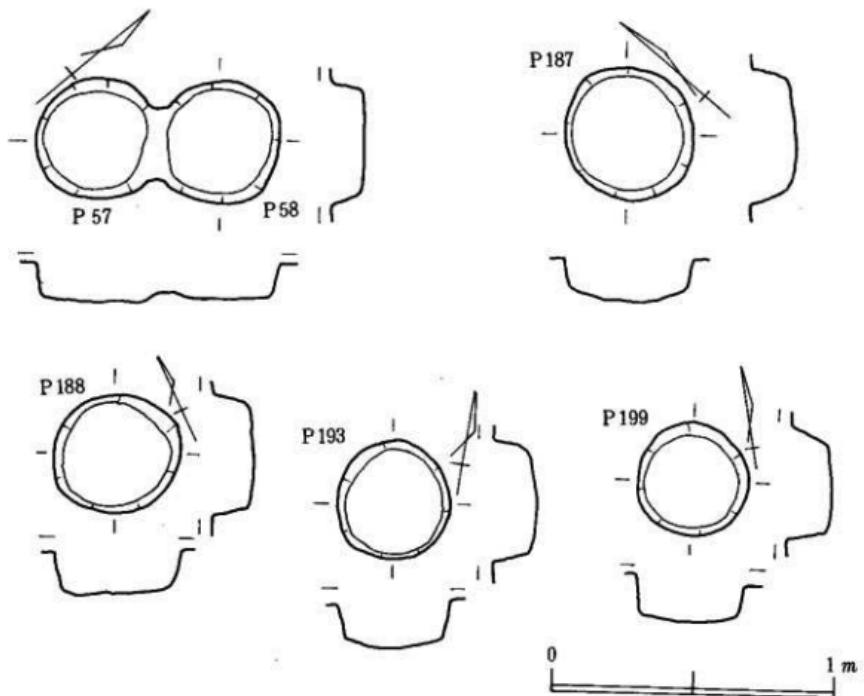
第54図1は石包丁の未製品で、片面のみ磨きがかけられ、もう片面は剥離面が残っている。刃部は整形されていない。E-5グリットの円形柱穴（P-270）から出土している。

その他の出土遺物（第55図）

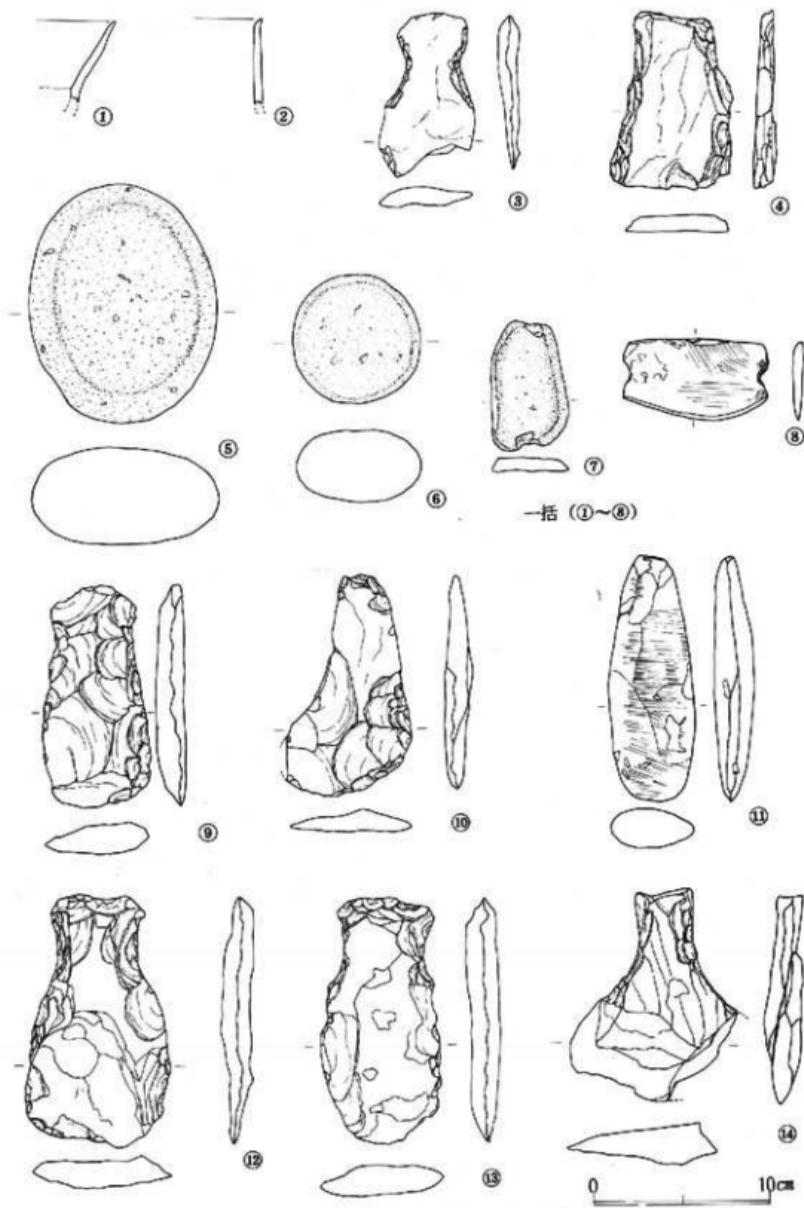
その他の遺物としては遺構外で土器や有肩打製石斧などの石器が出土している。また、一括として土器や打製石斧・すり石・磨製石包丁などの石器が出土している。1~8は一括である。1・2は壺形土器の口縁部で、1は口縁部が上方に長く伸びた小型丸底壺の口縁部、2は口縁部が直線的に内傾した鉢形土器の口縁部と思われる。3は刃部が欠損した両耳型の有肩打製石斧、4は刃部が欠損した打製石斧で、3は現存長9.6cm・最大幅5.3cm・最大厚1.3cm、4は現存長10.1cm・最大幅5.8cm・最大厚1.0cmを計る。5は梢円形を呈した安山岩系、6は円形を呈した砂岩製のすり石で、5は長軸13.3cm・短軸10.4cm・最大厚5.2cm、6は径7.2cm・最大厚4.1cmを計る。7は長軸に打ち欠きを有する砂岩製の石錐で、長軸7.3cm・短軸4.2cm・最大厚0.7cmを計る。8は長軸に抉りが施された長方形の磨製石包丁で、刃部が曲線を描いている。

9・10はD-6グリットから出土した有肩打製石斧で、9は両耳型のもので、最大長12.6cm・最大幅7.0cm・最大厚1.3cmを計る。

11~14は遺跡確認調査（試掘調査）において出土した石斧であるが、遺跡確認調査では前述したように打製石斧以外に多量の土器片が出土している。しかし、そのほとんどが住居址内であり、器種も本報告書で図化したものに含まれることから、住居址外から出土した石器、なかでも特徴ある石斧のみ図化した。11は細身の磨製石斧で、最大長14.2cm・最大幅4.6cm・最大厚2.2cmを計る。12~14は有肩打製石斧で、12は最大長13.8cm・最大幅6.9cm・最大厚1.6cm、13は最大長13.9cm・最大幅6.9cm・最大厚1.7cmを計る両耳型のものである。15は刃部の広い広葉型の有肩打製石斧で、最大長13.8cm・最大幅6.9cm・最大厚1.6cmを計る。



第 54 図 柱穴・柱穴出土遺物実測図



第55図 一括・本調査・遺跡確認調査（試掘調査）

表 4 动物生時代～終末～古墳時代初期土器の解説表

図面番号	通名	器種	部位	質			色調		胎土	備考
				外	内	面	外	内		
第13回 1	1号生	縦	口縁部	粗面(口縁部)・直角切欠	ヨコナデ	肩好	褐色	10787/5	褐色	10787/5 2-3前後の結合心下地式系譜
	2	"	"	輪郭(口縁部)の切欠	ヨコナデヨコナデ	やや不良	褐色	10788/4	褐色	10788/3 やや3-4段階手筋
第16回 1	2号生	"	底部	口縁部	ヨコナデ	"	褐色	10789/4	褐色	10789/1 輪郭ヨコナデ
	2	"	"	口縁部	口縁部	"	褐色	10789/4	褐色	10789/4 輪郭ヨコナデ手筋
第17回 1	3号生	"	"	口縁部	ヨコナデ	"	褐色	10789/3	褐色	10789/4 輪郭ヨコナデ手筋
	4	"	"	口縁部	輪郭(口縁部)切欠	輪めナデ	"	褐色	2,578/4	褐色
第18回 1	5号生	"	"	口縁部	輪めナデ	"	褐色	2,578/2	褐色	2,578/3 輪めナデ手筋
	6	"	"	丁寧なナデ	輪めナデ	"	褐色	2,578/3	褐色	2,578/3 輪めナデ手筋
第19回 1	7	"	底	部	輪めナデ	"	褐色	2,578/1	褐色	2,578/1 輪めナデ手筋
	8	"	"?	口縁部	輪めナデ	"	褐色	2,578/4	褐色	2,578/4 輪めナデ手筋
第20回 1	9	"	"	輪めナデ	ヨコ・輪めナデ	"	褐色	10788/3	褐色	10788/1 輪めナデ手筋
	10	"	"	輪めナデ	ナデ	"	褐色	2,578/4	褐色	2,578/4 輪めナデ手筋
第21回 1	11	"	"	輪めナデ	ナデ	"	褐色	2,578/4	褐色	2,578/4 輪めナデ手筋
	12	"	輪	口縁部	輪めナデ	"	褐色	2,578/3	褐色	2,578/2 輪めナデ手筋
第22回 1	13	"	"	上端輪めナデ	輪めナデ	"	褐色	10777/4	褐色	2,578/4 輪めナデ手筋
	14	"	輪付鉢	ヨコ・タテナデ	ヨコナデ	"	褐色	10787/2	褐色	10787/1 輪付鉢
第23回 1	15	"	輪付鉢	ヨコ・タテナデ	ヨコナデ	"	褐色	10788/3	褐色	2,578/3 輪付鉢
	16	"	輪	ヨコ・タテナデ	ヨコナデ	"	褐色	10788/3	褐色	2,578/3 輪付鉢
第24回 1	17	"	"	ヨコナデ	ヨコナデ	"	褐色	10786/3	褐色	2,578/3 ヨコナデ
	18	"	"	ナデ	ナデ	"	褐色	10786/2	褐色	2,578/2 ヨコナデ
第25回 1	19	"	"	丁寧なナデ/ヨコナデ	ヨコナデ	"	灰色	7,575/1	灰色	7,575/1 丁寧なナデ
	20	"	輪	部	丁寧なハラ腰	ヨコナデ	"	褐色	10788/6	褐色

新1回	21	2号住	幹	脚・頭	T形・滑脱脚	ヨコナデ	ヨコナデ	足F	尾端	1078/5	雄性	1078/3	6h 3-4歳	雄性	1078/3	雄性	1078/3	雄性	
新1回	22	"	茎		圓錐コロナ付茎葉類似	ナデ/圓化きみ	ナデ/圓化きみ	"	雄性	1078/3	雄性	1078/3	6h 1-3歳	雄性	1078/3	雄性	1078/3	雄性	
"	23	"	"		圓錐コロナ付茎葉類似	ナデ	ナデ	"	雌性	1078/2	雌性	1078/2	"	"	雄性	1078/2	雄性	1078/2	雄性
"	24	"	"		圓錐コロナ付茎葉類似	圓錐コロナ付茎葉類似	圓錐コロナ付茎葉類似	"	雄性	1078/3	雄性	1078/3	"	"	雄性	1078/3	雄性	1078/3	雄性
"	25	"	"	口輪部	圓錐コロナ付茎葉類似	ヨコナデ	ヨコナデ	"	雄性	57/2	雄性	2,578/3	6h 1-3歳	雄性	1078/3	雄性	1078/3	雄性	
"	26	"	"	基 部	ナデ	ナデ	ナデ	"	雄性	2,378/3	雄性	2,378/3	6h 1-3歳	雄性	1078/3	雄性	1078/3	雄性	
"	27	"	"	頭 部	圓錐コロナ付茎葉類似	圓錐コロナ付茎葉類似	圓錐コロナ付茎葉類似	"	雄性	1078/4	雄性	577/1	6h 1-3歳	雄性	1078/4	雄性	1078/4	雄性	
新1回	28	"	"	頭 部	圓錐コロナ付茎葉類似	ナデ	ナデ	"	雄性	1078/4	雄性	1078/4	"	"	雄性	1078/4	雄性	1078/4	雄性
"	29	"	"	頭・頭	丁寧なナデ	圓錐コロナ付茎葉類似	圓錐コロナ付茎葉類似	"	雄性	1078/4	雄性	1078/4	"	"	雄性	1078/4	雄性	1078/4	雄性
"	30	"	"	"	丁寧な系め・ヨコナデ	系め・ヨコナデ	系め・ヨコナデ	"	雄性	1078/3	雄性	7,578/2	6h 1-3歳	雄性	1078/3	雄性	1078/3	雄性	
"	31	"	茎		圓錐コロナ付茎葉類似	圓錐コロナ付茎葉類似	圓錐コロナ付茎葉類似	"	雄性	2,578/3	雄性	2,578/3	6h 1-3歳	雄性	1078/4	雄性	1078/4	雄性	
"	32	"	茎	基 部	ナデ	ナデ	ナデ	"	雄性	7,578/4	雄性	1078/4	"	"	雄性	7,578/4	雄性	1078/4	雄性
"	33	"	主軸部	受 容	圓錐コロナ付茎葉類似	圓錐コロナ付茎葉類似	圓錐コロナ付茎葉類似	"	雄性	578/6	雄性	1078/4	"	"	雄性	1078/4	雄性	1078/4	雄性
"	34	"	茎	基 部	圓錐コロナ付茎葉類似	ヨコハケ	ヨコハケ	"	雄性	2,578/3	雄性	2,578/3	6h 1-3歳	雄性	1078/3	雄性	1078/3	雄性	
"	35	"	"	脚生部	ナデ	ナデ	ナデ	"	雄性	1078/2	雄性	1078/2	"	"	雄性	1078/2	雄性	1078/2	雄性
新1回	1	3号住	要		口輪部	縫めハケ	ヨコナデ	"	雄性	7,578/6	雄性	7,578/6	6h 1-3歳	雄性	1078/6	雄性	1078/6	雄性	
"	2	"	"	"	ヨコナデ/縫めハケ	ヨコナデ	ヨコナデ	"	雄性	7,578/4	雄性	2,578/4	"	"	雄性	7,578/4	雄性	1078/4	雄性
"	3	"	"	"	縫めハケ	縫めハケ	縫めハケ	"	雄性	2,578/4	雄性	2,578/4	"	"	雄性	2,578/4	雄性	2,578/4	雄性
"	4	"	"	頭・頭	タチハケ	タチハケ	タチハケ	"	雄性	2,577/2	雄性	574/1	"	"	雄性	2,577/2	雄性	574/1	雄性
"	5	"	幹		圓化著しい	ナデ	ナデ	"	雄性	1078/3	雄性	2,578/3	6h 2-3歳	雄性	1078/3	雄性	1078/3	雄性	
"	9	4号住	要	口輪部	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	"	雄性	1078/3	雄性	1078/3	"	"	雄性	1078/3	雄性	1078/3	雄性
"	10	"	"	幹	タチハケ/縫めハケ	ナデ	ナデ	"	雄性	2,573/1	雄性	2,573/1	"	"	雄性	2,573/1	雄性	2,573/1	雄性
"	11	"	"		圓錐コロナ付	圓錐コロナ付	圓錐コロナ付	"	雄性	2,578/3	雄性	1078/4	6h 2-3歳	雄性	1078/4	雄性	1078/4	雄性	
"	13	3号住	主軸部	2条の凹縫又/ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	"	雄性	1078/4	雄性	1078/4	"	"	雄性	1078/4	雄性	1078/4	雄性
新1回	1	5号住	要	"	ヨコナデ後へラ退き	"	"	"	雄性	1078/3	雄性	1078/3	"	"	雄性	1078/3	雄性	1078/3	雄性

図面番号	種類名	器種名	部位	外観		内観		構成		色調		地土	備考
				前面	背面	前面	背面	前面	背面	前面	背面		
第2回 2	5号生	糸 鞍 部	リバーサイド・ヨコナデ	ナデ	無	無	無	1078/4	無	紺色	1078/4	紺色	3-4種類の特徴
" 3	"	糸 鞍 部	口縫部 ヨコナデ	ヨコナデ/斜めハケ	"	"	"	1078/4	無	紺色	1078/4	紺色	3-4種類の特徴
" 4	"	"?	"?	ヘラ巻き	ヨコナデ	"	"	1078/4	無	紺色	1078/4	紺色	3-4種類の特徴
" 5	"	糸 鞍 部	タテハケ	ヘラ巻き	"	"	"	1078/3	無	紺色	1078/3	紺色	3-4種類の特徴
" 6	"	糸 鞍 部	横・縦ナデ	斜めハケ/ナデ	"	"	"	1078/6	無	紺色	1078/6	紺色	3-4種類の特徴
" 7	"	糸 鞍 部	"	ヨコナデ	"	"	"	1078/7	無	紺色	1078/7	紺色	3-4種類の特徴
" 8	"	糸 壁 別 部	ヨコナデ	ヨコナデ	"	"	"	1078/2	無	紺色	1078/2	紺色	3-4種類の特徴
" 13	6号生	糸 鞍 部	リバーサイド・ヨコナデ	リバーサイド・ヨコナデ	"	"	"	1078/6	無	紺色	1078/7	紺色	3-4種類の特徴
" 14	"	糸 鞍 部	ナデ	斜めハケ	"	"	"	1078/8	無	紺色	1078/8	紺色	3-4種類の特徴
" 15	"	"?	"?	壁 部	"	"	"	1078/4	無	紺色	1078/4	紺色	3-4種類の特徴
" 16	"	糸 壁 部	ヨコナデ	ヘラ巻き	"	"	"	1078/6	無	紺色	1078/6	紺色	3-4種類の特徴
" 17	"	糸 鞍 部	タチハケ/ナデ	ヘラ巻き	"	"	"	1078/7	無	紺色	1078/3	紺色	3-4種類の特徴
" 18	"	"	ナデ	ナデ	"	"	"	1078/4	無	紺色	1078/4	紺色	3-4種類の特徴
" 19	"	糸 壁 部	"	"	"	"	"	1078/6	無	紺色	1078/6	紺色	3-4種類の特徴
" 20	"	"	脚 部	"	"	"	"	1078/6	無	紺色	1078/6	紺色	3-4種類の特徴
" 21	"	"	ヘラ巻き/タチハケ	ヨコナデ後ヘラ巻き	"	"	"	1078/4	無	紺色	1078/4	紺色	3-4種類の特徴
" 22	"	端	ナデ	ナデ	"	"	"	1078/6	無	紺色	1078/6	紺色	3-4種類の特徴
第2回 1	7号生	糸 鞍 部	口縫部 (ヨコナデ・ヨコナデ)	ヨコナデ/ヨコナデ	"	"	"	1078/6	無	紺色	1078/2	紺色	3-4種類の特徴
" 2	"	"	"	ヨコナデ	"	"	"	1078/2	無	やや不規	1078/2	無	3-4種類の特徴
" 3	"	"	"	"	ヨコナデ	"	"	1078/4	無	紺色	1078/4	紺色	3-4種類の特徴
" 4	"	"	"	斜めハケ後ヨコナデ	"	"	"	1078/4	無	紺色	1078/1	紺色	3-4種類の特徴
" 5	"	"	脚 部	(ヨコナデ・ヨコナデ)	"	"	"	1078/3	無	紺色	1078/3	紺色	3-4種類の特徴
" 6	"	"	底 部	斜め方向の巻き	斜めハケ	"	"	1078/7	無	紺色	1078/7	紺色	3-4種類の特徴

第25区	7	7号生	要	底	新	新め方向の切き	ナデ	良好	綿地	2,578/3	綿地	2,578/1	糸小 3-4種類存在	綿3.1m	
"	8	"	絲	"	"	"	"	"	褐色	5178/6	綿地	1078/4	"	綿3.1m	
第26区	1	8号生	要	口縫部	"	"	口縫部ヨコナデ	やや不良	綿地	1078/4	綿地	1078/4	"	綿3.1m	
"	2	"	丝	底	新	タチナデ	ナデ	良好	"	"	綿地	2,578/2	糸小 2-3種類存在	綿3.1m	
"	3	"	絲	口縫部	【織合針】織合部分	"	"	"	綿地	2,578/3	綿地	2,578/4	"	綿3.1m	
"	4	"	丝	底	新	ナデ	ナデ	"	綿地	5178/6	綿地	5178/6	"	綿3.1m	
"	5	"	"	口縫部	【織合針】織合部分	【織合針】織合部分	【織合針】織合部分	"	褐色	2,578/6	綿地	2,578/6	"	綿3.1m	
第27区	1	9号生	絹	"	"	「事な」ナデ	ヨコナデ	"	綿地	2,578/4	綿地	2,578/4	"	綿3.1m	
"	2	"	生縫	口縫部	丁寧なヘラ巻き	"	"	"	ビニ地	7,578/4	ビニ地	7,578/4	こまかい	"	
"	3	"	丝	底	新	"	「事な」ナデ?	"	ビニ地	7,578/4	ビニ地	2,578/1	"	"	
"	4	"	生縫	口縫部	"	"	ヨコナデ	"	綿地	7,578/6	綿地	1078/4	糸小 2-4種類存在	"	
"	5	"	高	环	美	新	新めハケ使用異なへラ巻き	新めハケ使用異なへラ巻き	"	綿地	1078/3	綿地	1078/1	こまかい	"
第28区	1	10号生	要	"	"	【織合針】織合部分	【織合針】織合部分	【織合針】	褐色	7,578/7	綿地	1078/2	糸小 3-4種類存在	綿3.1m	
"	2	"	口縫部	【織合針】織合部分	【織合針】織合部分	【織合針】織合部分	【織合針】織合部分	"	綿地	1078/3	ビニ地	1078/2	糸小 2-3種類存在	"	
"	3	"	"	"	"	ヨコ・斜めハケ	ヨコ・斜めハケ	"	綿地	1078/6	綿地	1078/6	"	"	
"	4	"	"	"	【織合針】織合部分	【織合針】織合部分	【織合針】織合部分	【織合針】織合部分	"	綿地	1078/3	ビニ地	1078/3	"	
"	5	"	"	ヨコナデ	"	【織合針】織合部分	【織合針】織合部分	"	綿地	1078/6	綿地	1078/6	"	"	
"	6	"	"	"	【織合針】織合部分	【織合針】織合部分	【織合針】織合部分	"	ビニ地	1078/4	ビニ地	1078/4	"	"	
"	7	"	"	"	【織合針】織合部分	【織合針】織合部分	【織合針】織合部分	"	褐色	5178/6	褐色	5178/6	"	"	
"	8	"	"	"	新めハケ	新めハケ	新め・タテハケ	"	綿地	7,578/6	綿地	7,578/4	"	"	
"	9	"	"	"	【織合針】織合部分	【織合針】織合部分	【織合針】織合部分	"	やや不良	綿地	1078/4	綿地	1078/3	糸小 3-5種類存在	
"	10	"	"	"	【織合針】織合部分	ヨコハケ	ヨコハケ	"	褐色	7,578/8	褐色	7,578/8	糸小 2-3種類存在	"	
"	11	"	"	"	"	"	"	やや不良	綿地	2,578/4	綿地	1078/4	糸小 3-5種類存在	"	
"	12	"	"	質	底	新め方向の切き	新め・ヨコハケ	"	良好	1078/7	綿地	1078/4	糸小 2-3種類存在	"	
"	13	"	"	"	口縫部	【織合針】織合部分	【織合針】織合部分	"	綿地	1078/6	綿地	1078/4	"	綿3.1m	

回面番号	植物名	器種	部位	外観		内観		構成		色調		地土	備考	
				上面	下面	上面	下面	上面	下面	上面	下面			
第3288	1.4 10号生	葉 口輪根	葉肉部分/葉下部葉身	△上部叶下部叶	△下部叶	△上部叶下部叶	△下部叶	良好	褐色 7.5TB8/6	褐色 7.5TB8/4	褐色 7.5TB8/3	褐色 7.5TB8/3	褐色 7.5TB8/4	褐色 7.5TB8/4
"	1.5 "	葉 頂葉	葉肉部分/葉下部葉身	△上部叶下部叶	△下部叶	△上部叶下部叶	△下部叶	やや不良	褐色 5TB8/4	褐色 10TB8/3				
"	1.6 "	葉・茎	葉肉部分/葉下部葉身	△上部叶下部叶	△下部叶	△上部叶下部叶	△下部叶	良好	褐色 7.5TB8/5	褐色 10TB8/6	褐色 10TB8/5	褐色 10TB8/5	褐色 10TB8/5	褐色 10TB8/5
"	1.7 "	葉 頂葉	葉肉部分/葉下部葉身	△上部叶下部叶	△下部叶	△上部叶下部叶	△下部叶	"	褐色 7.5TB8/4	褐色 2.5TB8/2				
"	1.8 "	葉・茎	葉肉部分/葉下部葉身	△上部叶下部叶	△下部叶	△上部叶下部叶	△下部叶	"	褐色 10TB8/3	褐色 7.5TB8/3				
"	1.9 "	葉?	葉	"	"	△上部叶下部叶	△下部叶	"	褐色 7.5TB8/4	褐色 7.5TB8/4	褐色 7.5TB8/4	褐色 7.5TB8/4	褐色 7.5TB8/4	褐色 7.5TB8/4
"	2.0 "	葉?	葉	"	"	△上部叶下部叶	△下部叶	"	褐色 7.5TB8/4	褐色 7.5TB8/4	褐色 7.5TB8/4	褐色 7.5TB8/4	褐色 7.5TB8/4	褐色 7.5TB8/4
"	2.1 "	葉・茎	葉	"	"	△上部叶下部叶	△下部叶	良好	褐色 2.5TB8/2	褐色 10TB8/7/3				
"	2.2 "	葉	口輪根	△上部叶下部叶	△下部叶	△上部叶下部叶	△下部叶	"	褐色 10TB8/4	褐色 10TB8/4	褐色 10TB8/4	褐色 10TB8/4	褐色 10TB8/4	褐色 10TB8/4
"	2.3 "	葉	口輪根	△上部叶下部叶	△下部叶	△上部叶下部叶	△下部叶	"	褐色 10TB8/5	褐色 10TB8/5	褐色 10TB8/5	褐色 10TB8/5	褐色 10TB8/5	褐色 10TB8/5
"	2.4 "	葉	口輪根	△上部叶下部叶	△下部叶	△上部叶下部叶	△下部叶	"	褐色 10TB8/6	褐色 10TB8/6	褐色 10TB8/6	褐色 10TB8/6	褐色 10TB8/6	褐色 10TB8/6
"	2.5 "	葉	口輪根	△上部叶下部叶	△下部叶	△上部叶下部叶	△下部叶	"	褐色 7.5TB8/6	褐色 7.5TB8/6	褐色 7.5TB8/6	褐色 7.5TB8/6	褐色 7.5TB8/6	褐色 7.5TB8/6
"	2.6 "	葉	口輪根	△上部叶下部叶	△下部叶	△上部叶下部叶	△下部叶	"	褐色 10TB8/4	褐色 10TB8/4	褐色 10TB8/4	褐色 10TB8/4	褐色 10TB8/4	褐色 10TB8/4
"	2.7 "	葉	口輪根	△上部叶下部叶	△下部叶	△上部叶下部叶	△下部叶	"	褐色 7.5TB8/6	褐色 7.5TB8/6	褐色 7.5TB8/6	褐色 7.5TB8/6	褐色 7.5TB8/6	褐色 7.5TB8/6
"	2.8 "	葉・茎	葉肉部分/葉下部葉身	△上部叶下部叶	△下部叶	△上部叶下部叶	△下部叶	"	褐色 7.5TB8/5	褐色 10TB8/7/4				
"	2.9 "	葉	口輪根	△上部叶下部叶	△下部叶	△上部叶下部叶	△下部叶	"	上部 10TB8/4	下部 10TB8/4	上部 10TB8/4	下部 10TB8/4	上部 10TB8/4	下部 10TB8/4
"	3.0 "	葉	茎	"	"	△上部叶下部叶	△下部叶	やや不良	褐色 7.5TB8/6	褐色 7.5TB8/6	褐色 7.5TB8/6	褐色 7.5TB8/6	褐色 7.5TB8/6	褐色 7.5TB8/6
"	3.1 "	葉	茎	"	"	△上部叶下部叶	△下部叶	"	褐色 10TB8/3	褐色 10TB8/3	褐色 10TB8/3	褐色 10TB8/3	褐色 10TB8/3	褐色 10TB8/3
"	3.2 "	葉	茎	"	"	△上部叶下部叶	△下部叶	ナデ	"	"	"	"	褐色 2.5TB8/7	褐色 2.5TB8/7
"	3.3 "	葉	茎	"	"	△上部叶下部叶	△下部叶	ナデ	ヨコナデ	ナデ	ナデ	ナデ	褐色 2.5TB8/7	褐色 2.5TB8/7
"	3.4 "	葉	茎	"	"	△上部叶下部叶	△下部叶	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	褐色 1.5TB8/7	褐色 1.5TB8/7
"	3.5 "	葉	茎	"	"	△上部叶下部叶	△下部叶	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	褐色 1.5TB8/7	褐色 1.5TB8/7
"	3.6 "	葉	茎	"	"	△上部叶下部叶	△下部叶	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	褐色 1.5TB8/7	褐色 1.5TB8/7

黒34	37	10号生	株	茎	葉	ナデ	ナデ	茎好	黄色 1078/6	葉	1078/4	小 2-3葉被付枝	黒81. 1/2-2.7	
"	38	"	"	"	"	"	"	やや不良	葉 1078/6	葉	1078/6	"	"	
"	39	"	大型種	口輪部	輪状花びら+柄付	ナデ	ナデ	"	"	葉好	7.518/4	小 1-5葉被付枝	黒81. 41葉被付枝	
"	40	"	"	茎	葉	タチ・ヨコハケ	斜めハケ	良好	"	"	"	"	黒81. 5a/40葉	
"	41	"	茎	葉	タチ・斜めハケ	ナデ/斜めさえ	ナデ/斜めさえ	"	浅色 2.518/2	出葉1077/3	小 2-3葉被付枝	"		
"	42	"	"	茎	葉	タチハケ	"	"	葉好	1078/3	葉好	1078/3	"	
"	43	"	"	"	ヘラ巻き	ヘラ巻き	やや不良	綠色	2.518/4	葉好	2.518/6	"	"	
"	44	"	"	口輪部	圓錐花被形/葉被付/葉状小苞	ナデ/ヘラ巻き?	良好	綠色	2.518/8	葉色 2.518/8	こまかい	黒口葉+頭葉0.4a		
"	45	"	"	"	葉被付/葉被付	葉被付/葉被付	"	出葉1078/3	出葉1077/3	葉好	1077/3	"	黒葉11. 9a/葉被付?	
"	46	"	"	"	輪状被付	"	やや不良	葉好	1077/54	葉好	1077/54	"	"	
"	47	"	"	"	ナデ	斜めハケ	良好	葉好	1078/4	葉	1078/6	"	小型丸頭葉	
"	48	"	"	陽・陰	口輪部斜めハケ	口輪部斜めハケ	やや不良	葉 7.518/8	葉色 7.518/8	"	"	"	"	
"	49	"	"	茎	葉	タチ・斜めハケ	ナデ	良好	葉好	1078/4	葉好	1078/1	2葉被付枝	
"	50	"	"	茎	葉	タチハケ/ナデ	丁寧な斜めハケ	"	葉好	1077/6	出葉1077/4	小 2-3葉被付枝	黒葉4. 4a	
"	51	"	"	"	ナデ	ナデ	ナデ	やや不良	葉好	1078/4	葉好	1078/4	"	
黒34	52	"	高	環	根	葉被付/葉被付/葉被付/葉被付	葉被付/葉被付/葉被付/葉被付	"	葉好	1078/4	葉好	1078/4	黒葉83. 1a/葉被付枝	
"	53	"	"	口輪部	ヘラ巻き	"	"	"	葉好	1078/6	"	"	口輪部に黒斑	
"	54	"	"	"	"	"	"	"	葉好	7.518/4	葉好	7.518/6	小 2-3葉被付枝	
"	55	"	"	"	ヨコナデ/一部ヘラ巻き	"	"	"	"	"	"	"	5.4ヒヨコ葉	
"	56	"	"	"	"	"	"	"	葉好	1078/4	葉好	1078/4	"	
"	57	"	"	根	根	丁寧なヘラ巻き	ヨコハケ/ナデ	"	綠色 7.518/6	葉 7.518/6	こまかい	ミニチャエア		
"	58	"	"	茎	葉	ナデ	ナデ	やや不良	葉好	7.518/6	葉好	7.518/2	小 2-3葉被付枝	
"	59	"	"	"	"	"	"	良好	葉好	1077/6	葉色 7.518/6	こまかい	円形の透孔	
黒36	1	11号生	茎	茎	葉	ナデ/一部ヘラ巻き	"	"	葉好	2.518/4	葉好	1078/3	小 2-3葉被付枝	黒葉4. 2a
"	2	"	茎	葉	葉	ナデ/一部ヘラ巻き	"	"	葉好	7.518/3	葉好	7.518/2	こまかい	黒葉. 6a

調査

番号	植物名	学名	種類	部位	外観		構成		色調		備考
					内面	外面	内面	外面	内面	外面	
第656	3 11号生	幹 韓部	ナデ	ナデ	良好	褐色 7.5TR7/6	褐色 7.5TR7/6	こまかい	丸底		
"	4 "	脚付枝 韓 韓	タチハゲ	タチハゲ	やや不良	褐色 10TR8/3	褐色 10TR8/3	45° 2-3mmの繊維状付着			
"	5 "	茎 開部	タチナデ	タチナデ	良好	褐色 2.5TR8/3	褐色 2.5TR7/3	"			
"	6 "	幹 韓 韓			"	褐色 7.5TR8/4	褐色 7.5TR8/4	"			
"	7 "	茎 环 口輪部 へう葉舌			"	褐色 7.5TR8/6	褐色 7.5TR8/6	こまかい	薄葉の繊維状付着		
"	8 "	"	ヨコ・斜めナデ	ヨコ・斜めナデ	"	褐色 7.5TR8/6	褐色 7.5TR8/6	"			
"	9 "	脚付枝 タチハゲ/一葉へう葉舌	ナデ	ナデ	"	褐色 7.5TR8/6	褐色 7.5TR8/6	"			
"	10 "	"	薄 細 へう葉/喉嚨部(葉身1.2-2.0m)	ヨコナデ/ヨコハゲ	良好	褐色 7.5TR7/6	褐色 7.5TR7/6	"			
第657	1 12号生	茎 球根	根-根出付/根葉付/根葉付/根葉付	根葉付	"	褐色 10TR7/6	褐色 10TR7/6	45° 3-4mmの繊維状付着	球根付	球根付	
"	2 "	"	口輪部		"	褐色 5TR8/8	褐色 5TR8/8	"			
"	3 "	"	地被付/根葉付/根葉付/根葉付	根葉付	"	褐色 10TR7/6	褐色 10TR7/6	45° 3-4mmの繊維状付着	根葉付	根葉付	
"	4 "	"	ヨコ・タチナデ	タチハゲ	"	褐色 7.5TR7/4	褐色 7.5TR7/4	1-2mmの繊維状付着	球根付	球根付	
"	5 "	"	口輪部付/根葉付	ヨコナデ	"	褐色 7.5TR8/6	褐色 7.5TR8/6	45° 2-3mmの繊維状付着	"	"	
"	6 "	"			"	褐色 7.5TR8/6	褐色 7.5TR8/6	"			
第658	7 "	"	茎 韓 韓	ナデ	ナデ	"	褐色 10TR8/6	褐色 2.5TR7/1	"		
"	8 "	"	"	"	"	褐色 10TR8/3	褐色 10TR8/3	"			
"	9 "	"	"	"	"	やや不良	褐色 7.5TR7/6	出芽部 3-4mmの繊維状付着	球根付	球根付	
"	10 "	"	タチハゲ-根葉付/根	"	"	褐色 2.5TR8/4	褐色 2.5TR8/1	"			
"	11 "	"	"	"	"	褐色 7.5TR7/6	出芽部 7.5TR5/4	45° 2-3mmの繊維状付着			
"	12 "	"	ナデ	ナデ	"	褐色 1.5TR7/4	褐色 5TR7/6	"			
"	13 "	"	"	タチナデ	"	褐色 7.5TR8/4	褐色 7.5TR8/8	"			
"	14 :	茎	ナデ/根葉付/根葉	斜めハゲ	やや不良	褐色 7.5TR7/6	褐色 5TR8/6	45° 3-4mmの繊維状付着			
"	15 "	"	ナデ	ナデ	良好	褐色 2.5TR8/3	褐色 2.5TR8/3	45° 2-3mmの繊維状付着	球根付	球根付	

第9回		1.6	12号生	要	茎	葉	花	ナデ	蝶好	細好	7.5TR/6	細好	10TR/6	細好	10TR/6	細好	2-3種類付付付	細好
"	1.7	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	細好2.0m
"	1.8	"	脚付枝	"	口縫縫	網狀叶/2:1缺付	"	ナデ	"	やや不真	細好	10TR/4	細好	10TR/3	"	"	"	細好2.0m
"	1.9	"	鉢	口縫縫	タテ・斜めハゲ	斜めハゲ	"	ナデ/指伸き入	"	細好	7.5TR/6	C上縫5TR/4	細好	10TR/4	細好	10TR/4	細好	口縫縫2.0m
"	2.0	"	"	"	タテ・斜めハゲ	タテ・斜めハゲ	"	ナデ/指伸き入	"	細好	10TR/4	C上縫5TR/4	細好	10TR/4	細好	10TR/4	細好	口縫縫2.0m
"	2.1	"	"	"	タテハゲ	"	"	"	"	細好	2.5TR/3	細好	2.5TR/3	細好	2.5TR/3	細好	2.5TR/3	細好
"	2.2	"	"	"	ヘラ巻き	"	"	"	"	細好	10TR/3	細好	2.5TR/4	細好	2.5TR/4	細好	2.5TR/4	細好
"	2.3	"	"	"	網状叶/2:1缺付叶/2:1缺小葉	網状叶/2:1缺付叶/2:1缺小葉	"	ナデ/ヘラ巻き?	"	細好	"	細好	10TR/18	細好	10TR/18	細好	10TR/18	細好
"	2.4	"	"	根・根	網状叶/2:1缺付叶/2:1缺小葉	網状叶/2:1缺付叶/2:1缺小葉	"	網状叶/2:1缺付叶/2:1缺小葉	"	やや不真	細好	7.5TR/8	細好	7.5TR/8	細好	7.5TR/8	細好	
"	2.5	"	茎	口縫縫	網状波状文	"	"	"	"	細好	10TR/6	細好	10TR/6	細好	10TR/6	細好	10TR/6	細好
"	2.6	"	"?	茎	茎	ナデ	斜めハゲ	斜めハゲ	斜好	網好	7.5TR/6	黒色	7.5TR/6	黒色	7.5TR/6	黒色	7.5TR/6	黒色
"	2.7	"	"	"	口縫縫	タテハゲ	口縫縫斜めハゲ	口縫縫斜めハゲ	やや不真	細好	10TR/4	細好	10TR/4	細好	10TR/4	細好	10TR/4	細好
"	2.8	"	"	高	坏弱	タテ・斜めハゲ	ナデ	丁寧な斜めハゲ	斜好	網好	7.5TR/4	C上縫10TR/4	網好	10TR/4	網好	10TR/4	網好	10TR/4
"	2.9	"	"	脚生部	タテハゲ/カナデ	網状叶/2:1缺付叶/2:1	"	丁寧な斜めハゲ	"	細好	7.5TR/4	網好	7.5TR/4	網好	7.5TR/4	網好	7.5TR/4	網好
第4回	1.15号生	要	口縫縫	"	網状叶/2:1缺付叶/2:1	網状叶/2:1缺付叶/2:1	"	網状叶/2:1缺付叶/2:1	"	やや不真	細好	10TR/3	細好	7.5TR/1	細好	7.5TR/1	細好	口縫縫2.0m
"	2	"	"	"	周~葉付け叶/2:1缺付叶/2:1	周~葉付け叶/2:1缺付叶/2:1	"	網状叶/2:1缺付叶/2:1	"	細好	7.5TR/6	黒色	7.5TR/6	黒色	7.5TR/6	黒色	7.5TR/6	黒色
"	3	"	"	"	ヨコナデ	ヨコナデ	"	ヨコナデ	"	細好	10TR/3	細好	10TR/4	細好	10TR/4	細好	10TR/4	細好
"	4	"	出	鉢	口縫縫	"	"	ナデ	"	細好	7.5TR/6	網好	7.5TR/6	網好	7.5TR/6	網好	7.5TR/6	網好
"	5	"	鉢	茎	茎	"	"	ナデ	"	細好	10TR/3	細好	2.5TR/1	細好	2.5TR/1	細好	2.5TR/1	細好
"	6	"	茎	口縫縫	"	"	"	"	"	やや不真	細好	7.5TR/6	網好	10TR/4	細好	10TR/4	細好	口縫縫2.0m
"	7	"	"	"	口縫縫	ヨコナデ/網好ナデ	口縫縫ヨコナデ/網好ナデ	ヨコナデ	"	細好	2.5TR/3	近好	2.5TR/2	近好	2.5TR/2	近好	2.5TR/2	近好
"	8	"	"	"	"	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	"	細好	10TR/3	網好	10TR/3	網好	10TR/3	網好	10TR/3	網好
"	9	"	"	"	茎	茎	ナデ	"	網好	"	網好	7.5TR/3	網好	7.5TR/4	網好	7.5TR/4	網好	口縫縫2.0m
"	10	"	土壠	口縫縫	ヨコナデ/斜めハゲ	ヨコナデ	"	ヨコナデ	"	細好	10TR/7	網好	10TR/7	網好	10TR/7	網好	10TR/7	網好
"	11	"	"	"	網状波状文	"	"	"	"	細好	10TR/7	網好	10TR/7	網好	10TR/7	網好	10TR/7	網好

器皿番号	器皿名	器皿部位	質			量			色調			備考
			外	面	内	面	液	気	外	面	内	
第2四 1.3 14号注	鉢	底部	タチナデ	ナデ	良好	上部黒107/4	上部黒107/4	良好	2-3重環状付帯	墨2.5v		
" 1.4 "	口縁部	口縁部ヨコナデ/直縁ナデ	口縁部ヨコナデ/直縁ナデ	"	"	上部黒107/3	上部黒107/3	2-3重環状付帯				
" 1.5 "	要	底部	斜め方向の凹字模ナデ	斜めナデ	"	褐色107/1	褐色107/1	良好	3-4重環状付帯			
" 1.6 "	鉢	ナデ	ヨコナデ	"	"	上部黒107/3	上部黒107/3	良好	2-3重環状付帯	1.5v	1.5v	
" 1.7 "	"	"	"	タチナデ	"	褐色2.575/6	褐色2.575/6	"	"	"	"	"
" 1.8 "	口縁部	口縁部ヨコナデ/ナデ	ヨコナデ	"	"	上部黒107/4	上部黒107/4	"	"			
" 1.9 "	要	底部	斜めハケナデ	"	"	褐色7.575/6	褐色7.575/6	"	"			
" 2.0 "	"	口縁部	周~圓柱形/直縁付/底ハケ/輪ハケ	"	"	褐色2.575/3	灰色7.575/1	"	"			
第4四 1.15号注	要	口縁部	口縁部ヨコナデ/直縁ナデ	口縁部ヨコナデ/直縁ナデ	やや不良	褐色2.575/1	褐色2.575/3	"	"			
" 2 "	"	"	直縁部ヨコナデ/直縁付	直縁ヨコナデ/直縁付	良好	褐色7.575/6	褐色7.575/4	良好	3-4重環状付帯			
" 3 "	"	"	底部	斜め方向の凹字模ナデ	斜めハケ	"	褐色107/5/1	"	"	"	"	
" 4 "	"	"	"	ナデ	"	やや不良	褐色107/4	褐色107/3	"	"	"	
" 5 "	鉢	口縁部	口縁ヨコナデ/直縁付	口縁ヨコナデ/直縁付	良好	褐色7.575/4	褐色5.757/6	"	"			
" 6 "	"	"	ヨコナデ	ヨコナデ	"	上部黒107/3	上部黒107/3	良好	2-3重環状付帯			
" 7 "	"	底部	ナデ	ナデ	"	"	上部黒107/4	"	"	"	"	
" 8 "	要	口縁部	斜め方向の凹字模ナデ	"	"	褐色107/6	褐色107/6	こまかい				
" 9 "	"	"	"	ヨコナデ/直縁付	ヨコナデ	褐色107/4	褐色107/4	2-3重環状付帯				
" 10 "	鉢	底部	丁寧なへら彫き	斜めハケ後丁寧なナデ	"	上部黒7.575/4	褐色5.757/6	こまかい				
" 11 "	"	要	"	ヘラ彫き	"	褐色7.575/6	褐色7.575/6	"	"			
第6四 1.16号注	要	"	直縁部ヨコナデ/直縁付	直縁ヨコナデ/直縁付	"	上部黒107/4	褐色7.575/6	褐色7.575/6	2-3重環状付帯	1.5v	1.5v	
" 2 "	"	"	底部	ナデ/一部へら彫き	"	やや不良	褐色5.757/6	褐色2.575/3	やや3-4重環状付帯			
" 3 "	"	"	"	斜め方向の凹字模ナデ	「事な絵め」ハケ	良好	上部黒107/4	上部黒107/4	2-3重環状付帯			
" 4 "	"	"	"	ナデ	タチナデ	"	"	"	"	"	"	

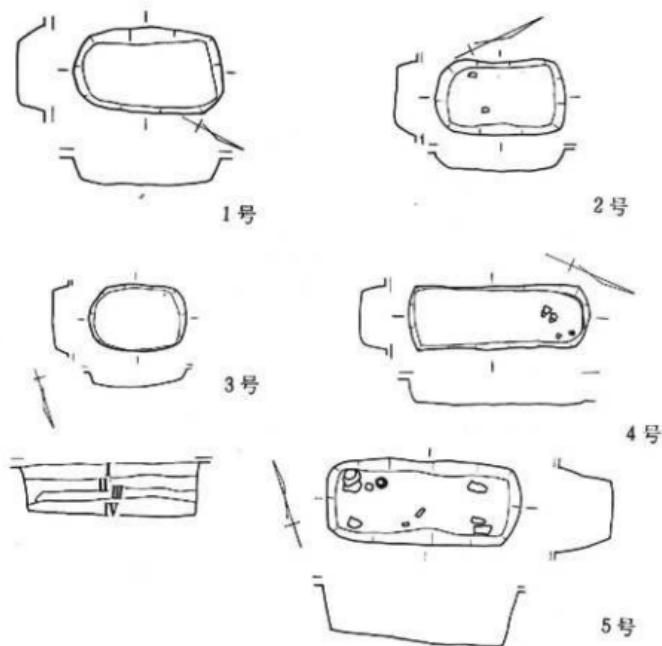
第4回	1	11号生	妹	ヘラ腰き	ヨコナデ/ナデ	良好	1018/4	黄色	1018/4	かく 2-3種類の特徴	問題27: 2+3=7, 4+5=9, 2+6=8	
"	1.1	"	姫	脚 部	ヨコナデ	"	"	黄色	7.518/6	黄色	518/3	
"	1.2	"	高 坏	坏 部	"	やや不良	黄色	7.518/8	黄色	7.518/3	こまかい	
第5回	1	18号生	妻	口腰き	ヨコナデ	良好	1018/4	黄色	518/4	かく 2-3種類の特徴	問題28: 1+2=3	
"	2	"	姫 部	脚め方向の叩き	タチ・ヨコナデ	"	良好	2.518/4	黄色	2.515/1	かく 3-4種類の特徴	
"	3	"	妹	"	ナデ	"	良好	7.518/6	黄色	2.517/3	かく 2-3種類の特徴	
"	4	"	脚付	"	"	ナデ (ヘラ状工具)	"	良好	1018/6	黄色	1018/6	
"	5	"	妹	"	"	ナデ	"	やや不良	黄色	1018/3	かく 2-3種類の特徴	
"	6	"	"	腰	腰腰き	斜めハケ	"	良好	518/6	黄色	518/6	
"	7	"	姫	口腰き	"	ヨコナデ	"	やや不良	黄色	2.518/6	かく 2-3種類の特徴	
"	8	"	"	"	"	ナデ	"	良好	7.518/6	黄色	7.518/6	
"	9	"	高 坏	脚柱部	ヘラ腰き?	"	"	良好	2.518/3	黄色	2.518/3	
"	10	"	"	"	ヘラ腰き	"	良好	1018/4	黄色	518/3	"	
第6回	1	19号生	妻	口腰	口腰(叩き)腰腰(叩き)	問題29: 1+2=3	"	良好	2.518/3	黄色	2.514/1	かく 2-3種類の特徴
"	2	"	"	姫 部	脚め方向の叩き / 腰腰ナデ	ナデ	"	良好	1018/4	かく 3-4種類の特徴	問題30: 1+2=3	
"	3	"	妹	"	タチハケ	斜めハケ	"	"	"	2-3種類の特徴	問題31: 1+2=3	
"	4	"	姫 部	丁寧なヘラ腰き	ナデ	"	良好	2.518/3	黄色	2.518/3	内面に沿走り	
"	5	"	"	脚 部	"	"	"	"	"	"	"	
"	6	"	姫	"	"	"	"	良好	518/8	黄色	7.518/6	
"	7	"	高 坏	脚 部	ヘラ腰き	"	"	良好	7.518/6	黄色	7.518/6	
第7回	4	20号生	妻	腰腰	横・斜め方向の叩き	"	"	良好	7.518/4	かく 1-2種類の特徴	問題32: 1+2=3	
"	5	"	"	口腰	脚め方向の叩き	ヨコナデ/斜めハケ	"	良好	7.518/8	かく 2-3種類の特徴	"	
"	6	"	"	高 帽	ナデ	ナデ	"	良好	1018/2	かく 3-4種類の特徴	"	
"	7	"	"	"	"	"	"	"	良好	2.513/1	"	
"	8	"	"	"	"	"	"	良好	1018/3	かく 2-3種類の特徴	問題33: 1+2=3	

3. 古墳時代以降の遺構と遺物

方形状土坑（第 56 図・57 図）

方形状土坑は北東部に 3 基・南西部に 2 基の計 5 基が検出されている。

1 号方形状土坑は D-5 グリットから検出されたもので、長軸 1.9 m・短軸 1.1 m・深さ 0.33 m の規模を有する。遺物は出土していない。



I ~ 晴褐色土 (アカホヤブロック混入粘質) Hue 10 Y R 3 / 3

II ~ 黄灰褐色 (アカホヤブロック混入) Hue 10 Y R 4 / 2

III ~ にぶい黄色土 (" 粘質) Hue 2.5 Y 6 / 4

IV ~ 黄褐色土 (") Hue 2.5 Y 5 / 3



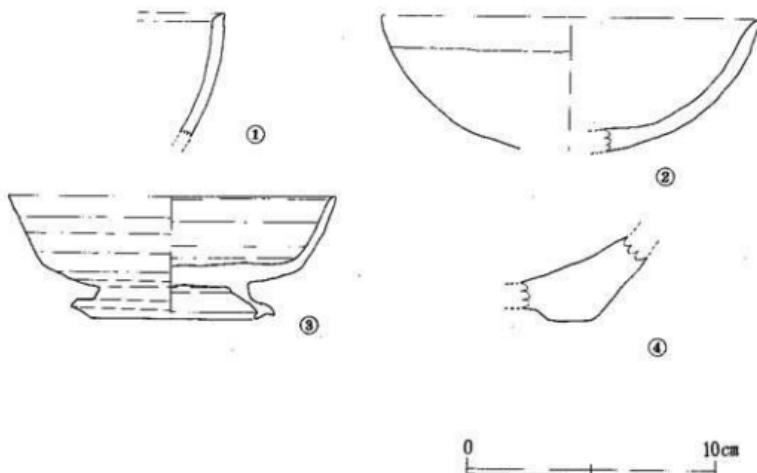
第 56 図 方形状土坑実測図

2号方形状土坑はC-5グリットから検出されたもので、長軸1.65m・短軸0.95m・深さ0.25mの規模を有する。遺物は鉢形土器(1)が出土している。1は口縁部が内湾した半球形のもので、外面は風化で不明、内面はヨコハケ調整が施されている。この土器は住居址から出土しているものと同時期のものであるが、混入の可能性も高いことから、本節で取り上げた。

3号方形状土坑はC-6グリットから検出されたもので、長軸1.23m・短軸0.85m・深さ0.2mの規模を有する。遺物は出土していない。

4号方形状土坑はF-2グリット、16号住居址の南部と切り合って検出されたもので、長軸(2.3m)・短軸0.7m・深さ0.35mの規模を有する。遺物は土師器の鉢形土器(2)が出土している。2は内湾しながら立ち上がり口縁部に至り、丸底と推定される半球形のもので、内外面風化著しいがヘラ磨き調整が施されていたようである。胎土はこまかく、浅黄橙色を呈している。

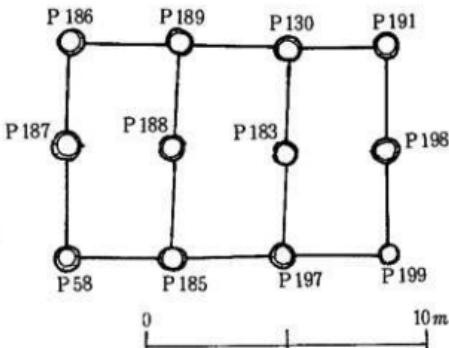
5号方形状土坑は14号住居址の北部に隣接したF-3グリットから検出されたもので、長軸2.5m・短軸1.1m・深さ0.7mの規模を有する本遺跡最大のものである。土坑内には四隅に20cm前後の石が配され、遺物も特殊な脚付の壺(3)などが出でていることから、墓坑の可能性が高い。3は須恵器の脚付壺で、口縁径13.2cm・脚部径8.2cm・器高4.9cmを計る。内外面ヨコナデ調整が施されている。4は壺形土器の底部で、外面は斜め方向の叩きが施され、内面は風化で不明である。



第57図 方形状土坑出土遺物実測図

掘立柱建物（第12図・58図）
 掘立柱建物跡はわずかに1棟、北東部B-5・6グリットから2間×3間のものが確認されている。主軸の方向はN-65°-Wで、桁行（NS）11.4m梁行（EW）7.5mを計る。そして、柱穴はすべて円形で、柱間3.5～3.8m、深さ27～31cmを計る。

遺物は出土していない。



第58図 掘立柱建物跡実測図

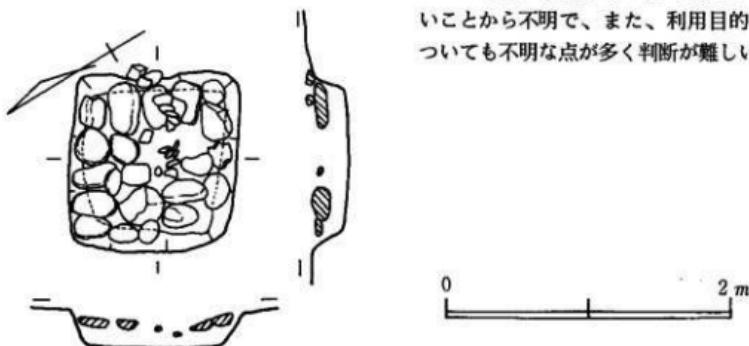
4. 時代不明の遺構

組石（配石）遺構

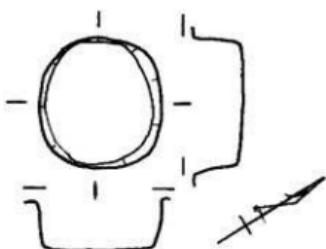
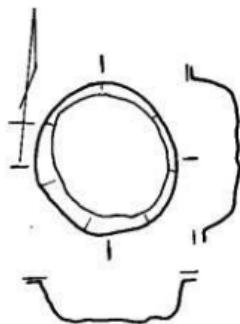
調査地の南東部E-5グリットから検出されたもので、長軸1.25m・短軸1.17m・深さ0.25mの方形プランの土坑内に10～40cmNO石が敷き詰められている。床面は平坦で、壁面は約60度で立ち上がっている。また、石は1段である。遺物は出土しておらず、時代的なことや利用目的などについては不明である。

円形土坑（第12図・60図）

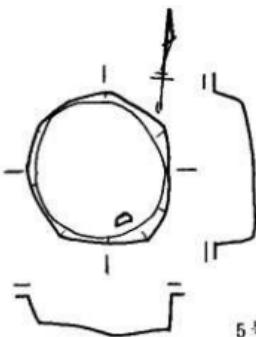
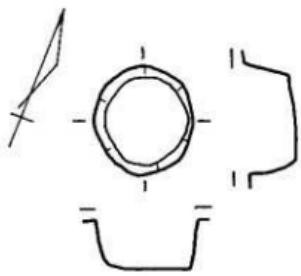
調査地の北部から北西部を中心におよそ18基検出されている。径0.7～1.4m、深さ0.2～0.4mの範囲内にすべての土坑が含まれる。この円形土坑の時代については、遺物がまったく出土していないことから不明で、また、利用目的などについても不明な点が多く判断が難しい。



第59図 組石（配石）遺構実測図



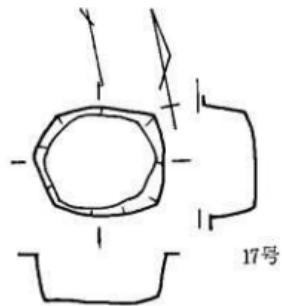
1号



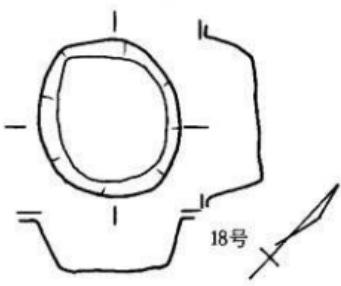
2号

5号

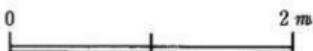
3号



17号



18号



第60図 円形土坑実測図

5. まとめ

日高正晴

西都原古墳群台地の北東部に突出する新立地区において、昭和62年に遺跡確認調査、つづいて翌年、本調査としての発掘調査が行われた。

これまで古墳以外での西都原台地上における発掘調査は、主として台地西方の寺原地区においてのみ行われているが、この新立遺跡は、古墳台地の東部縁辺部に立地していることから、西都原古墳群の形成に関しては、何らかの関連性がもたらされるのではないかと推測されていたわけである。

調査結果として、古墳時代の遺構としては、その末期ごろの方形状土塙墓が発見されたのみで、それ以外は、主として弥生時代終末前後ごろの遺構と遺物が豊富に出土した。そして、その弥生土器の中には、変化に富んだ形式の土器も発見されたが、特に、この調査においては、20軒の竪穴住居址を確認することができた。

さらに、特筆すべきことは、この住居址から長方形石包丁が数多く発見され、さらに貴重な有肩打製石斧も出土したことである。また、この住居址内からは鉄器も発見された。それから、この弥生遺跡層の下部からは、縄文時代の遺跡も出現し、縄文早期の土器ならびに集石遺構29基が出土した。

なお、これまで西都原古墳群台地上から、縄文時代早期の遺跡としては、この新立遺跡のすぐ西方の丸山遺跡（平成元年10月調査）、および古墳群台地の南部突端部に位置する原口遺跡（昭和32年5月調査）が、それぞれ確認された。

次に、この新立遺跡の発掘調査によって出土した遺構ならびに遺物について考察してみたいと思うが、その際、この遺跡を性格づけるものは、何といっても、弥生時代関連の出土資料についてである。そこでまず最初に、弥生遺跡の遺構を代表するものとして、20軒の竪穴住居址をあげたいと思う。

この新立遺跡で確認された竪穴住居址は、ほとんど方形状プランを呈していたが、その中には、1号住居址と20号住居址よりなる複合的な竪穴住居址、および10号ならびに11号住居址のような外部に張出しをもつ変形の方形状住居址なども存在した。なお、全般的にみられる方形状プランの住居址にしても、多少、ひずみをもっている形態の竪穴住居址であることができる。

それから、前述したように外部に張出しを有する10号、11号の竪穴住居址については、西都原台地の西方に所在した寺原遺跡の第2号住居址においても発見されており、筆者のいう「日向型変形住居址」の形態に含まれるものである。また、20軒の住居址の中の唯一の円形住居址についても、数年前に発掘調査された串木第2遺跡発見の円形住居跡と類似し、内部の柱穴も同様、方形状に四ヶ所確認された。そして、この両地区的円形住居址からは、ともに下城式系の壺形土器を出土し、本新立遺跡の住居址の中では、時期的に最も遅ると考えられる。

さて、この弥生時代の住居址を中心とした、この新立遺跡においては、主に、住居址内部において弥生土器が出土したが、特に、2号および10号の住居址においては、壺形、鉢形、広口壺形、それに高環形など各種形式に富んだ弥生土器が多量に出土した。そして、この竪穴住居址群にみられる弥生期の時期にしても、1号住居址を除くとすべて、弥生終末期から古墳時代初頭ごろにかけての年代に比定されようである。

そして、本遺跡において、かなり散見できる庄内系土器の叩き文が、在地系の粒子混入古土師器に確認できることは、古式土師器の下限をどの時期まで下げられるかで関心のもたれるところである。

さらに、本遺跡出土の弥生土器の中には、日向中央部平野において発達した櫛描波状文土器も2号・10号・14号の各住居址から出土しているが、特に、2号住居址から検出された高環形弥生土器は、口縁部の立ち上がり部分に櫛描波状文が施されており、この弥生遺跡出土の土器の中では、唯一の装飾土器である。それに、この高環形土器の受部には稜がないが、児湯郡川南町の東平下^⑨遺跡出土の稜をもつ装飾高環形土器以外、この2号住居址出土のような高環形土器は、日向地方において極めて特異な出土品といえる。

それから、この新立遺跡出土の弥生土器の編年において、最も類似している遺跡として国東半島の安国寺遺跡^⑩をあげることができる。戦後の第一次発掘調査、それに最近行われた周辺大溝の第二次調査においても、ともに、出土の弥生土器の時期は、ほぼ、本新立遺跡出土の弥生土器の編年と類似しており、さらに、弥生土器の形態においても、同様、関連性が認められる。それで、新立遺跡出土の弥生土器の形式としては、戦後からの弥生土器分類に従って「安国寺様式」としたい。

次に、出土遺物の中でも注目される石器類について述べてみたい。ところで、この石器について、筆者らが特に関心を寄せているのは、稻作農耕の刈り穂の用具に使用された長方形石包丁と農耕その他の土掘り用に供された有肩打製石斧の出土である。そして、この新立遺跡のように長方形石包丁と有肩打製石斧がともに数多く出土した例は極めて珍しい。

そこで、まず長方形石包丁について述べてみることにする。この石包丁は、20軒の中の10数軒の竪穴住居址内から出土し、全部で17点を数えることができた。そして形状は、大方、二つに分けられる。一つは、長さ約6.5cm～7cmが12点、それと長さ8.5cm～9cmが5点、幅は、ともに約4.5cm～5cmとなっている。そして、この石包丁には、両側に抉り込みがほとんど、施されている。それからこの抉り込み付長方形石包丁は、すべて磨製石器になっているが、この両形式の後者の大形の石包丁の3点は打製石器で、しかもその石器には抉り込みが施されていない。この大小両形式の長方形石包丁は小型が女性、ならびに弱年者の手幅に、大形は成人の男性の手の幅に、それぞれ適合しているように推測される。

そのように考察することができるとすれば、17点出土の長方形石包丁は、小形が12点を占めているので稻作の収穫作業などは主として女性および年少者の役務とされてい

たのかもしれない。

なお、この長方形石包丁は、日本全域においても、日向地方が最も濃密な分布地帯といわれているが、その中でも、その中央平野部地帯からの出土が多い。現在、県立西都原資料館内に、旧西都市立博物館から移管した西都地方出土の長方形石包丁が4点展示してある。

それでは次に、有肩打製石斧について考察してみたい。この有肩石斧は、最初の確認調査の時に、中央トレンチ内から3点出土したが、さらに本調査においても、4点確認することができた。そこで、この新立遺跡からは7点の有肩打製石斧が発見されたことになるが、その出土地点は、その中央部の10号住居址内およびその周辺地区に限られている。

また、この有肩打製石斧で筆者が特に興味深く考えているのは、この石斧類が南九州以北には出土していないことである。先学の乙益重隆氏は、その論考の中で、その北限を東九州では、宮崎県延岡市に注ぐ五ヶ瀬川流域、西九州を人吉盆地付近までとされている。そして同氏は、その地域から出土した有肩石斧につき考証され、さらにその形式分類をされた。

まず、比較的に数多い形式として「両耳型」、この様式は、石器の上部が両側くびれておりその上の頭部の両側が耳のように突出しているもの、次に、頭部が直線的に長方形状を呈している石器を「凸字型」と称し、さらに、その下部の方が扇状に広がっている形式を「広刃型」と名づけられている。それから最後に、その有肩石斧の全体の形状が、人が靴をはいたような形態をしているものを「靴型」と名称づけられた。

この4つの分類に従って、新立遺跡出土の有肩打製石斧を類別すると、両耳型が4点、広刃型が2点、それに特殊形式の靴型が1点に分けられる。そしてその規格も、長さが約12cm～14cm、幅も約7cm～10cmの形態を呈している。それに、この石器類について注目をひくことは、10号住居址内からは、有肩打製石斧と長方形石包丁が共伴して確認されたことである。南九州で数多く発見されている有肩打製石斧の出土地点がほとんど確認されていない中あって、1点ではあったが、広刃型の有肩打製石斧の出土地点を確認できたことは有意義であった。

なお、この有肩石斧は、西都市内の最近における発掘調査においても発見されている。それは、穂北の串木第2遺跡で出現した1号住居址内から2点、3号住居址から1点、それぞれ両耳型の有肩打製石斧が出土したが、さらに寺崎遺跡E地点からも、同じく両耳型の有肩石斧が1点検出された。そして、前述した西都原資料館内の西都市からの移管資料の中にも、西都原周辺出土の有肩打製石斧として、11点が展示してある。形式は、両耳型が5点、広刃型が6点となっている。

それから、先にふれた乙益氏は、その論考の中で、筆者らが発掘調査した高鍋町上別府遺跡の第4住居址(古墳時代)の中から両耳型の有肩打製石斧が出土したと報告されていることについて考察され、古墳時代後期の遺跡からの有肩石器出土は納得がいかない

ことが記されているが、その後、検討した結果、この上別府遺跡の住居址内出土の石器類については、すぐ隣接して弥生終末期の遺跡が確認されていること、それに、住居址の上部は削平されて深さも浅くなっていることなどから、この古墳時代住居址内からの出土石器類は隣接弥生遺跡からの混入とみなした方が適切と思われる。

さて、それでは、この新立遺跡および西都地方から数多く出土する南九州特有の有肩打製石斧について、東アジア的観点から考察を進めてみたいと思う。

ところで、この有肩石斧については、すでに、戦前に林津正志氏それに松本信広氏が、それぞれ東南アジアに関する考古学関係書あるいは同地域の民族学関連の著作の中で考究されているが、特に、松本氏が著された『印度支那の民族と文化』の中での、中国浙江省杭州所在の西湖博物館蔵の有肩石器の図版は、南九州出土の有肩打製石斧と最も関連性を有する資料として注目されているが、たまたま、筆者は、昨年（1991年）華南地方の踏査旅行（団長、斎藤忠博士）において、広東省広州市の広州博物館を視察する機会を得たが、そこで展示品の中に、その地方出土の有肩石斧が5点公開してあるのが目にとまった。中国関係の有肩石斧については現在、文献資料でも容易に見出せない中にあって、現物を見ることができたことは幸運であった。その型式は、新立遺跡でも出土している広刃型の様式に類似していた。

この広州地方は、古代中国では南越王国と称された地方で、中国江南文化に関連の深い地域である。このように、中国華南地方で、杭州と広州に所在する博物館蔵として有肩石斧が存在することは、今後、有肩打製石斧を考察してゆく上で貴重な資料になると思う。

以上、西都原台地上に所在する新立遺跡についての考察を行ってきたが、その住居址群の存在、また多量の弥生土器および南九州特有の石器の出土など、この遺跡の重要性を認識することができたが、さらに、この遺跡が、西都原古墳群形成の直前の時期にあることもひとしお、その感を深くしたのである。特に前期古墳としての柄鏡式古墳の存在とこの新立遺跡との関連については、今後、一層検討を加えてみたいと思う。

註

- (1) 西都市教育委員会『西都市・埋蔵文化財発掘調査報告書』 第1集 1985年5月
上に同じ 『西都原古墳研究所・年報』 第2号 1985年3月
- (2) 上に同じ 『丸山遺跡』 西都市埋蔵文化財発掘調査報告書、第9集 1990年3月
- (3) 西都市 「原口遺跡」 『西都市の歴史』 1976年9月
- (4) 註(1)に同じ
- (5) 日高正晴 「西都原古墳文化考」 『西都原古墳研究所年報・第5号』 西都市教育委員会
1988年3月
- (6) 西都市教育委員会「串木第2遺跡」
『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』 第15集 1991年3月

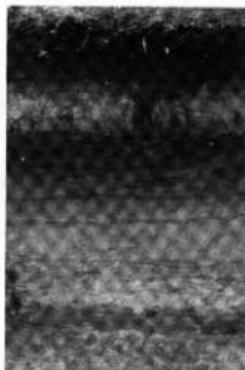
- (7) 宮崎県教育委員会 「東平下1号円形周溝墓」
『宮崎県文化財調査報告書』 第29集 1986年
- (8) 九州文化総合研究所 『安国寺遺跡の調査』 1958年3月
- (9) 国東町教育委員会 『安国寺遺跡』 大分県・国東町文化財調査報告書、第4集 1989年3月
- (10) (8)の註に同じ
- (11) 乙益重隆 「有肩打製石器小考」『日本史の黎明』八幡一郎先生頌寿記念考古学論集
1985年3月
- (12) 西都市教育委員会 「串木第2遺跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』
第15集 1991年3月
- (13) 宮崎県教育委員会 「上別府遺跡」
お染ヶ岡地区特殊農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書
1979年3月
- (14) 桑津正志 『印度支那の原始文明』 河出書房 1943年3月
- 上に同じ 『大平洋の古代文明』 上に同じ 1945年4月
- (15) 松本信広 『印度支那の民族と文化』 岩波書店 1942年11月

図 版

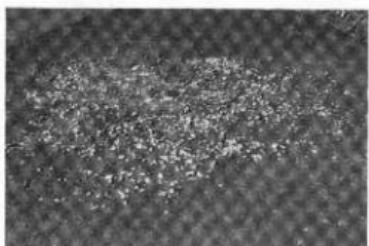
図版 1



新立遺跡遠景
(北側国道 219 号線より)



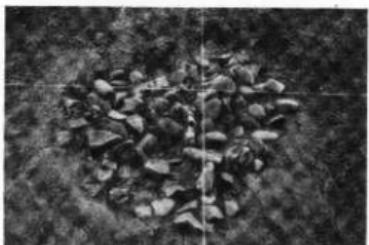
基本土層



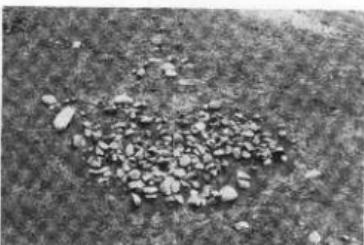
散碟群検出状況



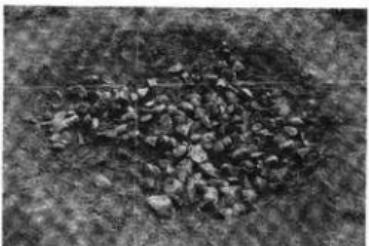
1号集石遺構検出状況



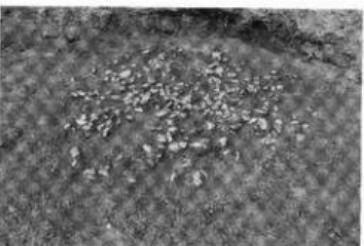
2号集石遺構検出状況



3号集石遺構検出状況

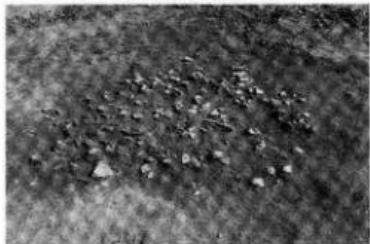


4号集石遺構検出状況



5号集石遺構検出状況

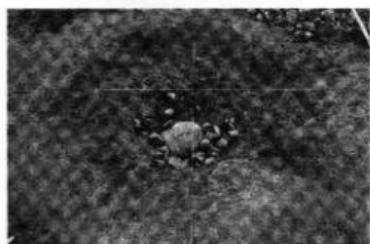
図版 2



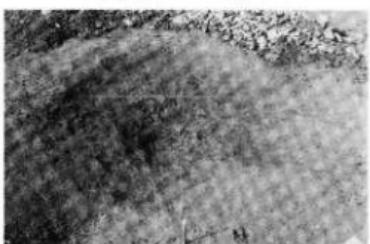
6号集石遺構検出状況



7号集石遺構検出状況



7号集石遺構底部検出状況



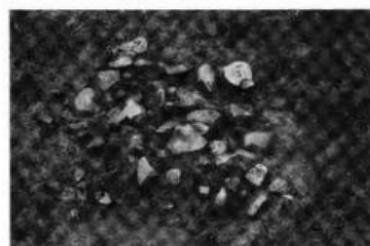
7号集石底面検出状況



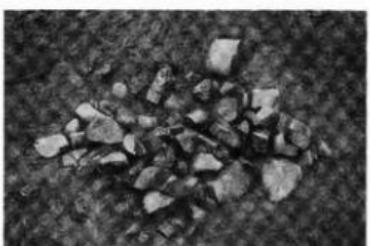
8号集石遺構検出状況



9号集石遺構検出状況



10号集石遺構検出状況



11号集石遺構検出状況

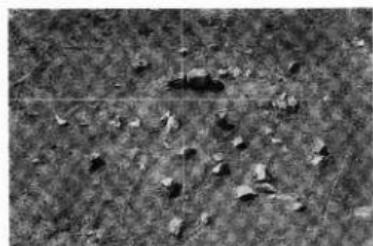
図版 3



12号集石遺構検出状況



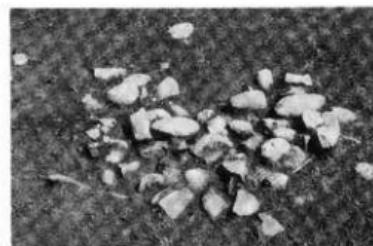
13号集石遺構検出状況



14号集石遺構検出状況



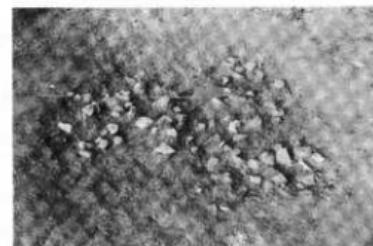
15号集石遺構検出状況



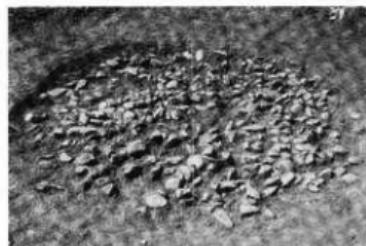
16号集石遺構検出状況



17、19号集石遺構検出状況

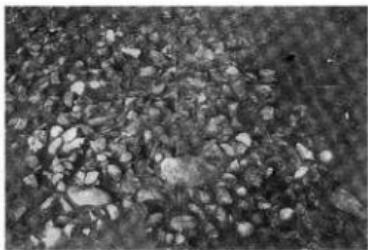


集石遺構分布状況（北西部より）

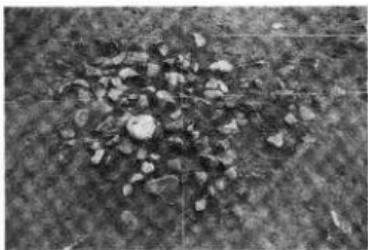


20号集石遺構検出状況

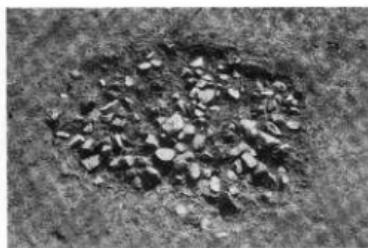
図版 4



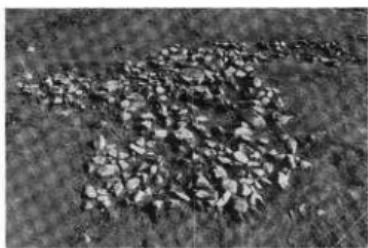
21号集石遺構検出状況



22号集石遺構検出状況



23号集石遺構検出状況



24～27号集石遺構検出状況



28号集石遺構検出状況



29号集石検出状況



集石遺構分布状況（北西部より）

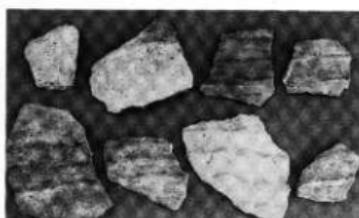


集石遺構検出状況（南西部より）

図版 5



① ~ ⑧



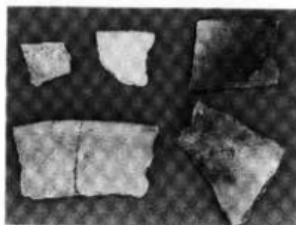
⑨ ~ ⑯



⑰ ~ ㉓



㉔ ~ ㉘



㉙ ~ ㉜



㉖



㉗ ~ ㉚



㉛ ㉜

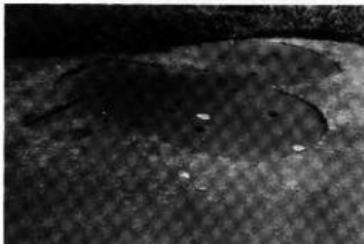
図版 6



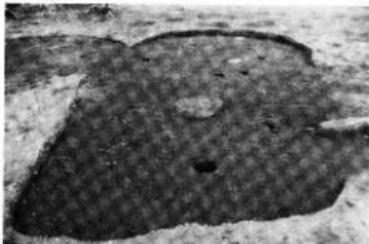
・住居址分布状況
(北西部より)



・住居址分布状況
(南東部より)



1号・20号住居址検出状況

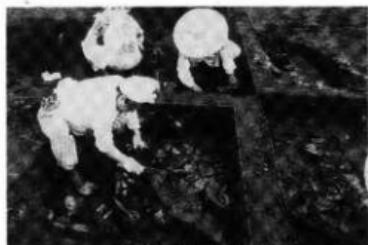


20号住居址検出状況

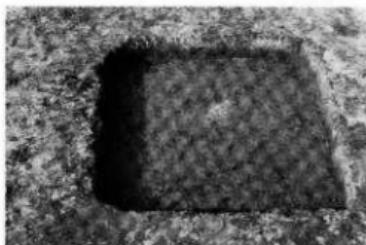


2号住居址遺物検出状況

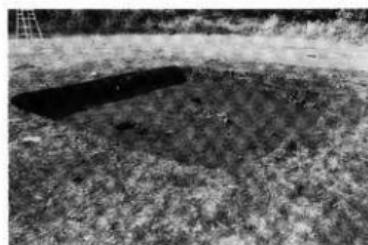
図版 7



2号住居址検出風景



2号住居址検出状況



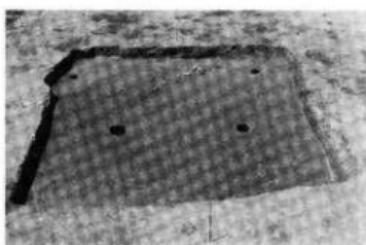
3号・4号住居址検出状況



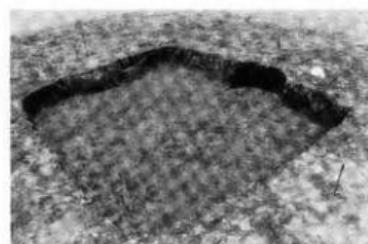
5号住居址検出状況



6号・7号住居址検出状況



8号住居址検出状況



9号住居址検出状況



10号住居址遺物検出状況

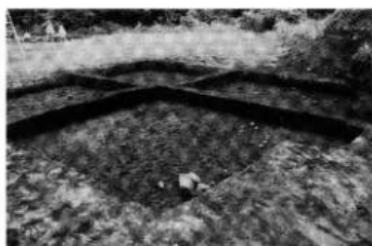
図版 8



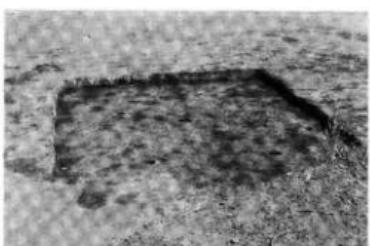
10号住居址二重口縁壺検出状況



10号住居址検出状況



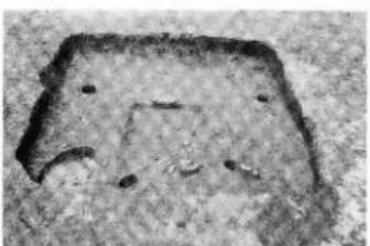
11号住居址遺物検出状況



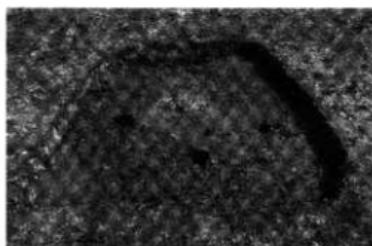
11号住居址検出状況



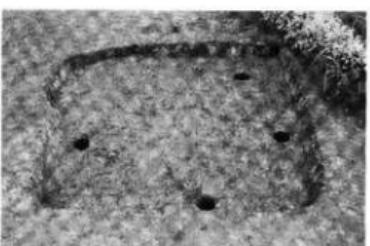
12号住居址遺物検出状況



13号住居址検出状況

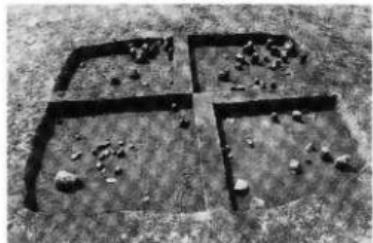


14号住居址検出状況

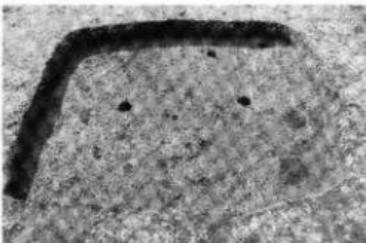


15号住居址検出状況

図版 9



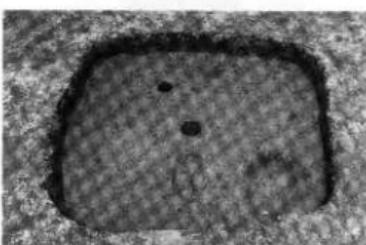
16号住居址遺物検出状況



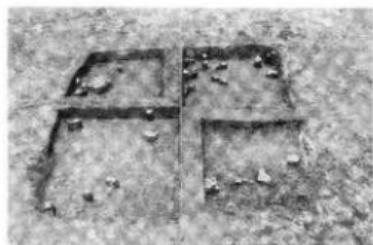
16号住居址検出状況



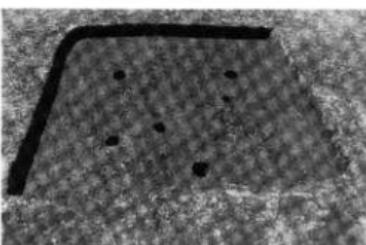
17号住居址検出風景



17号住居址検出状況



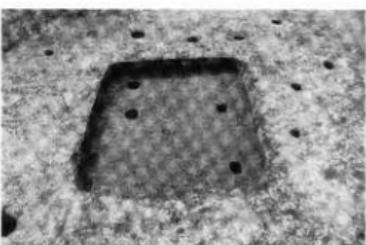
18号住居址遺物検出状況



18号住居址検出状況



18号住居址遺物検出状況



19号住居址検出状況

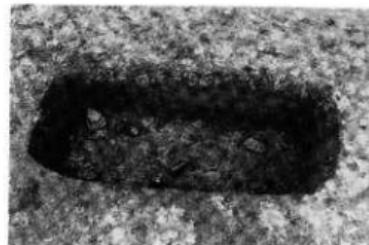
図版 10



遺構分布状況



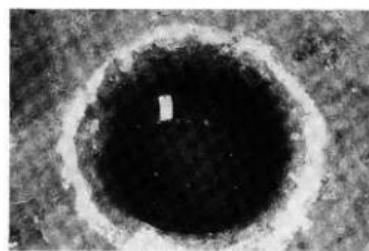
4号方形土坑検出状況



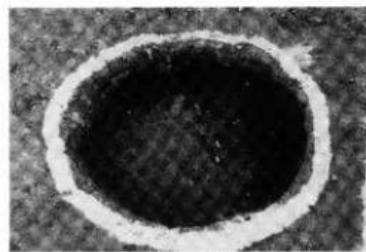
5号方形土坑検出状況



組石(配石状) 遺構検出状況



円形土坑検出状況



円形土坑検出状況



旧石器層確認調査

図版 11

1号住居址



①

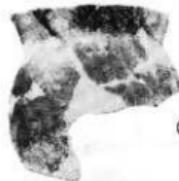


②



③

20号住居址



④



⑤



⑥



⑦

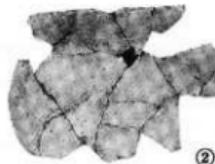


⑧

2号住居址



①



②



③



⑤



⑥



⑦



④



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯



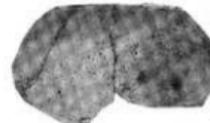
⑰



⑯



⑯

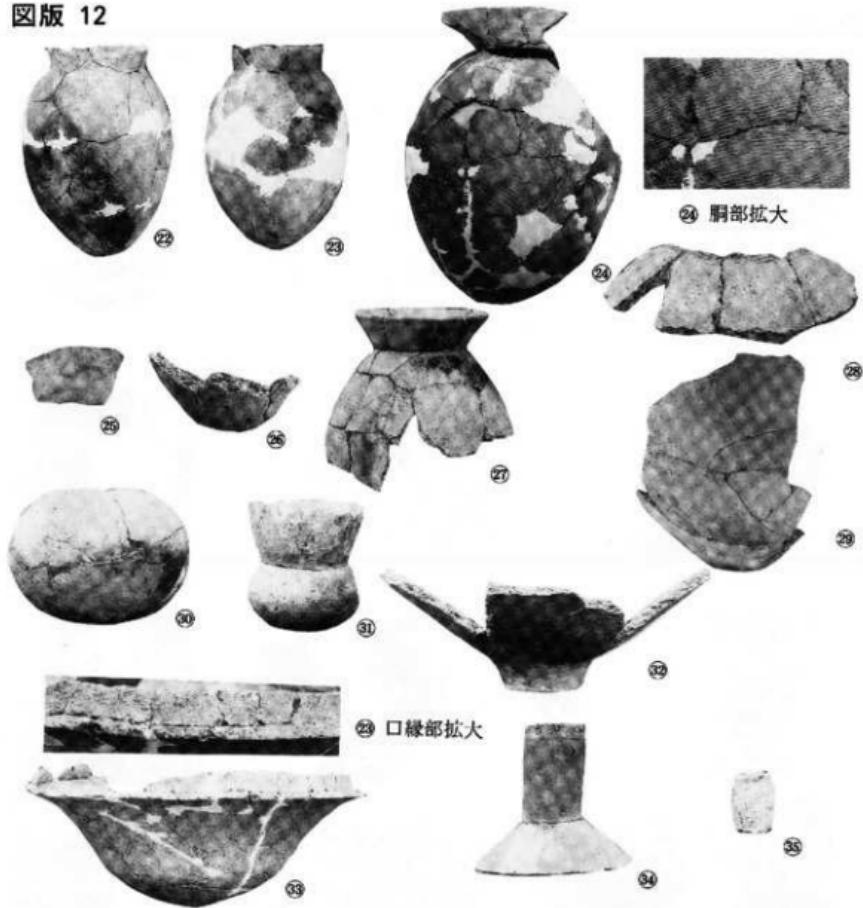


⑯

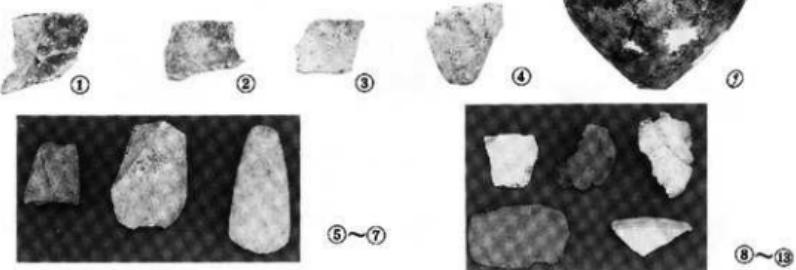


㉑

図版 12



3号・4号住居



图版 13

5号・6号住居址



①～④

⑤



⑥
⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫

5号住居址 (①～⑫)



⑬



⑭



⑮



⑯



⑰



⑱



⑲



⑳



㉑

6号住居址 (⑬～㉑)

7号住居址



①～④



⑤



⑥



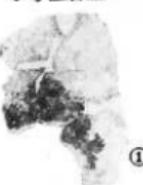
⑧



⑦

⑨

8号住居址



①



②



③



④

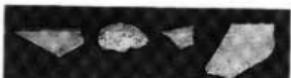


⑤

9号住居址



①



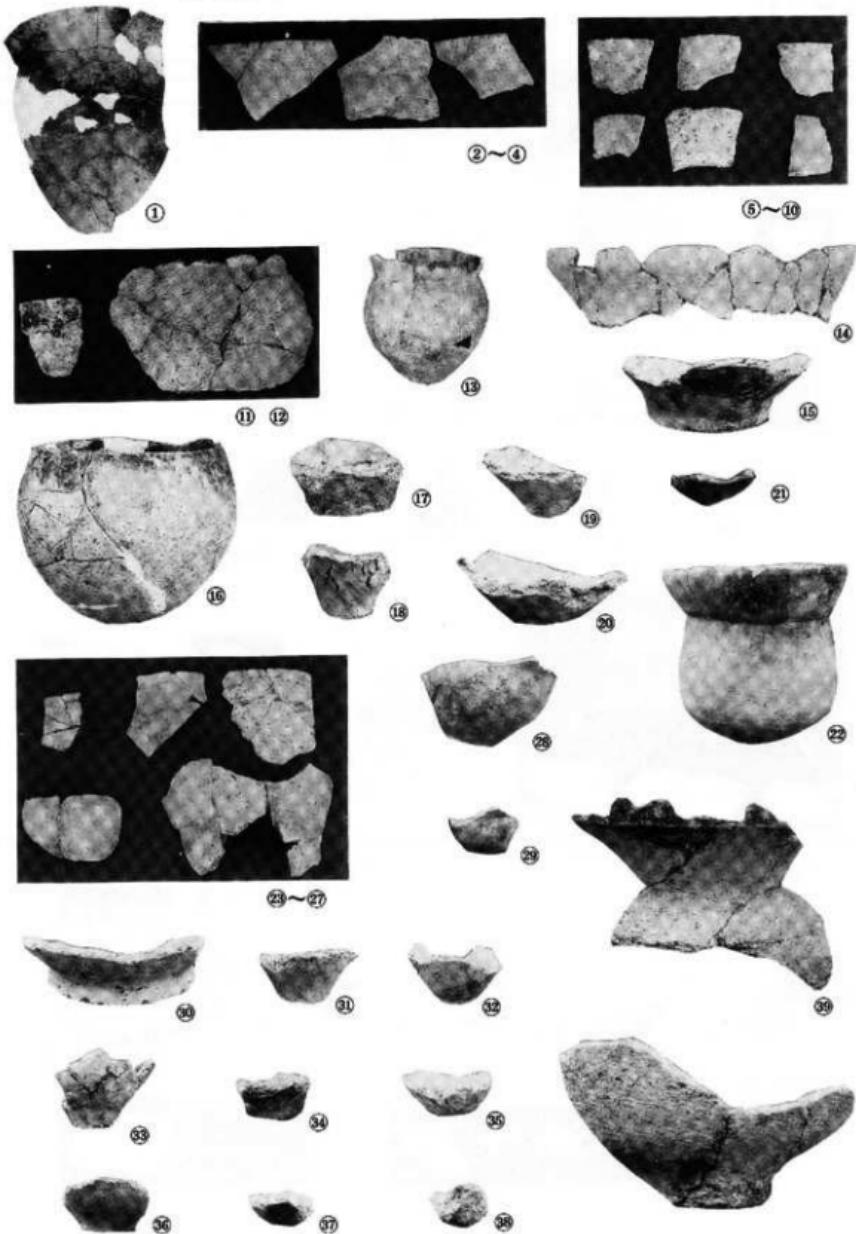
②～⑤



⑥～⑧

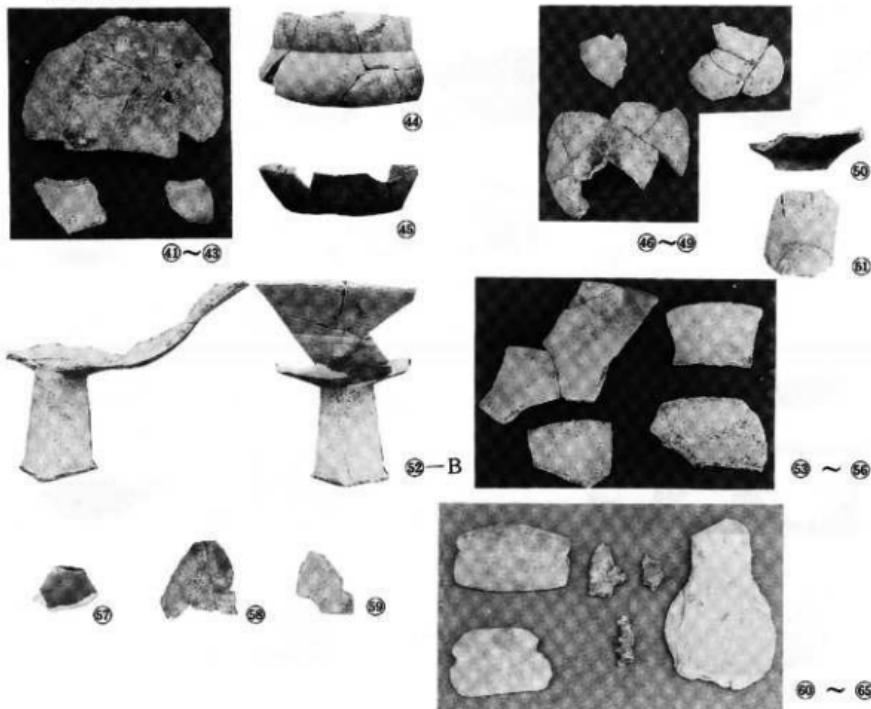
図版 14

10号住居址

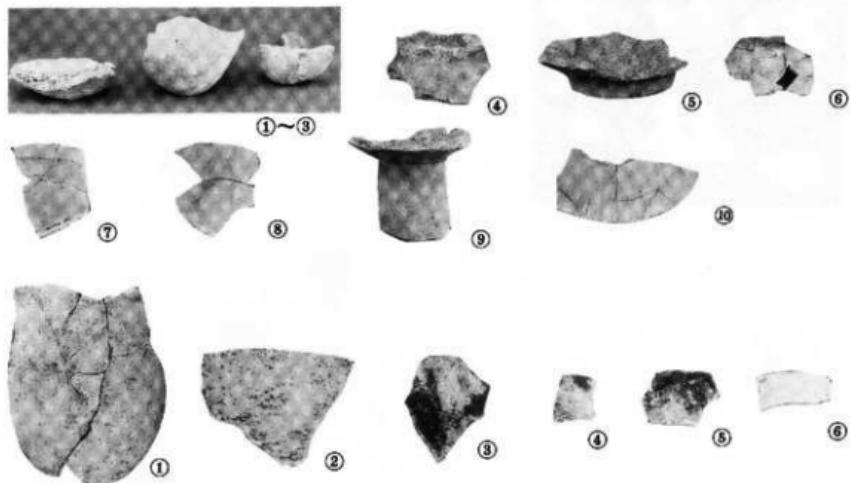


図版 15

10号住居址

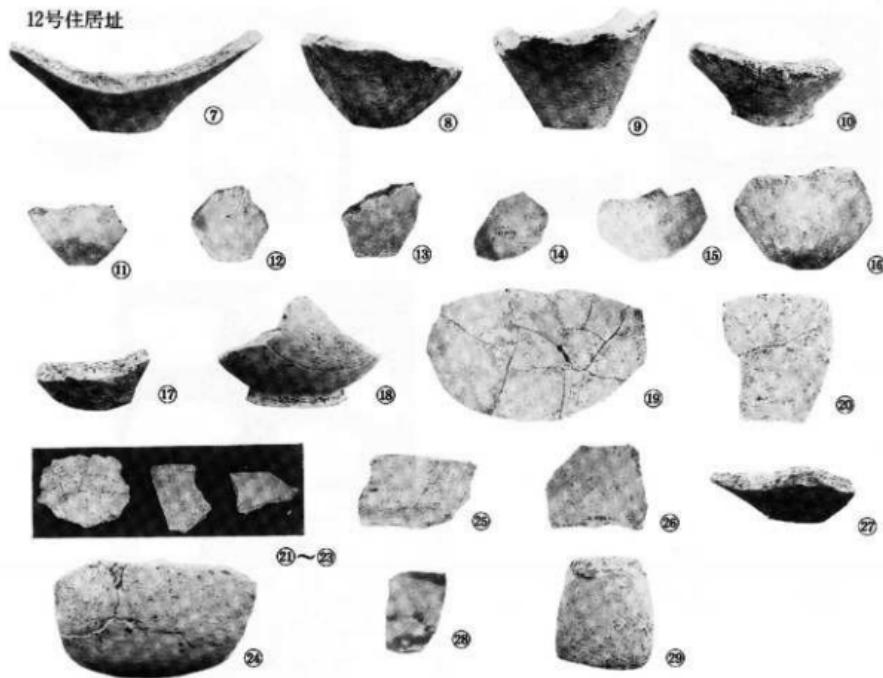


11号住居址

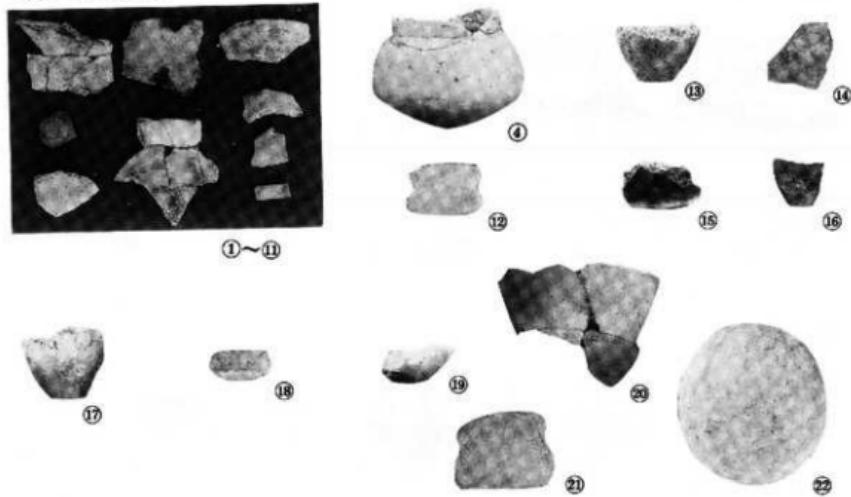


図版 16

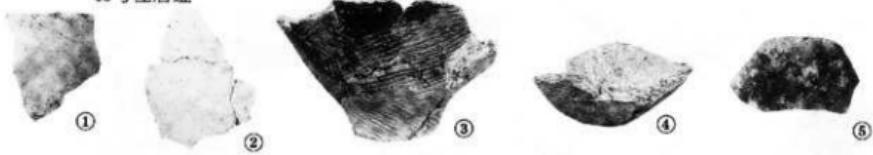
12号住居址



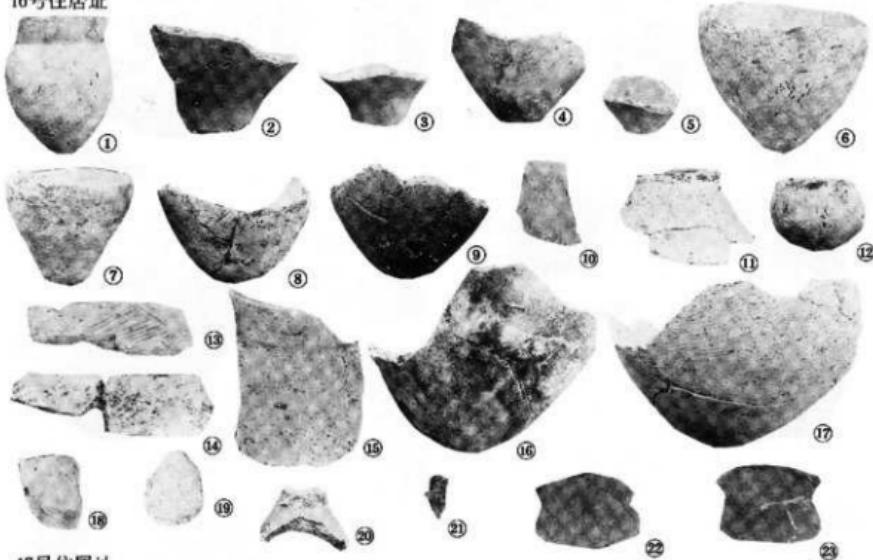
13号・14号住居址



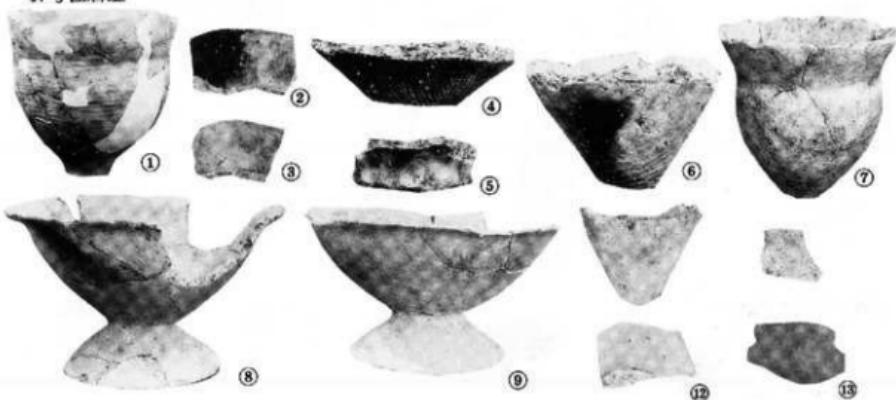
図版 17 15号住居址



16号住居址

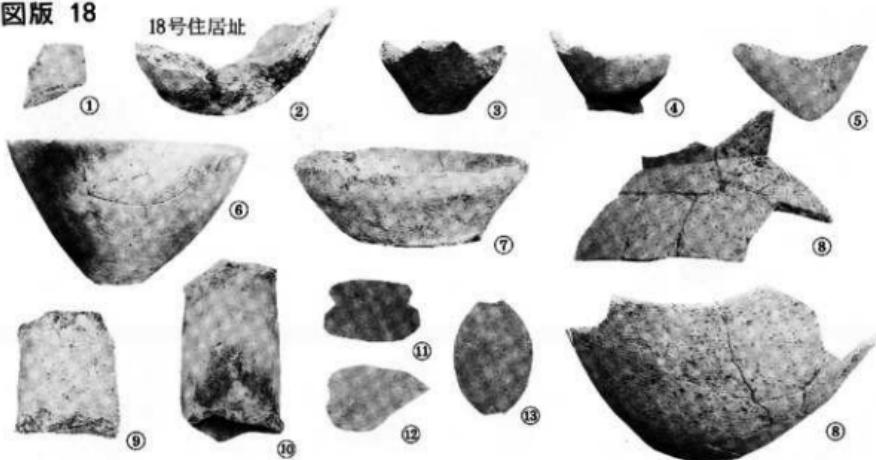


17号住居址

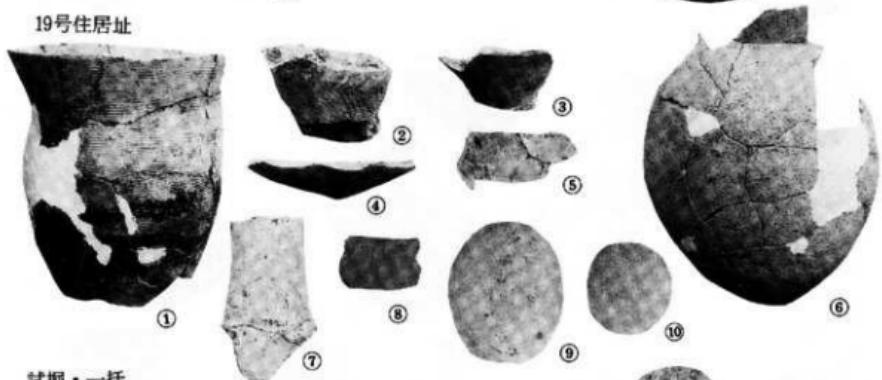


図版 18

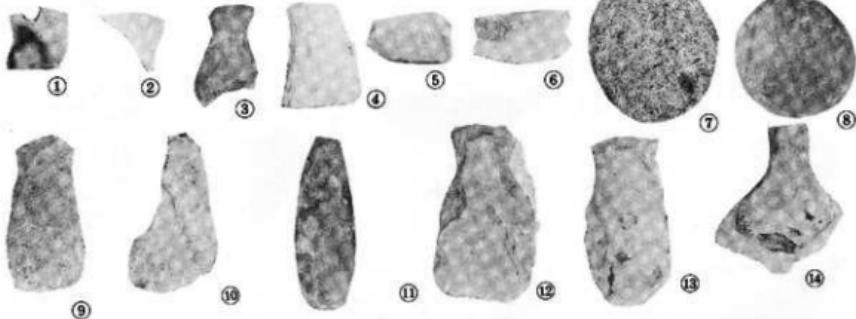
18号住居址



19号住居址



試掘・一括



方形状土坑・柱状



西都市 埋蔵文化財発掘調査報告書 第18集

発行年月日 平成4年3月31日

編 集 西都原古墳研究所

発 行 西都市教育委員会

印 刷 ふくしげ印刷

